

JFA news

特集

育成年代のフィジカル

NO.47
2024.
月情報号



菅野淳 JFAフィジカルフィットネスプロジェクトリーダー
アンダーカテゴリー日本代表の取り組み
村岡誠 前U-17日本代表フィジカルコーチ
山田庸 U-17日本女子代表フィジカルコーチ

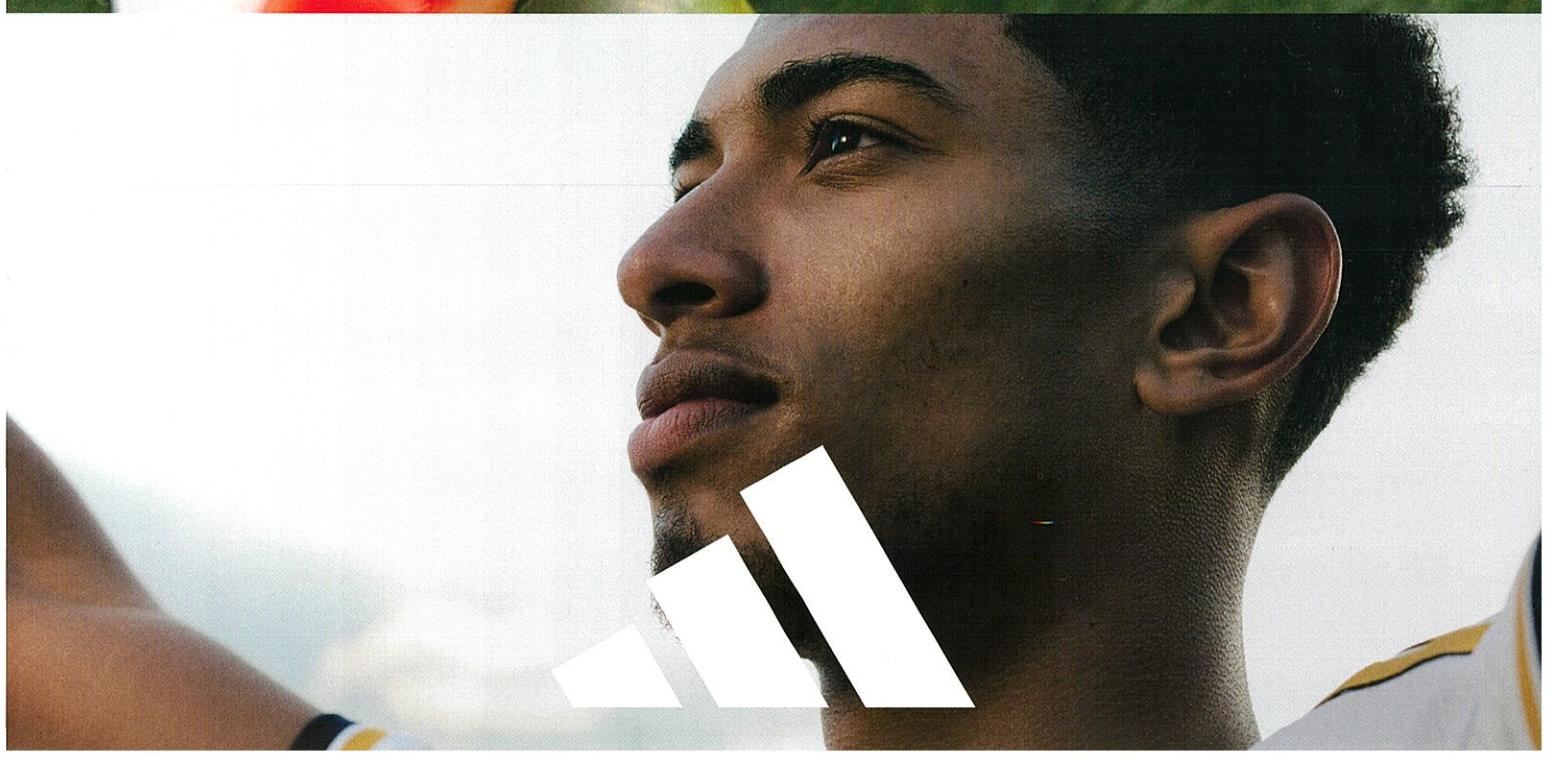
選手に聞く
谷川萌々子選手(FCローゼンゴード)×古賀塔子選手(フェイエノールト)



ゴール至上主義



PREDATOR



JFA news No.478

2024 2月情報号

特集

育成年代のフィジカル



CONTENTS

- 004 菅野淳 JFAフィジカルフィットネスプロジェクトリーダー
007 アンダーカテゴリー日本代表の取り組み
　　村岡誠 前U-17日本代表フィジカルコーチ
　　山田庸 U-17日本女子代表フィジカルコーチ
011 選手に聞く
　　谷川萌々子選手(FCローゼンゴード)×古賀塔子選手(フェイエノールト)
014 フィジカルフィットネス案内所

大会・試合

- 066 皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会
068 令和5年度 第102回全国高等学校サッカー選手権大会
069 第32回全日本大学女子サッカー選手権大会
070 第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会
072 JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会
073 JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会
074 JFA 第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会
075 日本女子フットサルリーグ2023-2024

記録集

- 056 皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会

特別企画

- 077 野々村芳和Jリーグチェアマンインタビュー
　　全ての戦略がフットボールの発展につながっている

連載

- 018 隔月連載 JFAホットスポット
　　「JFAエリートプログラムU-14
～4年ぶりに韓国遠征を実施」
019 隔月連載 フットサル語り場
　　大森知 フットサル日本女子代表フィジカルコーチ
　　「フィジカルトレーニングの前に
自分の体の状態を把握しよう」
020 隔月連載 メディカルROOM
　　土肥美智子 JFA医学委員会委員
　　「食物アレルギーとアナフィラキシー」
021 隔月連載 サッカー心育論
　　中山雅雄
　　「人との関わりの中で育む」
022 日本全国FAコーチ巡り
　　滋賀県サッカー協会
　　「滋賀県サッカーに関わる皆さんと
同じ目線で活動し続けたい」
024 いつも心にリスペクト
　　大住良之
　　「その国の文化の中にあるリスペクト」
017 JFA情報発信局
025 月刊レポート
030 蹤球通信
035 会議レポート
044 データボックス
065 サッカーファミリー広場
080 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真:
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walinx



JFAは社会課題解決に向けた活動
「アスピア!」に取り組んでいます。これは“地球(earth)の未来(明日)のために
私たち(us)がつなぐバス”的な意を込めた造語でサッカーファミリーが世代
や時代を超えて“バスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ ● スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤースタート ● 選手にとっての最善を考えること
フェア ● オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ ● 成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト ● 関わりのあるすべてを大切に思うこと



dunhill





[特集] 育成年代のフィジカル

パフォーマンス

は

フィジカルの強さ

に比例する

選手がピッチ上で最大限のパフォーマンスを発揮するためには、強固なフィジカルが必要だ。けが予防にもフィジカル強化は有効で、それも10代から取り組むことが良いとされている。

「世界で戦えるフィジカルフィットネスの構築」と「個人の特性に合ったフィジカルフィットネス要素の向上」をテーマに掲げるJFAフィジカルフィットネスプロジェクト。

今号では、同プロジェクトの菅野淳リーダーとアンダーカテゴリー日本代表(男女)に携わってきたコーチ、また、今年1月から海外に活動の場を移した、JFAアカデミー福島出身の谷川萌々子選手と古賀塔子選手にもインタビューを実施した。

成長への最適解はない
だからこそ考える

— JFA フィジカルフィットネス
プロジェクトは「世界で戦える
協会（JFA）が「Japan's Way」
を策定する前から、サッカーに関わ
る全員がサッカーを楽しめ

と「個人の特性に合ったフィジ
カルフィットネス要素の向上」を
テーマに掲げています。

— フィジカルに関する指導者の
意識はいかがですか。

菅野 指導者自身が日本サッカー
の潜在能力についてまだ懐疑的

— フィジカルフィットネスの構築
は、サッカーの根幹をつかさどる、極
めて重要な要素と言えます。

菅野 いくら技術があつても、走
力がなければそれを発揮すること
ができません。監督が「今日の試
合では高い位置から守備にいこう」
と言つたとき、選手の体力が足り
ず、いざシートを打つときに力が
入らなかつたでは戦術は成り立た
ない。そういう意味でフィジカル
はサッカーの根幹をつかさどる、極
めて重要な要素と言えます。

菅野 戰えると発信しています。
もちろん、課題もあります。2
年前のFIFAワールドカップ（カ
タール）のデータを見ると、日本は
時速20キロ以上の高強度ランニ
ングの距離でクロアチアを下回つ
ていました。ファイナリストのアル
ゼンチンとフランスと比べても低

— 講習会に参加している方々の
反応はいかがですか。

菅野 講習会では、「このトレ

育成年代の フィジカル まずは 考えることから 始めよう！

菅野 淳

JFA フィジカルフィットネスプロジェクトリーダー

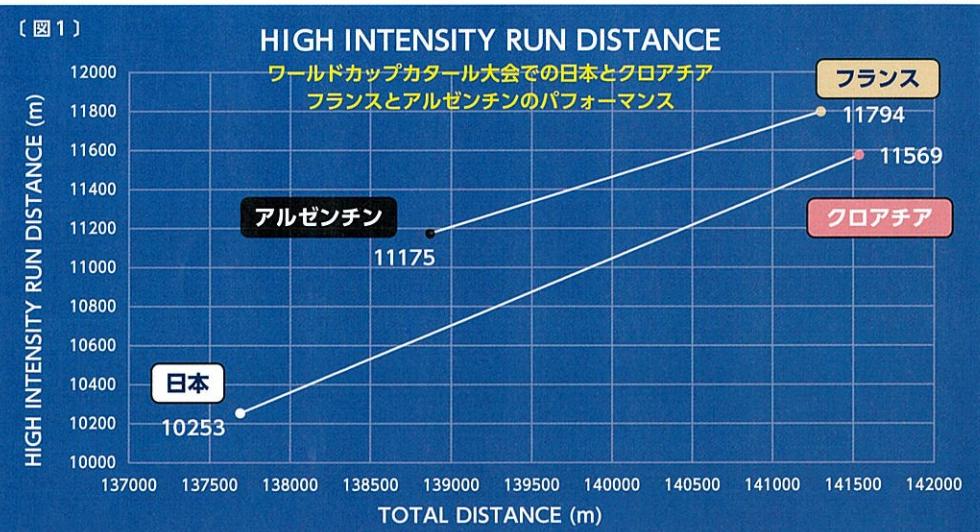
日本サッカー協会（JFA）のフィジカルフィットネスプロジェクトを統括し、昨年はU-20日本代表のフィジカルコーチを務めた菅野淳リーダーに、育成年代の選手と指導者が取り組むべきフィジカル強化について話を聞いた。

○取材日：2024年1月17日

る全ての人々がサッカーを楽しめ
るようにフィジカルフィットネス
の側面からアプローチするという
目標を掲げています。エリートユース
やアンダーカテゴリーの代表に入
るような選手に対しては、選手が持つ
ている技術を最大限に發揮するため
にフィジカルの基盤をつくりまし
ょうということ。また、あらゆるレベル
の選手が、サッカーを長く楽しむために一定の体の強さを身につけることを指してお
り、サッカーファミリー全員にプログ
ラムを提供することを大きなテーマとしています。

— 現代サッカーでは、フィジカ
ルはどれくらいのウエイトを占め
ますか。

菅野 いくら技術があつても、走
力がなければそれを発揮すること
ができません。監督が「今日の試
合では高い位置から守備にいこう」
と言つたとき、選手の体力が足り
ず、いざシートを打つときに力が
入らなかつたでは戦術は成り立た
ない。そういう意味でフィジカル
はサッカーの根幹をつかさどる、極
めて重要な要素と言えます。





——一人一人の資質や体質が異なるからこそ、まずは試して、選手に合ったものを見つけようということですね。

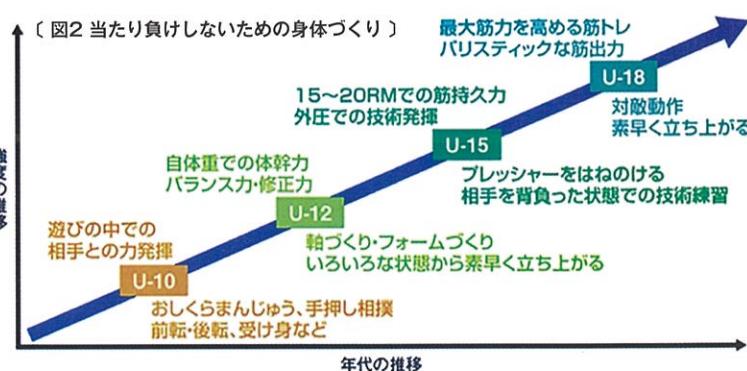
——育成年代からファイジカルを強化することの重要性をどのように捉えていますか。

10代の成長は早い
体験することがポイント

そ
一

菅野 関心がある一方で、皆さん正解が知りたいようです。われわれが意図しているのは、自チームでやってみてどうだったかということ。講習会では、やってみてどうだったか、ダメだったらまた別のチャレンジをしてみるというように皆さんとの試みを共有し、新たな取り組みを考えるためのきっかけを作ってくれたらと考えています。食事やトレーニングメニューにして、最適解はありません。だからこそですね。

菅野 関心がある一方で、皆さん正解が知りたいようです。われわれが意図しているのは、自チームでやってみてどうだったかということ。講習会では、やってみてどうだったか、ダメだったらまた別のチャレンジをしてみるというよう取り組みを考えるためのきっかけをつくれたらと考えています。食事やトレーニングメニューにしても、最適解はありません。だからこそ手になりたい」という希望を実現するのが指導者の役割です。そのためには、指導者側にサイエンスリテラシーが必要になります。特にP D C A (P l a n / 計画、D o / 実行、C heck / 評価、A ction / 改善)サイクルの「C」が大事で、選手たちに施したトレーニングは効果があつたかをさまざまな角度から検証し、運任せではなく再現性を持つてトレーニングすることが一番になります。選手の「こんななトレーニングがしたい」「こういう選手になります」という希望を実現するものが指導者の役割です。



ニングは育成年代にも応用できるか」「この年代では何を食べるべきか」など質問がたくさん出ます。皆さん、指導者ですので、自チームで生かすにはどうすればいいのかという視点で質問をしてくださいます。

「フィジカルリテラシー」です。理想の選手像に近づくためには、選手自身がまず考えることです。選手が自分に合ったセルフコンディショニングができるようになり、ファジィカル測定などのデータから成長すべき点を見つけたとき、今

感じ取って、いかに自分の力を發揮するかという、将来身につけるべきパワーにつなげることです。成長期の真っただ中にいるU-15年代もフィジカルを養うことはできます。バスやヘディングの基礎練習をするとき、相手から引っ張ら

——育成年代の選手の意識は変化しているですか。

菅野 少しずつですが、確実に変化していると思います。われわれは

菅野　選手が世界で戦うことを考
えたとき、U-18年代で体を鍛え始
めるのでは遅過ぎます。そこで、例
えばU-10年代の場合には、相撲や力
比べなど、遊びながら相手の力を

——けがの予防にも役立ちそうですね。

感じ取って、いかに自分の力を發揮するかという、将来身につけるべきパワーにつなげるということです。成長期の真っただ中にいるU-15年代もフィジカルを養うことはできます。バスやヘディングの基礎練習をするとき、相手から引っ張られたり、押されたりなど、相手のプレッシャーを受けながら技術を發揮する習慣を身につけていくものですよね。工夫次第で単純な練習がもっと楽しく、しかも未来に役立つものになります。

——育成年代の選手の意識は変化していますか。

菅野 少しずつですが、確実に変化していると思います。われわれは指導者養成講習会をはじめ、あらゆる場所でB.M.I（体格指数）を意識しましようとしています。身長を伸ばすことはできなくても、体重を増やすことはできる。しっかりと食べて鍛えれば、強い体をつくることができます。ですから、各年代

JFAアカデミー福島の選手たちは、まずは転び方のトレーニングをします。近年、学校の体育の時間にマット運動の時間が減少していることもあります。最近は前転ができる子も多い。それでも取り組んでいくうちに少しづつ上手になり、4、5日後には前回り受け身をしてから、スッと立ち上がって走れるようになります。10歳前後の子どもはこうした動きをすぐに身

菅野 ファイジカル強化というと、体幹トレーニングや筋トレをイメージするかと思います。でも、相手との1対1を制する、相手とのコンタクトに勝つということを考えたときに、けがをしない軽び方や転んだり後ろに落としたり立つ動作の必要性です。

昨年、Jクラブのアカデミーを訪れたりとき、選手たちがバス交換をしながらB.M.I.の話をしていたと聞いていますので、少しづつ浸透してきているのではないかと思います。

つものになります。

感じ取れて、いかに自分の力を發揮していくかが大事です。パワーにつなげることで、将来身につけるべき成長期の真っただ中にいるU-15年代もフィジカルを養うことはできます。バスやヘディングの基礎練習をするとき、相手から引っ張られたり、押されたりなど、相手のプレッシャーを受けながら技術を発揮する習慣を身につけていくものですよね。工夫次第で単純な練習がもつと楽しく、しかも未来に役立つます。

——育成年代の選手の意識は変化していますか。

菅野 少しずつですが、確実に変化していると思います。われわれは指導者養成講習会をはじめ、あらゆる場所でBMI（体格指数）を意識しましようと言えています。身長を伸ばすことはできなくとも、体重を増やすことはできる。しっかりと

菅野 もちろん。例えば、富安健洋選手や板倉滉選手は体格が良くて、対人プレーも強い。久保健英選手はファジィカル強化の成果もあって、最近、体の厚みが増しています。

——サムライブルー（日本代表）の活躍も、10代の選手たちが体を鍛えるきっかけになるのでしょうか。

5 JEAnews 2024年2月情報号

ナーとして同行しています。食事のとき、久保選手が彼らに筋トレの必要性について話をしてくれたそうです。国内でプレーしているだけではそこに気づくことはできなけれど、それを海外でプレーしている日本代表選手から教えてもらうのはとても大きいと思います。



体を相手に当てつつ片足で自分の体重を支えること、相手に体を寄せられた状態でボールをキープするなど、育成年代の日本代表も基礎的なところからフィジカルを鍛えている

——普段、国際大会を経験できない選手たちに、フィジカルを強化することの重要性をどう伝えていらっしゃるか。

遊びの中から きつかけが生まれる

——菅野リーダーは昨年、FIFA U-20ワールドカップにU-20日本代表のフィジカルコーチとして参加されました。

菅野 U-20日本代表はボテンシャルの高い集団でした。スピードもあるし、松木玖生選手のようにフィジカルの強い選手もいて、力を発揮できれば優勝もあり得るの

——選手たちに、フィジカルを強化することの重要性をどう伝えていらっしゃるか。

菅野 一つは情報発信を続けること、もう一つは実際に体を動かすための場を設けることでしょう。JFAは今年4月から、フットボールを学びたいと考えている人を対

——菅野リーダーは昨年、FIFA U-20ワールドカップにU-20日本代表のフィジカルコーチとして参加されました。

菅野 指導者に伝えたいことはありますか。

菅野 育成年代で技術を突き詰め

——それは、フィジカルも含めてということですか。

菅野 冒頭で、技術はフィジカルがあつてこそ発揮できると話しましたが、そのフィジカルも判断が伴つたときがより効果的です。技術もフィジカルも判断力も、全て相互に作用していると思いますし、選手の技術やスピードやパワーをいつ、どのように発揮するか、「出力」の仕方を突き詰めて考えなければ感

——指揮者に伝えたいことはありますか。

菅野 指導者のアプローチは選手のレベルや年代によって異なりますが、最初から正解を探すのではなく、まずは選手にどんな働きかけをしたいかを考え、さまざまなトレーニングを試してみましょう、と伝えます。10歳前後の子どもならば、レスリングや相撲をやってもいい。遊びの中で、自分のフィジカルに興味を持つきっかけを子どもたちに与えてほしいですね。その過程で

——TIRELESSマルチスポーツチャレンジ2023 in 三重」というイベントを行い、「走る」「跳る」「跳ぶ」「投げる」といった基本動作を、サッカー、陸上、バスケットボールの体験を通して楽しく習得してもらいました。光電管計測装置を使って30メートル走のタイムを測定するなど、半数くらいの子どもが1回目より2回目の方が速くなっています。しかし、誰もが「楽しかった」と帰途についてくれたことが何よりも嬉しいです。

菅野 指導者に伝えたいことはありますか。

菅野 指導者のアプローチは選手のレベルや年代によって異なりますが、最初から正解を探すのではなく、まずは選手にどんな働きかけをしたいかを考え、さまざまなトレーニングを試してみましょう、と伝えます。10歳前後の子どもならば、レスリングや相撲をやってもいい。遊びの中で、自分のフィジカルに興味を持つきっかけを子どもたちに与えてほしいですね。その過程で

象としたオンライン講座「JFA フットボール大学」を開講すべく準備を進めています。そこでは子ども向けの栄養講座やトレーニングに関する情報を提供していきたいと考えています。

昨年11月と12月には、小学生を対象に「JFA × TOYO TIRESマルチスポーツチャレンジ2023 in 三重」というイベントを行いました。相手が本気でボールを奪いと考へています。

印象に残っているのは、グルーピング第2戦で対戦したコロンビアとの一戦です。相手はこちらがボールを奪いにくくと緩急をつけ素早くかわしたり、こちらの逆を

つい一気に攻めたりと、駆け引きの中で体の使い方が一枚上手という印象を受けました。純粋にパワーやスピードだけを見れば、戦いの中で今は何をするべきかという判断が足りなかつたのかもしれません。

——選手の判断力が全てですが、頃からその判断力を養う練習が必要です。いつも考える習慣が身につくようなトレーニングを施してもらおうことが理想です。

菅野 残念ながらノックアウトステージに進むことができませんでした。止めて蹴る技術など、一つ一つのプレーの水準が上がっています。それでも、相手が本気でボールを奪いに来たときや、でこぼこのグラウンドで試合をするときなど、その時々の状況に応じて柔軟に対応できるようにしてほしいです。ピッチでは選手の判断力が全てですし、日頃からその判断力を養う練習が必要です。

菅野 いつも考える習慣が身につくようになれば、自分たちの特徴を

菅野 きれいなサッカーができるとは限りません。近年の選手は、ボールを

菅野 残すこと。それらを残し続けることによって選手個々の特徴や変化が見えてくるでしょう。

菅野 一昔前は全員でバス練習をして、全員でシュート練習をして最後は紅白戦を行うというのが一般的でした。ここ数年はポジションごとに、あるいは個人でのトレーニングを課すチームも増えています。今後10年でその流れが加速したとき、指導者は選手一人一人の個々の特徴を伸ばすことが、自らの指導力を高めることにもつながるのではないか

菅野 きれいなサッカーができるとは限

菅野 残すこと。それらを残し続けることによって選手個々の特徴や変化が見えてくるでしょう。

菅野 一昔前は全員でバス練習をして、全員でシュート練習をして最後は



アンダーカテゴリー日本代表の取り組み

日本のフィジカルは世界に十分通用する

昨年、U-17日本代表のフィジカルコーチを務め、若き日本代表選手たちをサポートした村岡誠さん（現、ベガルタ仙台フィジカルコーチ）に、フィジカルを鍛えることの重要性について聞いた。

○オンライン取材日：2024年1月13日

MURAOKA Makoto

村岡 誠

前U-17日本代表フィジカルコーチ



練習を積めば
短期間でも成長できる

大会を見て感じることは、
例えば、国内のU-18年代の

村岡さんはフィジカルコーチとして20年以上のキャリアをお持ちです。育成年代でのフィジカル強化の捉え方は変化していますか。

村岡 大きく変化しているように思います。私は20年前、筑波大学蹴球部のフィジカルコーチとして指導者のキャリアをスタートさせました。当時は大学で体を鍛えてからプロに入るという感じでしたが、今は高校卒業と同時にJクラブの即戦力になれるよう、なるべく早いうちに体をつくつておこうという考え方が主流です。特に、トップ・オブ・トップを目指す選手の意識は変わりました。

——それに伴い、フィジカルの定義も変わってきたね。

村岡 GPSをはじめ、選手の走行距離や疲労度を測るテクノロジーが発達し、選手個々を細かく評価できるようになったことが大きいですね。スタミナやスピード、そして強度の高い動きを続けられることは普遍的な要素ですが、現在のフットボールでは求められるものが選手のポジションによって細かく分類されています。その上で、チームとしてのフィジカルも一定程度の水準に達していないと世界と戦うことはできません。

——トレーニングで身につけられるということですね。

村岡 昨年のU-17日本代表でも、ボールのない状態で腰を低くして1対1のぶつかり合いをするなど、ウオーミングアップの延長でかなりコンタクトの練習を入れました。

実際に昨年のFIFA U-17ワールドカップでコンタクトがあったときにマイボールになったかどうかを映像でチェックしたのですが、日本の選手たちは全試合で5割以上、マイボールにしていました。つまり、日本人はフィジカルが弱いわけではなく、トレーニングを積めば短い期間でも強さを備えることができるということなんですね。

一方で懸念されるのは国内の大

会です。選手が強くコンタクトしたとき、相手はフィジカルが弱け

れば倒れますよね。倒した側は、正しいプレーをしたはずなのにファウルを取られてしまうケースもある。ですから、育成年代全体でフィジカルの基準を見直す必要があると思っています。世界と戦うときのスタンダードが、国内ではまだ浸透していないという印象を受けます。

根拠を基に問い合わせれば選手はもつと変わる

——育成年代からフィジカルを強化することや、けがを予防するため知識を備えておくことの大切さをどのように捉えられていますか。

村岡 選手が動いている限り、そこにはフィジカルの要素が絡んでいます。全力で走るときも、何かを押すときもパワーを使っています。何が言いたいかというと、サッカー好きの少年少女が、「日本代表選手になりたい」という夢を持つて高い山を目指すのであれば、技術だけではなくフィジカルが必要だということ。「必要になつてから身につけよう」では遅いのです。前倒しでできることは早めに着手することが大事です。その方法はたくさんありますし、遊びにもフィジカルを鍛える要素や体の可動域を広げる要素が潜んでいます。年齢に応じて体をつくるとい

うことは、技術を磨くことと同じくらい重要だと認識してもらいたいですね。

——少しずつ、しかし着実に体をつくることが大事なんですね。

村岡 昨年のU-17日本代表のBMI（体格指数）は、歴代のU-17日本代表で最も高い数値でした。内側から体をつくるという意味で、この年代の選手には「体は食べたものでつくられる。とにかく食べよう」を伝え続けました。

プロサッカー選手のBMIは23から24・5で、「この先、プロ選手と対戦したいのならば、君たちの体もこの数値に近いところに持つていかないと」と説いた結果、BMIが過去最高になりました。育成年

代の選手もボテンシャルを存分に秘めていると教わりましたし、指導者がしっかりと根拠を示して問い合わせれば、選手も変わると実感しました。

——村岡さんの指導ボリシーを教えてください。

村岡 情報の質やトレーニング方法は時代とともに変化しますので、自分も常に学ぶことを心がけています。プラッシュアップを統一、毎年、前年より優れた指導をすれば、指導者として成長できると信じています。もう一つ大切にしていることは、選手に寄り添ってトレーニングをすることです。メニューを渡して、「これをやつておいて」という態度では信頼関係は生まれません。選手と手を携えて目標に向かうことを大事にして

ループに入るチャンスがある。課題を挙げるとすれば、飛び抜けて速い、スタミナでは誰にも負けないといった、突出した選手がいないことでしょうか。とはいえ、サムライブルー（日本代表）には三苫薫選手や伊東純也選手など強烈な個性を持った選手がいます。彼らは10代の頃からスピードがあったのか。それを検証し、天性の素質であれば、彼らのようなタレントを探さなければなりません。逆にトレーニングすることによって変わるのであれば、その練習を効果的に行うことで、より高いレベルで活躍する選手を生み出せると思います。

——最後に、選手のフィジカルを鍛えたいけれど、一步を踏み出せずに悩んでいる指導者には、どういった言葉をかけられますか。

村岡 同じカテゴリーで自分のちより少し強いチームの練習を見て、自分たちと何が違うのか考えてみてはどうでしょうか。あのチームの選手は自チームの選手と何が違うのか、1年後、彼らのようになるには何をすべきかを考えただけでも意味があると思います。

鍛えたいけれど、一步を踏み出せずに悩んでいる指導者には、どういった言葉をかけられますか。

村岡 同じカテゴリーで自分たちより少し強いチームの練習を見て、自分たちと何が違うのか考えてみてはどうでしょうか。あのチームの選手は自チームの選手と何が違うのか、1年後、彼らのようになるには何をすべきかを考えただけでも意味があると思います。

——最後に、選手のフィジカルを鍛えたいけれど、一步を踏み出せずに悩んでいる指導者には、どういった言葉をかけられますか。

村岡 同じカテゴリーで自分たちより少し強いチームの練習を見て、自分たちと何が違うのか考えてみてはどうでしょうか。あのチームの選手は自チームの選手と何が違うのか、1年後、彼らのようになるには何をすべきかを考えただけでも意味があると思います。

——最後に、選手のフィジカルを鍛えたいけれど、一步を踏み出せずに悩んでいる指導者には、どういった言葉をかけられますか。

村岡 同じカテゴリーで自分たちより少し強いチームの練習を見て、自分たちと何が違うのか考えてみてはどうでしょうか。あのチームの選手は自チームの選手と何が違うのか、1年後、彼らのようになるには何をすべきかを考えただけでも意味があると思います。

——最後に、選手のフィジカルを鍛えたいけれど、一步を踏み出せずに悩んでいる指導者には、どういった言葉をかけられますか。

村岡 同じカテゴリーで自分たちより少し強いチームの練習を見て、自分たちと何が違うのかと考えただけでも意味があると思います。

——昨年のFIFA U-17ワールドカップに参加されて、日本の選手たちのフィジカルはどのように映りましたか。

村岡 アフリカやヨーロッパ、南米のチームと対戦し、日本のフィジカルも十分通用すると感じました。日本には持久力とインテンシティの両方を兼ね備えた選手があり、ゆくゆくは世界最高峰のグ

「選手と一緒にになって目標に向かうこと、選手に寄り添うことが大事」と話す村岡誠フィジカルコーチ。
新天地のペガルタ仙台での活躍が期待される



アンダーカテゴリー日本代表の取り組み

個々の選手に合わせながら 進めていくことが大事

U-17日本女子代表の山田庸フィジカルコーチに、女子サッカーにおけるフィジカルの重要性、育成年代へのアプローチ方法、代表チームでの取り組みなどを聞いた。

○オンライン取材日：2024年1月23日

YAMADA Hiroshi

山田 庸

U-17日本女子代表フィジカルコーチ

女子もフィジカルは
負けていない

——まずフィジカルコーチを志した理由を教えてください。

山田 もともとトレーナーを志望していましたが、競技性を求めて大学院で体育科を専攻し、そこでフィジカル面から日本サッカーのためにできることはないかという思いを抱き、代表チームでフィジカルコーチすることを目指すようになりました。その後、(びわこ成蹊スポーツ大学で)監督やコーチとして指導していたときに、U-16／17日本女子代表フィジカルコーチのオファーをいただき、現在に至ります。

——女子サッカーにおけるフィジカルの重要性についてどのように捉えられていますか。

山田 欧米には、「速い、高い、強い」選手がたくさんいます。日本が良い試合運びをしても、最後はそういう選手にやられてしまうという課題を常に抱えてきました。男子サッカーも同じです。ただそこから課題克服に向けてトライし続けた結果、昨年のFIFA女子ワールドカップでなでしこジャパン（日本女子代表）がそれを打ち破る姿を見せてくれました。日本界に負けていないということを証

明できたと思います。

——具体的にどのように改善してきましたか。

山田 外国人選手はスprintや1対1の強さ、セットプレーの高さに長けていますが、そういう相手に対してフィジカルの強さを出させないような戦いを試みていました。相手がそういう特長を生かそうとする場面でも、体の入れ方などを改善し、その結果、コンタクトプレーで勝てるようになります。また、ワールドカップで活躍した宮澤ひなた選手（現マンチエスター・ユナイテッド／イングランド）は、スprint時のトップスピードが非常に速く、世界のトップレベルの選手にも引けを取らない姿を見せてくれました。

——フィジカルにおける日本の女子選手の特徴は。

山田 選手個々で特徴は異なりますが、総じて日本の選手は加速・減速、スprintを繰り返すこと長けていて、サッカーでは「間欠的持久力」と呼ばれるダッシュを何度も行うことができます。しかかも、それをグループでできるという能力が高いと言えます。

——育成年代の選手たちもフィジカル面に対する意識が向上してき



昨年のFIFA女子ワールドカップでは、なでしこジャパンの選手たちがフィジカル面で世界と対等に戦える姿を見せた

サッカーで何が必要か
逆算してアプローチする

——女子は男子と比べて成長期が早く来ます。フィジカルトレーニングのアプローチも早くした方がよいのでしょうか。

山田 もちろんそうです。身長が年間で10cm前後伸びる「成長スパート」の時期は、女子は11歳頃で、男子よりも2年ほど早いんです。

そこから3年後の14～15歳には身長の伸びが落ち着きますので、ウエイトトレーニングはそれ以降に始めるなどを推奨しています。

――指導対象となるU-16／17日本女子代表の選手たちにはどのようないいアプローチをしていくですか。

ら高校1年生くらいに（自分の体重を負荷にして行う）自体重ウエイトトレーニングを始めて、1年

トレーニングを行うというアプローチが必要なのですが、重要なのは始める時期や内容には個人差があること。丁寧に

子代表の場合、身体的な成長の面からウエイトトレーニングがまだ早い選手もいれば、逆に遅すぎる選手もあります。「成長スピード」の

時期は身長と座高を測れば割り出すことができますので、計測しながら個々にメニューを組み立て

山田

大事なキー「ワードですね。

——最後に、女子サッカーに関する指導者へのメッセージをお願い

が、フィジカルコーチである私の役目だと思っています。また、トップレベルの選手だけではなく、楽しくプレーをするためには、けがを予防する体の使い方や体を支えるための筋肉が必要だということを広く伝えていきたいですね。

山田 サッカーで何が必要か、その選手に何が求められるか、ということを考えたとき、その要素がフィジカルであればフィジカルを向上させていく。決してフィジカル向上が先にくるわけではありません。女子サッカー界で今求められていることの情報発信は続けていきますので、それらを共有して一緒に日本女子サッカーを強くしていきましょう。

A wide-angle photograph of a soccer training session. Several players in blue and white uniforms are scattered across a green grass field. Some are in motion, while others stand by. The background features a large stadium with multiple tall lights and palm trees under a clear blue sky.



山田フィジカルコーチは「フィジカルに限らず、自己分析をして改善を図れる、あるいは論理的に考えて実行できる、言語化できる選手が伸びていく」と話す



BRASILEIRA FEMININA



谷川萌々子選手
TANIKAWA Momoko
(FCローゼンゴードンスウェーデン)

古賀塔子選手
KOYA Toko
(フェイエノールト/オランダ)



選手に聞く

2023年11月になでしこジャパン（日本女子代表）として国際Aマッチデビューを飾ったJFAアカデミー福島の谷川萌々子選手と古賀塔子選手。1月からそれぞれFCローゼンゴード（スウェーデン）とフェイエノールト（オランダ）にプレーの場を移している。二人がJFAアカデミー福島で取り組んできたことや今後の目標について聞いた。

○オンライン取材日：2024年1月26日 ※26ページに連記事あり

世界と戦える選手になるために もっと強くなる

データに基づいた強化
当たり負けしない
体づくり

JFAアカデミー福島に入った当初、ご自身のフィジカルをどう認識されていましたか。

谷川 フィジカル測定では全ての項目で順位が出るのですが、私はほとんどの項目の順位が下でした。

古賀 スピードはあって走れる方でしたが、体が細かったので対人プレーは強くなかったと思います。

— 中学から高校の約6年をJFAアカデミー福島で過ごし、今ではなでしこジャパンでも堂々とプレーされています。体づくりについて振り返っていかがですか。

谷川 一番大きかったのは、近くに豊富な知識を持った指導者がいたことです。専門的なアドバイスや指導がフィジカルの向上につながりました。サッカーに集中できる環境で、レベルの高い選手たちが集まっていてとても良い環境で自身を高めることができました。

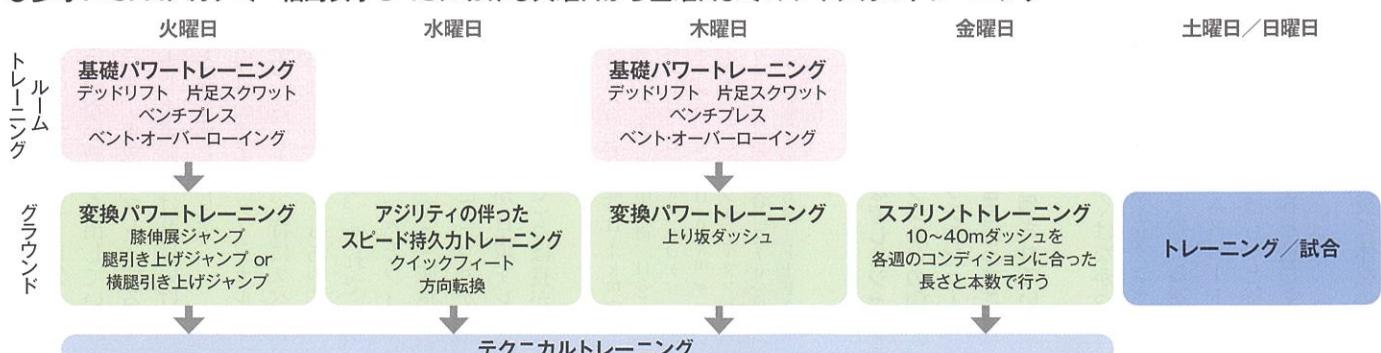
古賀 毎週火曜と木曜にウエイトトレーニングの時間があって、基本的に中学生は自体重によるトレーニングをして、重りを使つた本格的なトレーニングは高校生から始めます。毎回、「これができたら次はこの段階へ」とそれぞれにステップが用意されていたので、目標を持つて取り組むことができました。トレーニング後にすぐ食事が取れる環境だったことも良かったです。

特に意識してトレーニングされていたことは。

谷川 一つ一つの種目に対しても、正しいフォームとどの筋肉に効かせるためのトレーニングなのかを指導してもらえてるので、常にそれを意識してやつっていました。自分のプレーとフィジカル測定のデータから強化すべき部分を示してもらえることも恵まれていたと思います。気になることは自分から聞きに行きましたし、中学生から日々トレーニングをして、特に体幹を意識して鍛えることでフィジカルも強くなりました。

古賀 高校3年生の1年間は、チームの練習後にコーチに聞きながらウエイトトレーニングをやっていました。2022年のFIFA U-17女子ワールドカップ（インド）で海外の選手にフィジカルで劣る部分があり、コーチからやつた方がいいよと言われたこともあって、特に上半身の強化に

●参考1：JFAアカデミー福島女子U-18における火曜日から金曜日までのフィジカルトレーニング



取り組みました。その手応えを今、感じているところです。

それを指標に運動強度を上げることを意識して取り組みました。

ルが蹴れることやシュート力だと思いますが、の広さ、シュート力だと思いますが、元々そういうプレースタイルだったのでしょうか。

—— そのほかパフォーマンス向上のために取り組んでいたことはありますか。

谷川 走り方は、中学1年生のときに専門の指導者から教えてもらいました。速く走るためのアドバイスを意識するようにしたら、成果を感じられるようになります。

古賀 毎日の練習や試合時のGPSデータがフィジカルコーチから個々にフィードバックされます。それでみんなのインテンシティ（強度）と比較して自分がどれだけ走れていなかなどが数値やグラフからも分かるので、

—— 強い体をつくる上で、食事や体調管理などのセルフコンディショニングも大事です。トレーニング以外で意識されたことは何ですか。

谷川 栄養セミナーを受けていたので、そこで学んだことを日頃から実践していました。ご飯をたくさん食べることはチーム全体で取り組んでいました。

古賀 一人一人に合わせて食べる量や摂取カロリーが決められていて、みんなでしつかり食べて体をつくり、という環境でした。

—— 古賀選手は体が細かつたとおっしゃっていましたね。

古賀 食事の大切さを実感しています。高校生になつて大人の選手と対戦する機会が増えたのですが、当たり負けしなくなりました。

—— トレーニングや試合後のリカバリーで取り組まれていたことはありますか。

谷川 （温冷）交代浴ができる環境が整っているので、トレーニング浴をしてその日のうちに疲労を取り心掛けていました。

古賀 自分も練習後すぐにオレンジジュースを飲んで、交代浴をしたり、ストレッチしたりと疲労を残さないよう意識していました。

世界で戦うためには 予測や駆け引きも必要

—— 22年に初の世界大会（FIFA

U-17女子ワールドカップ／日本はベスト8）を経験されました。世界の舞台で求められるフィジカルについて感じたことを教えてください。

谷川 海外の選手は身長が高くて足も長いので、日本では通るようなパスがカットされたり、ブロックされたりするシーンを何度も見ました。

古賀 守備では、最後に体を張つ

した。90分間を通しての総走行距離も見たのですが（※）、自分がまだ達していない数値を出している

選手もいて、世界でプレーするためにはもっと走れなければいけないだと強く感じました。



課題だったスピードも走り方を学ぶことで向上させてきた谷川選手。武器であるキック力も磨いてきた体幹の強さに支えられている

（※）90分あたりの走行距離：11.4km宮澤
藤野あおば、11.0kmエロディ・ナ
カシュ（モロッコ）、11.0kmダニエ
ル・ファン・デ・ドンク（オランダ）、
10.9km長谷川唯（合計270分以上
プレーした選手のみ対象／FIFA公式サイトより）

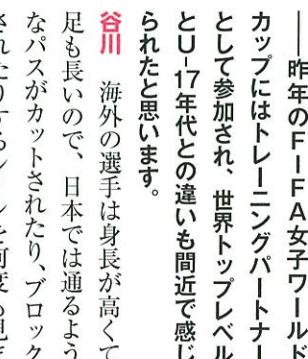
—— 昨年11月には、なでしこジャパンに初選出され、ブラジルとの国際親善試合で国際Aマッチデビューを果しました。2試合を戦ってご自身のプレーをどう評価されていますか。

谷川 出場時間は長くはなかったのですが、ゲーム展開が速くて、サイドやFWにスピードのある選手がいる中、このゲームスピードで90分間を戦うためにはもっと持久力を上げる必要があると感じました。

—— 昨年のFIFA女子ワールドカップにはトレーニングパートナーとして参加され、世界トップレベルとU-17年代との違いも間近で感じられたと思います。

谷川 海外の選手は身長が高くて足も長いので、日本では通るようなパスがカットされたり、ブロックされたりするシーンを何度も見ました。

古賀 守備では、最後に体を張つ



谷川選手の武器は両足でボールが蹴れることやシュート力だと思いますが、元々そういうプレースタイルだったのであります。

フィジカルフィットネス案内所



フィジカルフィットネスプロジェクトとは

日本サッカー協会（JFA）が掲げる「JFAの約束2050」や「JFAの目標2030」を達成するため、フィジカルフィットネスプロジェクトでは、ユース育成と指導者養成の2つの側面にアプローチ。「世界で戦えるフィジカルフィットネスの構築」「個人の特性に合ったフィジカルフィットネス要素の向上」を掲げ、さまざまな取り組みを進めている。

- フィジカルフィットネスの取り組み
https://www.jfa.jp/coach/physical_project/



フィジカルフィットネスコーチ 養成講習会

2021年度に新設された「フィジカルフィットネスコーチライセンス」は、フィジカルの知識を持った指導者およびフィジカルコーチに付与されるライセンス（付加ライセンス）だ。現在は、フィジカルフィットネスB級とC級のコーチ養成講習会が開催されている。

〔フィジカルフィットネスB級〕

● 目的

フィジカルフィットネストレーニングを計画および実行する際に必要なより専門的な知識を会得し、フィジカルフィットネスに関して選手に指導できる人材を養成することを目的とする。

⇒日本人選手のフィジカルパフォーマンスの向上
今まで課題とされてきたフィジカルを弱点にしない

● スケジュール

5日間×2回（2年で取得）

1年目（前期）をフィジカルB1、2年目（後期）をフィジカルB2とする

● 受講資格

サッカーB級ライセンス以上かつフィジカルフィットネスC級ライセンス保有者



〔フィジカルフィットネスC級〕

● 目的

フィジカルフィットネストレーニングを計画および実行する際のベースとなる基礎的な知識を会得し、フィジカルフィットネスに関して選手に指導できる人材を養成することを目的とする。

⇒傷害予防と日本人のフィジカルの土台づくり
育成年代を中心にフィジカルの基礎をつくる

● スケジュール

4日間で取得

● 受講資格

サッカーC級ライセンス以上のライセンス保有者



詳細はこちら▶▶▶ https://www.jfa.jp/coach/official/license.html#physical_license

フィジカルフィットネスプロジェクトトレーニング例



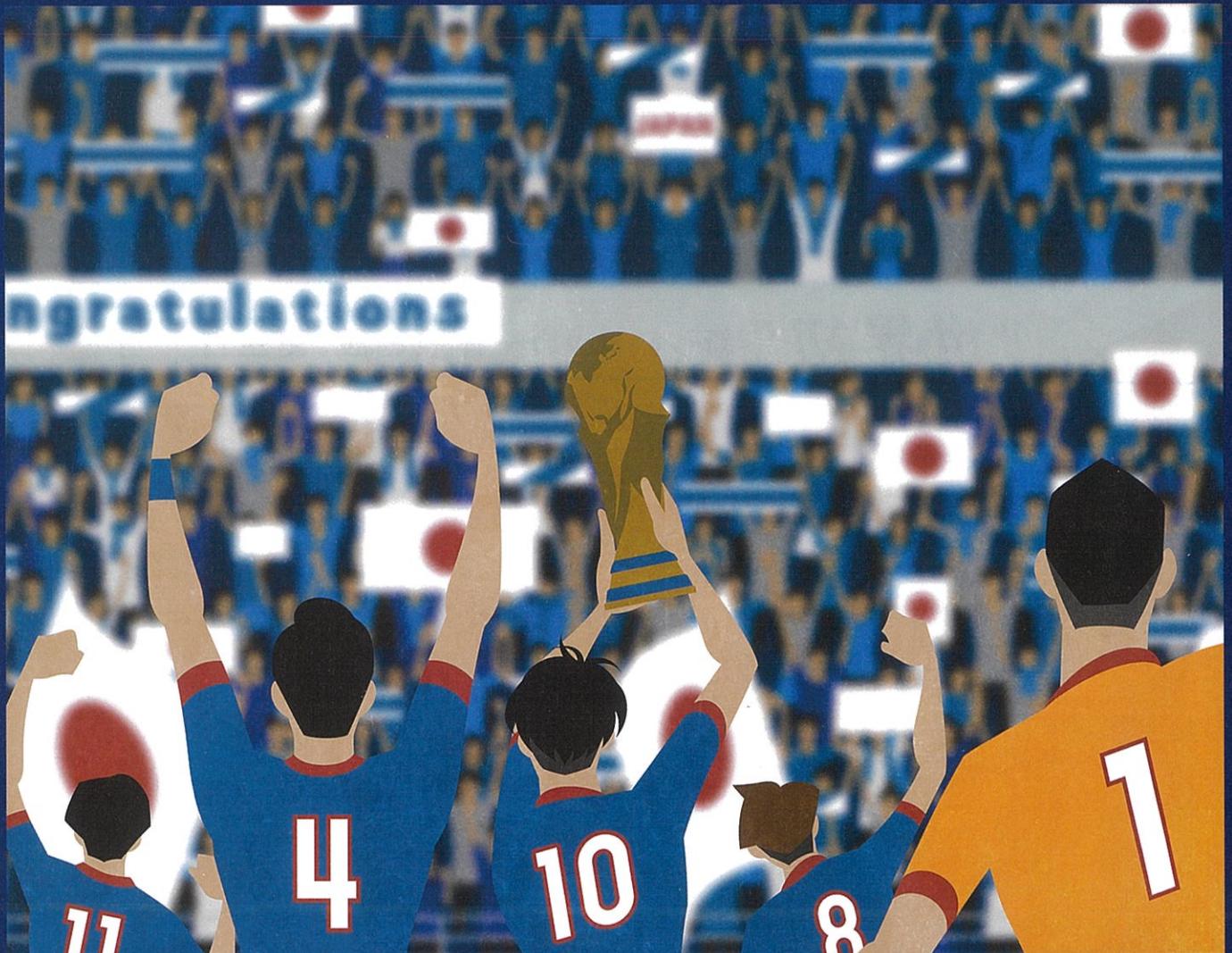
フィジカルフィットネスプロジェクトでは、けが予防とパフォーマンス向上のためにトレーニング例を公開している。トレーニングの目的を知り、正しいトレーニング方法で行うことが重要だ。

〔トレーニング例〕

- ・ハムストリングトレーニング
- ・ストライカーに必要なアジャリティトレーニング
- ・チューブを用いたジャンプヘッド改善のトレーニング
- ・ミニバンドエクササイズ
- ・チューブを用いたシート改善のトレーニング
- ・休み明けのトレーニング



詳細はこちら▶▶▶ https://www.jfa.jp/coach/physical_project/fitness_example.html



DREAM

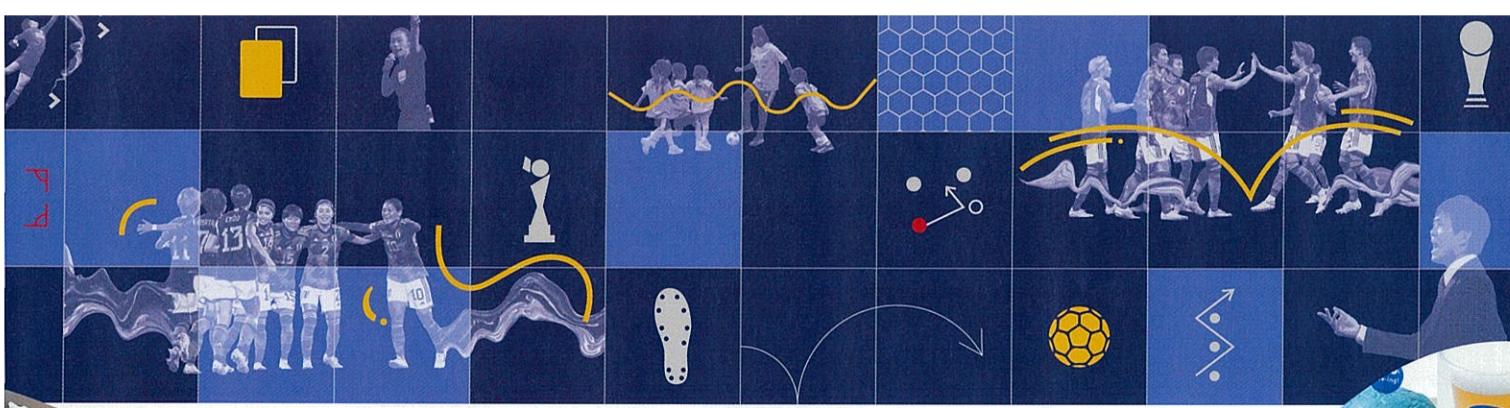
夢があるから強くなる

© JFA



みんなのサッカーのひとつひとつが、明日の夢につながっていく。





"世界初"新しいサッカーアクション施設、誕生!!



青に出逢い、ひろがる。

ここは、blue-ing!

日常が青に染まっていく、
新たな夢物語のはじまり。
語り合い、肌で感じ、夢中になる。

あの時の感動に、浸るもよし。
未来の体験へ、心躍らせるもよし。

あなただけの楽しみが
ここには溢れるほど、たくさんある。

さあ、創ろう。
好きなだけ想い描こう。

そこには、まだ見ぬ青が待っているから。



blue-ing!

東京ドームシティ
クリスタルアベニュー内
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

・JR「水道橋駅」東口
・都営地下鉄三田線「水道橋駅」A3出口
・東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」2番出口
・都営地下鉄大江戸線「春日駅」A1出口

施設の最新情報
は、こちらから▶



blueing.jfa.jp #blueing

JFA Passport

アプリをダウンロードして
もっとお得に楽しもう!



AppleおよびApp Storeロゴは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。Google PlayおよびGoogle Play ロゴは、Google LLC の商標です。

JFA サッカー文化創造拠点

blue-ing!





JFA
情報
発信局

日本サッカー協会（JFA）が発信する
さまざまなガイドラインや施策、刊行物などを紹介。

JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン（幼児期～U-15）

JFAは、ヘディングに関わるリスクを避けるため、「禁止」するのではなく、「正しく恐れ」ことによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学的研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも常井アップデートしていく。

https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



スマールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスマールサイドゲーム ガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

- 1.はじめに
- 2.ガイドラインの基本的な考え方
- 3.各年代での心身の特性とゲーム
- 4.ピッチマネージャーの配置・役割
- 5.8人制との比較
- 6.スマールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
- 7.指導者の関わりの重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidetgame.html



JFA小学校体育サポート研修会「サッカー（ボール運動・ゴール型）の授業づくり」

2023年度実施校を募集中！ JFAが講師を無料派遣、ボール・テキスト贈呈も

JFAでは小学校や小学校教員を対象とした研修会・研究会に「小学校体育サポート研修会」の講師を派遣している。2023年度からはスポーツ庁の後援も決定。実施校にはJFAから講師が派遣されるほか、ソフトスponジボール4号10球とテキスト「新・サッカー指導の教科書」2冊も贈呈される。詳細および申し込み方法は下記より。

・主催：公益財団法人日本サッカー協会

・後援：スポーツ庁

・対象期間：2024年3月31日（日）まで

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity_dispatch_instructor.html



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したもの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

- 1.プロlogue～なぜJapan's Wayなのか
- 2.フットボール・カルチャーの創造
- 3.望まれる選手像とは
- 4.プレビジョン
- 5.将来に向けた日本のユース育成
- 6.フィジカルフィットネスの未来
- 7.将来のサッカーコーチとは？
- 8.フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一的な栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。

同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えていく。

●JFA栄養ガイドライン

<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



●JFA栄養ガイドラインQ&A

https://www.jfa.jp/medical/a08_faq.html

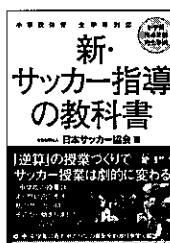


「サッカー競技規則2023/24 Web版」を

JFA.jpで公開

「サッカー競技規則2023/24 Web版」は誰でも閲覧可。競技規則の条文内に約140の映像クリップを付加し、映像とともに条文を理解できるようにしている。

https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/



●小学校体育 全学年対応「新・サッカー指導の教科書」
小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。サッカー経験がない先生にもオススメの1冊。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/textbook.html



「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」



●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



JFA ホットスポット

JFAエリートプログラムU-14 ～4年ぶりに韓国遠征を実施

木村康彦

JFAエリートプログラムU-14監督/JFAコーチ

日本サッカー協会(JFA)の各事業に焦点を当てたJFAホットスポット。第16回はJFAエリートプログラムU-14の取り組みを紹介する。

自分の良さを知り、磨いて武器にする

JFAエリートプログラムは2003年にスタートした選手育成事業です。現在はU-14とU-13年代を対象にしており、クリニックでたくましい選手を育成するべく活動しています。将来の日本代表を見据え、「個」の能力向上と自立心を養うために選手たちはピッチ内外でさまざまな刺激を得ています。昨年のエリートプログラムU-14では、「自分を知る」味方

を知る、サッカーを知る」をテーマに「適応力を磨く」をテーマに掲げ、オン・ザ・ピッチとオフ・ザ・ピッチともに貴重な経験を積むことができました。飛行機の搭乗手続きや外国での生活を含めて初めて近くで見たが、韓国の選手らと積極的にコミュニケーションを取る姿が見られました。ピッチ上では、交流戦とはじめ、互いに国の代表選手として絶対負けたくないという強い気持ちを全面に出して戦う中で、球際の強さやパススピード、判断の速さなど、日本では経験できないレベルを体感したはずです。普段、私たちが「そこでは世界で通用しないよ」と言つても、実際に経験しない限り

[2023年 JFAエリートプログラムU-14]	
①6月28日~7月2日 / Jヴィレッジ(福島県)	参加選手: 23人
②9月18日~22日 / 坡州(韓国)	参加選手: 20人
③12月19日~23日 / 大分県大分スポーツ公園(大分県)	参加選手: 22人
④7月5日~9日にはユーチャートレーニング(9月以降生まれの選手が対象)も実施	

合です。「常識(基準)を変える」と「適応力を磨く」をテーマに掲げ、オフ・ザ・ピッチとオフ・ザ・ピッチともに貴重な経験を積むことができました。飛行機の搭乗手続きや外国での生活を含めて初めて近くで見たが、韓国の選手らと積極的にコミュニケーションを取る姿が見られました。ピッチ上では、交流戦とはじめ、互いに国の代表選手として絶対負けたくないという強い気持ちを全面に出して戦う中で、球際の強さやパススピード、判断の速さなど、日本では経験できないレベルを体感したはずです。普段、私たちが「そこでは世界で通用しないよ」と言つても、実際に経験しない限り

分からぬのです。今回の遠征は、選手たちにとっても、われわれ指導者にとっても「世界」の厳しさを体得する貴重な機会となりました。

リーダーとして高い意識を

エリートプログラムには、FAコーチやスタッフのアカデミー、コーチのほか、まちクリフや中学校チームの指導者にも加わってもらっています。活動を共にする中でそれぞれの選手育成の現状や課題を共有し、選手育成の方針を確認しています。

豊富な経験を持つ指導者も多く、それぞれの体験を選手たちに話してもうつこともあります。例えば昨年は、6~7月の活動に参加した坂谷武春コーチ(東京ヴェルディ)が自身もエリートプログラムU-14に参加した経験を踏まえ、選手たちに意識してほしいことを伝えてくれました。12月には藤井祐一(西南フットボールクラブ)が青年海外協力隊としてセネガルに行つたときの経験から、みんなが日本でどれだけ恵まれた環境にいるかなどを話していました。こうした経験も選手たちが広い視野を持って成長するきっかけになると考えていました。

エリートプログラムに参加した選手の多くは今年、U-15日本代表の中心選手として活動することになるでしょう。選手たちは「ピッチ内外で良い模範を示し、周りの選手に良い刺激を与えるリーダーとしてチームを引っ張っていく選手になつてほしい」と伝えています。育成年代での積み上げが、将来の日本代表成長につながります。エリートプログラムでは、今後も選手たちに良い環境の下、より良い刺激を与えられるよう取り組んでいく



「選手の成長を信じて、良い刺激を与え続けることが指導者の役割」と木村コーチ。オフ・ザ・ピッチではセルフケアなどについても意識を高めている

フットサル語り場

日本サッカー協会(JFA)は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及に携わる面々が登場し、リレー形式で情報を届けます。

大森 知 フットサル日本女子代表フィジカルコーチ

フィジカルトレーニングの前に 自分の体の状態を把握しよう

食事も体づくりも 習慣づけが大事

ここ10年間で、日本の女子フットサル界におけるフィジカルの捉え方は劇的に変化しました。その要因はスマホとSNSです。スマホが普及したことによって日々の情報量が格段に増えました。SNSには海外の有名選手のトレーニングなどが投稿されていて、それを見た選手は「自分もやらなきゃ」とマインドセットされるようになりました。近年では、日本の女子フットサル選手もいろいろなトレーニング動画を発信しています。フットサル日本女子代表にもこういった動画を投稿している選手がいます。

その中で気になったことは、さまざまなカテゴリーの選手(フットサル以外でも)のフィジカルトレーニングが、競技特性とかけ離れていることが多いという点です。

そこで、須賀雄大監督に相談し、昨年8月にタイ遠征を行った際に選手たちに向けてフィジカル講義を行いました。座学では、フットサルという競技にはどんな特徴があるのか、心拍数がどれくらい上がり、どれくらい頻繁に方向転換するか、フットサルに適した筋力と体脂肪について説明しました。最大の収穫は、講義の後に選手たちとジムに行って「筋力をつけること」「速度を發揮すること」「それを繰り返せること」の重要性を統一した点です。フットサルではこういうトレーニングが有効という共通認識を図りました。

タイ遠征では、選手たちが「懸垂部」をつくりました。毎日、懸垂をして、懸垂ができない選手には、できるようになるためのトレーニングメニューを私がつくり、遠征が終わってからも近況を報告してもらいました。この取り組みの背景には、食事にしても、体づくりにしても、習慣づけが大事だという考えがあります。トレーニングをする環境と流れをつくりたかったのです。

先日、日本女子フットサルリーグのある試合を観察した際、タイ遠征に参加した選手たちから「今はこういうトレーニングをしている」と共有してもらい、自分と向き合って体を鍛え

ていることが確認できました。

適切なトレーニングで 体は変わる

日本の女子フットサルの選手にはレベルアップする余地がかなりあります。特にフィジカル面は、フィジカルコーチがないクラブも多い分、伸びしろしかない。クラブにフィジカルコーチがない場合、選手は何から着手すべきなのか。私はフィジカルトレーニングをする前にフィジカルコンディション、つまり自分の体の状態を把握することが第一だと考えています。

車に例えると、どれだけ運転技術を磨いたり、タイヤの空気圧を調節したりしても、軽トラックではF1レースで勝つことができません。一定のレベルになると、最低限の筋肉の量(エンジン)と体の動かし方(運転技術)が求められます。今の体重は何キロか、その体重に対して無駄な重り(体脂肪)はないか、筋肉の量は適切かなど、自分は何を増やして何を削るべきかを、だいたいでも構ないので知っておくことが第一歩です。そこを押さえておけば、トレーニングや食事の質を考えるようになり、行動も変わっていくはずです。

自分の体の状態が分かり、さあ鍛えようとなったとき、そのためのツールがない、環境がないからできないという声をよく聞きます。とはいえ、1日10分でもいいから適切なトレーニングをすれば、体は変わります。今後は、女子フットサルクラブの皆さんと協力して、肉体改造計画のための案を伝えるような取り組みができるべきだと考えています。



「選手が自分の体をコンディショニングできることが理想。何かがあったときは自分の体を守らなければならない。それも選手として大事な能力」と大森フィジカルコーチは語る

メディカル ROOM

「食物アレルギーとアナフィラキシー」

土肥美智子

(JFA医学委員会委員/JFA診療所院長)

◎監修: JFA医学委員会

本連載では日本サッカー協会(JFA)医学委員会の監修の下、
メディカルに関する情報をお伝えします。

かすほどの重篤なショック症状が出る」とが「アナフィラキシーショック」です。アナフィラキシーの症状は、ABCD+尋麻疹と表現されます。これら全ての症状が現れるわけではありませんが、皮膚症状はとても重要なサインです。意識状態が低下したり、呼吸器症状や消化器症状が出たりしたら、アナフィラキシーを疑いましょう。

食物アレルギーに対しては、原因となる

食べ物を食べないうことが予防の原則です。食物アレルギーがある選手がチームにいる場合、指導者や関係者の皆さんは食事で十分に気を付けてあげてください。アナフィラキシーショックを起こした場合は、エピペン®(*)を使用して病院を受診。エピペン®(*)を処方されていない場合は、すぐに病院を受診するか救急車を呼びましょう。

*エピペン®: アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐために自己注射する補助治療剤

運動を伴うと症状が出る
アナフィラキシー

「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」は、特定の食べ物を摂取した後に運動することによるアナフィラキシーが誘発される疾患です。この疾患は、スポーツの現場では特に注意しなければなりません。

注意すべき点は、普段はアレルギーの原

因となる食べ物を摂取しても症状は出ない、つまり無症状だけれど、それを摂取してから4~6時間以内に運動することによって、アナフィラキシー症状が生じるという点です。最初に全身の熱感、尋麻疹、体のだるさなどが生じ、悪化すると手足が腫れ(浮腫)、嘔気(あき)、腹痛、下痢、のどの腫れ、血圧低下などの症状が出てきます。運動後こうした症状が出た場合はアナフィラキシーを疑い、すぐに運動を中止することが大切です。初回発症年齢は10~20代に多いとされていますが、これは運動部活動をはじめとして、強度の高い運動を始める年代であることも理由に考えられます。そして、運動負荷が大きいと起こりやすいという報告があります。

われわれの体には、外から入ってきた有害な細菌やウイルスから体を守るために免疫機能が備わっています。特定の食べ物を摂取した際、この免疫機能が過剰に反応して体にさまざまなアレルギー反応が生じることを「食物アレルギー」と呼びます。この疾患は、排除する必要のない食べ物を異物と誤って認識してしまうことで生じるので、こうしたアレルギーの原因となる物質を「アレルゲン(食物抗原)」といいます。食物アレルギー反応には、荨麻疹や湿疹、下痢、咳が出る、呼吸苦しにくいなど、皮膚症状や消化器症状、呼吸器症状が挙げられます。そして、これらが全身に現れ命を脅

●アレルゲンを含む物質

・表示義務(特定原材料7品目):

発症件数が多い、症状が重くなることが多い
乳、卵、小麦、そば、落花生、えび、かに

・表示を奨励(任意表示20品目):

あわび、いか、いくら、オレンジ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン、バナナ、ごま、カシューナッツ

●アナフィラキシーの症状

A : Airway(気道の異常)

B : Breathing(呼吸の異常)

C : Circulation(血圧の低下、意識低下)

D : Diarrhea / Vomiting(腹部症状、下痢、嘔吐や腹痛)

+皮膚症状(尋麻疹)

疲労や寝不足、ストレス、気象条件(高温、寒冷など)、痛み止めの内服、花粉症、月经なども発症要因に挙げられます。つまり、免疫機能が低下するとアナフィラキシーが起こりやすくなるということ。食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、どの食べ物が原因なのか分かりにくくことがあります。そこで、これが全身に現れ命を脅

●食物アレルギーに関する指針(JFA.jpより)

<https://www.jfa.jp/medical/a05.html>



●命を脅かす食物アレルギー(JFA.jpより)

<https://www.jfa.jp/medical/a06.html>



●参照:「食物アレルギー診療ガイドライン2021 ダイジェスト版」

第7章 即時型症状の重症度判定と対症療法

https://www.jspaci.jp/guide2021/jgfa2021_7.html



録しておくといいでしょう。そうすると運動前に食べたどの食べ物が原因なのかが分かつてきます。原因となる食べ物が分かれれば、運動前の摂取は避けましょう。コンディション管理も含めて、自分の体を知ることで、アナフィラキシーは、今まで元気だった人が急に亡くなってしまう疾患です。「食事+運動=アナフィラキシー」という病気があることを知り、その症状や経過対処についても正しく知識を持つておきましょう。



● 人の関わりの中で育む

この時期の関東は、北から吹く風が空気を思いつきり冷やし、刺すような寒さが顔に当たります。同時に真っ青な空から差す太陽の光は、体や心を優しく温めてホッとさせてくれます。イソップ童話「北風と太陽」がふと頭に浮かびます。童話では、北風がどんなに強い風を吹きつけても旅人のコートを脱がすことできなかつたように、サッカーの指導も、強制するだけでは選手の行動は変えられません。選手が自らの意思で行動を起させることで、サッカーの工夫や関わり方が必要です。「走れ!」と言われるから走るのか、「サッカーのゲームは楽しい相手に勝ちたい」という自らの思いが走ることを引き出しているのか。走るという行為は同じですが、心の中は全く異なります。選手を「次も走るぞ」という気持ちにさせられるか否か、指導者の腕の見せどころです。反復がなければ成長は期待できません。

子どもたちのサッカーを見ていると、大人や指導者にやらされているのではないかというフレーーが時折あります。サッカーのレベルが上がるにつれ、ゲームでの約束事やポジションでの役割は細分化されていきます。そのため、ゲームはよりシステムチックになり、混乱も少なくなります。一方、子どもたちのサッカーは利口的であり、チームとしての安定感がない、ゲームは混沌とします。私はそれで

良いと思つています。子どもたちが大人のようなサッカーをする必要はありません。子どもは大人の縮小「ピート」ではないのです。言い古された言葉ですが、「早く成長してほしいさせたい」と私たち大人は思つてします。

運動技能は上達すると安定します。そこに至るには、余計などころん力が入つたり、運動のリズムが悪かつたりなど不安定な段階を踏みます。無駄なことのようですが、安定した運動をさまざまな環境でできるようになるためには欠かせない過程です。どんな相手であれ、どんな状況下であれ、安定して発揮される運動は体の由での複雑な適応作業に支えられています。それは人工的に獲得できるものではありませんし、指導したことが積み木のように機械的に積み重なつていくわけでもありません。運動技能は多様な過程を経て成熟していくります。指導者は、「教えた」伝えただけではあります。指導者が終わつていなか、振り返つてみる必要があるでしょう。

サッカーの技能の巧拙には、体の動きやボール操作だけでなく、状況を捉える認知的な側面も大きく関わります。サッカーは人との闘争の中でプレーを選択し、実行するスポーツです。他の球技に比べてピッチが広く、攻守においてスペースの管理が求められます。ここでも子どもと大人で違いがあります。体が小さい子どもにとつ

隔月連載

サッカー心育論 Vol.84

中山 雅雄(JFA技術委員会普及部会部長／JFA普及ダイレクター／
JFAキックプロジェクト代表／筑波大学体育系教授)



で、正規のサッカー・ピッチはとつままで考えながらプレーできるようになります。このような認知的な側面やその能力は繰り返すことで高められていくものです。最初から10人の味方と1人の対戦相手を認知できるわけではなく、一度関わることのできる人の数も経験を経るごとに少しずつ増えています。子どものピッチサイズは小さく、可能であれば「ゴールも小さいものを使い、さらにゲームの人数も少なくして、プレーに関わる機会を増やすことが大切です。ドイツやオランダ、スペインといったサッカー強豪国も、ボールサイドゲームは子どもに多くのサッカーの学びを与えるとしています。

少し異なる観点からの話になりますが、私たちの研究室では、勝敗を意識してプレーしたグループの方が、良いパフォーマンスを発揮することを意識してプレーしたグループよりも、ボールを持つている選手への距離やチーム全体の距離間も近くなるというデータが得られました。つまり、勝敗を意識した方がプレーへの関与は多くなると考えられます。育成年代での行き過ぎた勝利主義はさまざまな問題を引き起します。そういう観点から見ると、「勝たなくて本

いい、良いプレーをすれば、正しいようになります。しかし、勝つ気がない相手とプレーすることを想像してみてください。勝つことが第一義ではありませんが、互いが「勝ち」を目指してプレーするからこそサッカーは楽しいのです。上達するのです。勝ちたい、という選手の思いを生かし、サッカーの技能もフェアプレーの精神も高める働きかけができれば素晴らしいことです。

新しいシーズンが始まります。どのように「選手を育て、チームをつくっていかが計画を立てている方も多いでしょう。指導者にとって、何を教えるかより、どのように教えるかが重要になっています。サッカーに関する知識は世の中に溢れ、簡単にアクセスできる時代です。教わらなくても知識は増えます。しかし、選手が、その知識を良いプレーに結びつけられるようになるには、指導者の存在が必要です。A-1（人工知能）がコーチの仕事を奪う日はそう遠くないと言ふ人もいます。私もA-1が指導現場で役立つ場面は増えていくと考えています。しかし、人と人の直接的な関わりを通しての学びがなくなったら、創造力のある選手は生まれてこないと思います。

外に出て自然の中で体を動かすことで、五感を通して体はさまざまな刺激を受けます。喜怒哀楽の感情も湧いてきます。多くの人々が、感情豊かに、そして安心・安全にサッカーを楽しめる環境が必要です。特に子どもたちには――。

日本全国 FAコーチ巡り

滋賀県サッカーに関わる皆さんと 同じ目線で活動し続けたい

各都道府県サッカー協会(FA)で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第16回は、滋賀県サッカー協会の森村紀夫FAコーチに話を聞いた

©オンライン取材日:2024年1月22日

現状把握を経て種別選定
橋渡し役になれば

——滋賀県サッカー協会（F.A）のF.Aコーチ就任に至る経緯を教えて貰おう。

元々くたさ

森村 大学時代、チームに監督がおらずキャプテンの私がトーナメントメニューを考えていました。そこから指導に興味を持ち、在学中に選手を続けながらスボーツ少年団で指導を始めました。卒業後は一般企業に勤めていたのですが、やはりサッカーに関わる仕事がしたいと思ふので、滋賀県内の中学校や高校で外部指導者をしながら、地区トーナメントを担当するようになります。そこが滋賀県FAの事業でした。これが滋賀県FAの事業です。2018年にシニアユースターミナルに就任し、21年からはユース

スダイレクターも務めていました。その後、FAコーチの募集内容を見て自ら手を挙げて、22年4月にFAコーチに就任しました。

うに感じます。一極集中するところなく、県内の5地区がそれぞれ切磋琢磨しながら一生懸命頑張っています。各地区を巡回すると、積雪量の多い湖北地区では室内練習場を活用するなど、実情に沿った取り組みをされている印象です。

さなど、守備面での良さが目を引きました。



滋賀県一筋で約25年活動する森村FAコーチ。ユースダイレクター やシニアチューターも兼任している

森村トAコーチ。ユースタイレク
している
間の橋渡し役になればと
思つてやっています。現在
は、トレセンを含めた育
成、指導者養成、そして
女子の三つを重点的に進
めています。

――現場に足を運ぶ中で感じた滋賀県の強みとは。

「滋賀県の選手はアグレッシブに守備をする」と言われるまで意識を高めようと、選手権で準優勝した近江高校も多彩な攻撃で注目されていましたが、われわれとしてはボールを失つた後の切り替えの速

滋賀県のスタイルを植え付けるために、トレセンではどのようなアプローチが必要でしょうか。
森村 各種別で指導のベクトルを合わせていきたいですね。例えば、以前は国民体育大会（国体）の少年男子のスタッフ

(笑)。2年目からは種別間のつながりを意識しています。例えば、3種年代の現場で困つてゐる事があれば、2種年代での事例を提示するなど、種別間の橋渡し役になればと思つてやつています。現在は、トレセンを含めた育成、指導者養成、そして

森村 各種別の試合を見ても、実際にテクニックが高く、サインドアツカ一が生まれやすい土壌はある気がします。ただ、滋賀県のトレセンは、守備に特化して取り組んできました。十数年前にトレセンのロードマップを作成したのですが、関西のJクラブのアカデミーにはテクニックに長けた選手がたくさんいて、では滋賀県はどう

制でトレーニングができるています。一方で地区トレセンは、スタッフの人数はいても、常時参加できる人が少ない、会場を抑えるのが難しいなどの課題があります。一部のスタッフに負担が偏ることがないよう、常に笑顔で前向きに活動してもらうためにも、会場確保から人材登用までうまくサポートしていくべきと思っています。

森本 就任前から2種・3種の年代の現状はある程度分かつていましたが、他の種別は知らぬことが多かったので積極的に現場に足を運びました。1年目はとにかく現場で話を聞いて現状把握に努めました。皆さんから「どこにでもいるな」と声を

――全国高等学校サッカー選手権大会で優勝経験のある野洲高校でも準優勝の草津東高校、直近の大会でも準優勝した近江高校を筆頭に、「滋賀県といえばテクニカルなサッカー」を思い浮かべる人も多いかと思います。

森林 男子は、県トレセンはU-12～16の5カテゴリー、地区トレセンはU-12とU-14の2カテゴリー、それぞれ5地区の10カテゴリーで活動しており、徐々に充実してきていると思います。特に県トレセンは、B級ライセンス以上を保持する指導者が複数人体制

男子のトレセンのはかで女子のトレセンにも関わる。「女子に関してまだまだ可能性を感じている」と森村FAコーチ

は2種の指導者だけで構成されていました。すると、3種のトレセンで「激しい守備をしようと」言つても、2種と3種の指導者で認識が共有できてしましました。現在は3種の指導者も少年男子のスタッフに加わることで、プレー強度のイメージが合つてきています。今後は県トレセンや地区トレセンに、さまざまな種別の指導者が関わることで、ベクトル合わせをさらに推進していきたいと

は2種の指導者だけで構成され、考えておきます。

賀FC(レディース監督)を特別コーチに招き、FWを対象にストライカークリニックを開催しています。そうした選手育成と並行して指導者のスキルアップも進めていけば、25年以降にもつながると考え、SAGAWA SHIGA FC所属でU-20日本女子代表の狩野倫久監督に女子のトレセンスタッフに向けたレクチャーも実施してもらいました。今後はこうした女子に特化した活動を、各種別にも広げていきたいですね。

——C級やD級コーチ養成講習会についてはいかがでしょうか。

森村 4種年代の大会でベンチ入りする指導者には、D級ライセンス以上の資格保有が義務付けられますので、コース数を増やすこと、また各地区での開催を推し進めています。FAコースの2コースのほかに、一昨年は3地区、昨年は5地区で開催するなど広がりが出てきています。C級に関しても同じく年2回、FAコースを開催しています。今後は、中学校や高校の教員に向けたコースも計画し、教員の試みでしたが、FA間や指導者同士でのつながりが強まり非常に有意義な取り組みになつたと思っています。次年度以降も共催を予定しています。

受け皿が少なく、サッカーか、離れるケースがないよう、滋県FAを挙げて環境整備に取り組んでいきたいと思います。

――2025年に滋賀県で国民スポーツ大会（国スポ／旧国体）が開催されることもプラスの効果をもたらしそうです。

森村 滋賀国スポは、みんなが同じ方向を向く良いきっかけになると考えています。私は少年女子の監督を務め、女子トレセンにも関わっているのですが、元なでしこジャパン（日本女子代表）の大谷未央さん（レイラック滋

森村 約100人いるB級ライセンス保持者を、30年までに倍の200人まで増やしたいと考え、びわこ成蹊スポーツ大学の協力の下、5年前からB級コーチ養成講習会のFAコースを開催しています。毎年行うことで、B級保持者も増え、その指導者がトレセンなどFAの事業に関わることで、うまくリンクし始めています。

員の皆さんのが受講しやすい時間帯で開催できたらと考えています。

私はプロの選手ではなかつた
ですし、プロチームの指導者と
して活動していたわけでもあり
ません。とにかく雑草魂で、滋
賀県サッカーに関わる皆さんと
同じ目線で活動し続けたい。自
分一人でできることには限界が
あるので、どんな活動でもより
多くの人を巻き込んでいきた
い。これからも、「お前がいる
ところにはいつも笑い声がある
な」と言つてもらえるよう、樂
しい環境をつくつていきたいで
すね。

23 JFAnews2024年2月情報号

そのニュース速報が流れたのは、元日に行われたサムライブルー（日本代表）とタイ代表の試合直後のことでした。石川県能登地方での地震速報。「本震」は最初の速報から数分後のことだつたと思います。このときに私は、国立競技場の記者室でも揺れを感じました。

その後の大津波、火災、地域の孤立、停電、断水など、極寒の中、被災地の人々の苦しみが伝わってきました。そんな中、被災地から300キロ以上離れた東京の羽田空港であわや大惨事という事故が起きました。翌2日夕刻、被災地に向かおうとしていた海上保安庁の小型機と日本航空の大型旅客機が滑走路で衝突したのです。

海上保安庁の小型機に乗っていた6人のうち5人が死亡、1人が大けがを負いました。しかし、たちまち大炎上した日航機から乗客乗員379人全員が無事脱出できたのは、奇跡的なことでした。航空会社の日ごろの訓練とともに、恐慌をきたさず乗員の指示に従つて整然と脱出した乗客の「規律」のおかげだつたと言われています。

こうした航空機事故が起こるたびに、私は2つのサッカーチームを襲つた悲劇を思い出します。ひとつは1949年5

いつも心に 連載 Vol.130

大住良之 リスペクト (サッカージャーナリスト)

RESPECT
大切に思うこと

その国の文化の中にあるリスペクト

月、トリノという、当時イタリアで無敵を誇ったクラブを襲つた悲劇。そしてもうひとつは、1958年2月、イングランドのマンチェスター・ユナイテッドの悲劇です。

トリノは、ボルトガルのリスボンで親善試合をした帰りにトリノ空港への着陸態勢に入つてから市の郊外の丘に激突、選手18人を含む30人が亡くなりました。そしてマンチェスター・ユナイテッドは、ユーゴスラビア（現、セルビア）のベオグラードで行われた欧洲チャンピオンズカップ（現、チャンピオンズリーグ）の試合からの帰途、ミュンヘン（ドイツ）での給油からマン

チエスターに向かおうとしたときには離陸に失敗、乗客乗員44人のうち23人が死亡し、チームは8人が死亡、7人が重傷を負いました。トリノもユナイテッドも、実質的に一瞬のうちにトップチームをそつくり失つたのです。

しかし悲劇は、同時に、周囲にリスペクトの心も生み出します。事故が起つた時点では、イタリアの「セリエA」は4節を残すだけでした。トリノは首位に立ち、5連覇の偉業を目前にしていました。しかし2位インテル・ミラノも迫っていました。トリノは残りの試合をユース選手で戦うしかなく、インテルの

逆転優勝が濃厚と思われていました。

ところが、ここからトリノとセリエAで対戦した4クラブが、すべてユースチームを送り出してきました。トリノは4連勝でシーザンを終え、航空機事故の犠牲者たちに「5連覇」を報告することができました。

マンチェスター・ユナイテッドも、ユース選手を中心にしてチームをつくり、シーザンの残り試合に臨みました。そしてFAカップでは「ラウンド16」に当たる第5ラウンドから3連勝して決勝進出という快挙を成し遂げました。しかし14節も残していたリーグ戦では、まったく違う戦いになつたのです。

主力の大半を失つたユナイテッドに対し、いくつかのクラブは選手の貸し出しを申し出ました。一方で、「ユナイテッドを助けるために自チームを弱くすることなど、ユナイテッドは望んでいない」という意見もありました。

結局、14試合すべての対戦結果、ユナイテッドは残り試合で1勝しかできず、5分け8敗で最終順位は9位にまで落ちたのです。



1958年2月6日に起つたミュンヘンの悲劇で多くの仲間を失つたマンチェスター・ユナイテッド。事故から13日後にはFAカップ5回戦を戦い、3連勝して2年連続の決勝進出を果たした（写真は同年5月3日に行われた決勝前、フィリップ殿下と握手する選手たち。中央で握手する選手の左はボビー・チャルトン）

いつも心にリスペクトのバックナンバーはこちら ▷▷▷ <https://www.jfa.jp/respect/heart/>



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>令和5年度第102回全国高等学校サッカー選手権大会における
令和6年能登半島地震支援金寄付

令和5年度第102回全国高等学校サッカー選手権大会の準決勝、決勝の両日、東京都の国立競技場で令和6年能登半島地震の被災者支援のため

め、募金活動を実施した。日本サッカー協会（JFA）は、集まった1,661,282円を公益財団法人日本財団の災害復興支援特別基金に寄付した。

なでしこジャパン(日本女子代表)

<http://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>

4月開催の2024 SheBelieves Cupに参加が決定

なでしこジャパンが4月にアメリカへ遠征し、「2024 SheBelieves Cup」に参加することが決定した（1月19日発表）。参加国は開催国のアメリカとブラジル、カナダ、日本の4カ国。

●2024 SheBelieves Cup参加国と過去の対戦成績

- ・アメリカ女子代表 FIFAランキング 2位／日本の1勝8分け29敗（30得点103失点）
- ・ブラジル女子代表 FIFAランキング 11位／日本の6勝2分け5敗（21得点16失点）
- ・カナダ女子代表 FIFAランキング 10位／日本の8勝4分け4敗（26得点20失点）

※FIFAランキングは2023年12月15日時点

●マッチスケジュール（全て現地時間）

	試合日	キックオフ	対戦		会場
準決勝1	4月6日（土）	12:30	アメリカ女子代表	対	なでしこジャパン
準決勝2		15:30	カナダ女子代表	対	ブラジル女子代表
決勝 or 3位決定戦	4月9日（火）	16:00	なでしこジャパン	対	TBD ^{*1}
		19:00	アメリカ女子代表	対	TBD ^{*2}

*1：日本が準決勝1で勝利の場合、準決勝2の勝者と決勝で対戦する。日本が準決勝1で敗戦の場合、準決勝2の敗者と3位決定戦を戦う。

*2：アメリカが準決勝1で勝利の場合、準決勝2の勝者と決勝で対戦する。アメリカが準決勝1で敗戦の場合、準決勝2の敗者と3位決定戦を戦う。

フットサル日本代表

https://www.jfa.jp/national_team/futsal_2024/

フットサルポルトガル代表との国際親善試合を2月3日・5日に開催

フットサル日本代表が2月3日と5日、ポルトガルでフットサルポルトガル代表と国際親善試合を行うことが決まった（1月12日発表）。

【国際親善試合 概要】

対戦：フットサル日本代表 vs フットサルポルトガル代表

日時：2024年2月3日（土）20:00／日本時間4日（日）5:00 キックオフ予定

会場：Centro de Desportos e Congressos de Matosinhos（ポルトガル／ポルト）

対戦：フットサル日本代表 vs フットサルポルトガル代表

日時：2024年2月5日（月）20:00／日本時間6日（火）5:00 キックオフ予定

会場：Centro de Desportos e Congressos de Matosinhos（ポルトガル／ポルト）

●木暮賢一郎監督コメント

現在の世界王者であるポルトガル代表とアウェイの地で2試合行えることをうれしく思います。昨年夏に欧州各国の協会やクラブを訪問した際にまいだ種が実を結んだと実感しています。

今回の試合が、FIFAフットサルワールドカップの出場権を懸けたアジア最終予選となる4月のAFCフットサルアジアカップ前最後のFIFAインターナショナルウインドウ（国際Aマッチデー開催期間）での活動となるため、選手選考を含めて素晴らしい準備ができる絶好の機会にしたいと考えています。

JFAアカデミー福島

https://www.jfa.jp/youth_development/jfa_academy/

JFAアカデミー福島女子13期生の谷川萌々子選手がバイエルン・ミュンヘンに加入

JFAアカデミー福島女子13期生(U-18)の谷川萌々子選手がバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)に加入することが決定した。

なお、谷川選手は2024年1月から期限付き移籍によりFCローゼンゴード(スウェーデン)でプレーする(1月11日発表)。

【プロフィール】

氏名 : 谷川萌々子(たにかわ ももこ) / TANIKAWA Momoko)

ポジション : MF

所属元 : JFAアカデミー福島

所属歴 : 名古屋FCレディース→NGU名古屋FCレディース→名古屋
グランパス・三好→グランパスみよし→JFAアカデミー福島

国際Aマッチ : 2試合／0得点(第19回アジア競技大会(2022／杭州)の出場記録は除く)

●谷川萌々子選手コメント

2024年から海外でプレーすることを決断しました。JFAアカデミー福島で素晴らしい指導者、仲間に出会い、濃密な6年間を過ごすことができました。これまで支えてくださった方々に恩返しするためにも、ここで学んだことを生かし、海外でさらにレベルアップしたいと思っています。ヨーロッパの地から良い報告を伝えられるよう頑張りますので、引き続きの応援よろしくお願いします。

JFAアカデミー福島女子13期生の古賀塔子選手がフェイエノールトに加入

JFAアカデミー福島女子13期生(U-18)の古賀塔子選手が2024年1月より、フェイエノールト(オランダ)に加入することが決定した(1月15日発表)。

【プロフィール】

氏名 : 古賀塔子(こが とうこ) / KOGA Toko)

ポジション : DF

所属元 : JFAアカデミー福島

所属歴 : FC Grasion→JFAアカデミー福島

国際Aマッチ : 2試合／0得点(第19回アジア競技大会(2022／杭州)の出場記録は除く)

●古賀塔子選手コメント

JFAアカデミー福島で6年間、素晴らしい指導者の下、とても良い環境でプレーできることを非常に感謝しています。2024年からフェイエノールトでプレーすることになりましたが、プロの舞台でも日々成長して、日本を代表する選手になれるように頑張ります。引き続き応援よろしくお願ひします。

JFAアカデミー福島女子13期生の鹿島彩莉選手がちふれASエルフェン埼玉に加入

JFAアカデミー福島女子13期生(U-18)の鹿島彩莉選手が、ちふれASエルフェン埼玉に加入することが決定した(1月19日発表)。

【プロフィール】

氏名 : 鹿島彩莉(かしま あかり) / KASHIMA Akari)

ポジション : GK

所属歴 : 大沼サッカースポーツ少年団→JFAアカデミー福島

※2023年9月6日よりJFA・WEリーグ/なでしこリーグ特別指定選手としてちふれASエルフェン埼玉に選手登録

※参考: JFAアカデミー福島出身でWEリーグクラブ、海外プロクラブに加入した選手(2020年度以降/クラブは加入時)

2023年度卒校 谷川萌々子(バイエルン・ミュンヘン/ドイツ)、古賀塔子(フェイエノールト/オランダ)

2022年度卒校 佐々木里緒(マイナビ仙台レディース)、松窪真心(マイナビ仙台レディース)

2021年度卒校 石川璃音(三菱重工浦和レッズレディース)、太田萌咲(AC長野バルセイロ・レディース)

2020年度卒校 伊藤めぐみ(AC長野バルセイロ・レディース)、沼尾圭都(アルビレックス新潟レディース)、城和怜奈(ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>

令和6年能登半島地震による被害に対する義援金

令和6年能登半島地震による被害に対して、Jリーグは1月11日の臨時理事会で義援金1,000万円を拠出することを決定した。なお、「JリーグTEAM AS ONE」義援金募金として、口座振込での募金受け付け、ならびにJリーグ・Jクラブの試合(公式・非公式)および各公式行事やイベントなどの募金活動は4月末まで実施する。

【義援金(Jリーグ拠出)】

- ・拠出額 : 10,000,000円

- ・寄付先 : 日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」

明治安田J3リーグDAZNでの放映が決定

JリーグとJリーグオフィシャルプロードキャスティングパートナーであるDAZN Groupは、2025シーズンまでの明治安田J3リーグについて、放映権契約の締結に合意した。2023年3月に締結したDAZNとの放映権

契約に加えて、本契約の締結により、2024および2025シーズンの明治安田J1・J2・J3リーグ全試合をDAZNで放映する(1月22日発表)。

2023シーズンのJリーグをデータから振り返る 『J STATS REPORT 2023』を発行

Jリーグは、2023シーズンをデータから振り返る『J STATS REPORT 2023』を発行した。

ファン・サポーターやサッカーに関係する多くの人々にとって、データがより身近に、親しみやすいものになるように、また、データによる新しいサッカーの楽しみ方の提供や、日本サッカーの強化・育成・普及への貢献を目指して『J STATS REPORT』を創刊。同レポートでは、2023シーズンのJリーグ総括、各局面における分析結果、欧州5大リーグとの比較、J1クラブのチームスタッツがまとめられている。

名称 : J STATS REPORT 2023

発行日 : 2024年1月25日

発行 : 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

URL : <https://jlib.j-league.or.jp/#/content/82>



主な内容 :

【OVERVIEW】

各リーグ総括、各リーグ優勝チーム、最優秀選手賞・ベストイレブン

【ANALYSIS】

結果、オフェンス、ディフェンス、セットプレー、フィットネス、欧州5大リーグとの比較

【TEAM STATS】

J1リーグの18クラブのチームスタッツ

日本フットサルリーグ(Fリーグ)

<https://www.fleague.jp/>



Fリーグ2023-2024オールスター GAME の開催

Fリーグは1月7日、Fリーグ2023-2024オールスター GAME を3月19日に開催することを発表した。概要は右記の通り。

【開催詳細】

・日程 : 2024年3月19日(火)

・会場 : 墨田区総合体育館(東京都墨田区錦糸4丁目15-1)

※対戦カード、出場選手およびチケット販売などの詳細は決定次第発表

2024年度Fクラブライセンス結果

Fリーグは、2024年度Fリーグクラブライセンスの申請があった22クラブに関する判定結果について、一般社団法人日本フットサルトップリーグの理事会でFライセンス申請クラブとして審議し、下記の通り決定した(1月29日発表)。

●2024年度Fリーグクラブライセンス交付規則に基づき、2024年度Fリーグクラブライセンスが交付されたクラブ

- ・エスピーダ北海道
- ・ヴォスクオーレ仙台
- ・マルバ水戸FC
- ・バルドラール浦安
- ・リガーレヴィア葛飾
- ・フウガドールすみだ
- ・しながわシティ

- ・立川アスレティックFC
- ・ペスカドーラ町田
- ・Y.S.C.C.横浜
- ・湘南ベルマーレ
- ・ヴィンセドール白山
- ・ボアルース長野
- ・アグレミーナ浜松
- ・名古屋オーシャンズ
- ・シュライカーフ大阪
- ・デウソン神戸
- ・広島エフ・ドゥ
- ・ポルセイド浜田
- ・ミラクルスマイル新居浜
- ・ボルクバレット北九州
- ・パサジィ大分

日本女子フットサルリーグ

<https://w-fleague.jp>

日本女子フットサルリーグ2023-2024 各賞の受賞者が決定

日本女子フットサルリーグ2023-2024の各賞の受賞者が下記の通り決定した(1月28日発表)。75ページに関連記事あり。

【日本女子フットサルリーグ2023-2024 受賞一覧】

<チーム表彰>

優勝 : バルドラール浦安ラス・ボニータス(4年連続4回目)
フェアプレー賞 : 流経大メニーナ龍ヶ崎(2年ぶり3回目)

<個人表彰>

最優秀選手賞 : 筥井りさ／バルドラール浦安ラス・ボニータス(初受賞)

ベストファイブ : GK 佐藤麻陽／アルコ神戸(初受賞)

FP 筥井りさ／バルドラール浦安ラス・ボニータス(2年連続2回目)

伊藤果穂／バルドラール浦安ラス・ボニータス(2年連続2回目)

宮原ゆかり／バルドラール浦安ラス・ボニータス(初受賞)
池内天紀／福井丸岡ラック(初受賞)

得点王 : 江川涼／SWHレディース西宮(初受賞)

敢闘賞 : 玉川華帆／フウガドールすみだレディース(初受賞)

最優秀審判員賞: 松尾久美子(初受賞)

JFAこころのプロジェクト「ZOJIRUSHIユメセンサーキット2024」の開催～2024年度参加小学校を募集(3月8日まで)

JFAは、JFAこころのプロジェクトの支援企業である象印マホービン株式会社の協賛の下、「ZOJIRUSHIユメセンサーキット」を全国で開催する。12年目となる今年度は募集校を5校とし、新5年生を対象に「夢の教室」を実施。3月8日まで参加校を募集する。詳細は下記の通り。

【開催概要】

タイトル : 「ZOJIRUSHIユメセンサーキット2024」

開催時期 : 2024年5月下旬～10月予定

開催場所 : 全国の小学校5校にて開催予定

対象 : 2024年度の新5年生

実施単位 : クラス単位

開催規模 : 各地区1日2クラス実施 最大10回

主催 : 公益財団法人日本サッカー協会

協賛 : 象印マホービン株式会社

【募集概要】

応募対象 : 全国の小学校

※開催について相談が可能な代表者の方がご応募ください

※離島や遠隔地、少人数の学校でご希望の場合も事務局へお問い合わせください

募集期間 : 2024年2月5日(月)～3月8日(金)※最終日17:00必着

応募先 : ユメセンサーキット事務局

応募方法 : 所定の応募用紙にて事務局まで FAX(06-6445-2288)か郵送にて申し込み

※応募用紙はHPよりダウンロード、もしくは事務局に電話・FAX・郵送・e-mailにて請求

選考方法 : 応募校の中から、主催者が開催校を決定し、発表・通知する

●ユメセンサーキットHP

<https://www.zojirushi.co.jp/corp/yumesen/index.html>



●応募方法および問い合わせ先

ユメセンサーキット事務局

<https://www.zojirushi.co.jp/corp/yumesen/oubo.html>



【訃報】元国際審判員の丸山義行氏が逝去

国際審判員として活躍し、1970年に開催されたFIFAワールドカップメキシコ大会で日本人初のワールドカップ審判員(線審)となった丸山義行氏が1月15日に老衰のため死去した。92歳だった。

丸山氏は1931年10月28日生まれ、栃木県出身。1961年に国際審判員となり、1964年の第18回オリンピック競技大会(東京)で線審を務め、1968年の第19回オリンピック競技大会(メキシコシティ)では、ハンガリー対ガーナの主審を担当。1970年のFIFAワールドカップ(メキシコ)では、ペルー対ブルガリア、ペルー対モロッコの2試合で主審を務めた。1977年に現役を引退して以降は、日本の審判員の養成とレベルアップに尽力するとともに、母校の中央大学では監督としてチームを率い、全日本大学サッカー選手権大会で2度(1980年、1992年)の優勝を飾るなど、日本サッカーの発展に貢献した。1979年FIFA審判特別功労賞、1987年FIFA国際審判員顕彰を受賞。2009年日本サッカー殿堂入り。

ここに謹んで哀悼の意を表します。



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/TOYO TIRES CUP 2024 対タイ代表 先発メンバー(2024.1.1)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



讀賣新聞



日本フットボールリーグ（JFL）便り

シティスタイルでJFLの舞台へ

栃木シティ 代表取締役社長 大栗崇司

<https://tochigi-city.com/>

昨年、2023シーズンに7年ぶりのJFL昇格・復帰を果たしました。

一昨年はあと一步が届かず、かなり悔しい思いをしましたが、昨年は全国地域サッカーチャンピオンズリーグの決勝ラウンドが栃木県で開催され、多くのファン・サポーターの皆さまの後押しを受け、地元で悲願のJFL昇格をつかみ取りました。

栃木シティは栃木市と壬生町をホームタウンとし、県の南部を中心に、子どもたちへのサッカー教室やさまざまなイベントを展開しながら、地域の皆さまとの交流を図っています。少しでも日々の生活に“笑顔や樂しみ”をお届けできるよう「ホームタウン活動」に取り組み、地域の皆さまから愛されるクラブを目指して活動しています。

アカデミーは、U-25、U-18、U-15の三つのカテゴリーにおいてチームを強くする選手だけでなく、一社会人としてもトップで活躍できるような人材を育てることをテーマに活動し、良い選手・良い指導者・良い環境の三つを軸にさらなる向上を目指しています。そして「シティスタイル」(ボールをつなぐボゼッションサッカーと勝負にこだわる強いメンタリティー)を掲げ、トップチームとアカデミーが一貫したコンセプトの下、専任スタッフの指導によって、トップチームで活躍できる地元出身選手の育成を目指しています。

トップチームは今矢直城監督の体制となり、3年目のJFLへ臨みます。今年も見る人がわくわくするような、アグレッシブで攻撃的な

サッカーで戦います。5,000人収容のサッカー専用スタジアムならではの圧巻の迫力を、一人でも多くの皆さまにお届けしたいと考えています。

そして“J3昇格”を必ず果たすという目標を掲げ、そのために選手・スタッフの一人一人が自らのスタンダードを上げられるよう、毎日を積み重ねます。そして、この栃木の地に二つ目のJクラブを誕生させることの意義と重みをかみ締めながら、チーム一丸となり魂を込めて戦ってまいります。



悲願の昇格を果たした昨シーズン。今シーズンはJ3昇格を目指し、チーム一丸となってJFLを戦う



日本フットボールリーグ（JFL）便り

第25回フットボールリーグ（JFL）表彰

日本フットボールリーグ 事務局長 上保毅彦

<http://www.jfl.or.jp/>

昨年12月5日に第25回フットボールリーグ（JFL）表彰式を都内ホテルで実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で2年間実施できず、一昨年は3年ぶりに式典のみを開催。昨年は第21回大会まで行っていた式典後の立食懇親会を4年ぶりに実施しました。やはり、日頃の感謝を伝え、歓談の場でもある懇親会がある式典はいいもので、今後も継続して実施していきたいと考えています。

第25回JFLは、開幕2ヶ月前にFC神楽しまねが退会し、15チームでの開催となりました。前年の三浦知良選手のようなスター選手の存在がなく、入場者数も減り新記録となるような事項がなかったことから特別賞の表彰はありませんでした。また、異議の警告数やフェアプレーの対象となる反則ポイントが増えて残念な結果となりましたが、過去3度（第17回～第19回）のフェアプレー賞を獲得しているヴェルスバ大分が、6年ぶりに同賞を獲得。毎年フェアプレー賞の上位争いをしているチームだけに、今後もリーグの手本として活動していただくことを期待します。

団体の表彰は前号でお伝えした通り、優勝がHonda FC、準優勝はJFL復活となったブリオベッカ浦安、3位が前年最下位だったレイラック滋賀（旧、MIOびわこ滋賀）となりました。MVPは優勝したHonda FCの攻撃の中心選手である岡崎優希選手が初受賞。そして今回の注目は、得点王に輝いたミネベアミツミFCの日野友貴選手で

す。2位の岡崎選手に8得点差をつけ、19得点で初のタイトルを獲得しました。Jクラブからも注目された日野選手は、シーズン終了後に移籍し、2024年はJ3に活躍の場を移します。

この表彰式で第25回JFLシーズンの行事は全て終了し、翌日からは2024年度の第26回JFL開幕に向けた準備作業が始まりました。11月に開催された全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2024で優勝した栃木シティ（栃木県／関東リーグ）が新たに加わり、今年は16チームでリーグ戦が行われます。次号では3月2週目に開幕する第26回JFLの詳細などをご案内予定です。



第25回日本フットボールリーグ（JFL）ベストイレブン

なでしこリーグ便り

「地域のために戦う」強さを持ち、さらに大きな花を咲かせていきたい

ヴィアマテラス宮崎 代表 秋本範子



<https://www.miayazakisports.jp/>

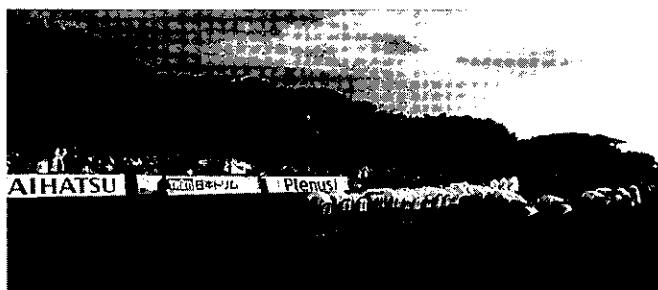
ヴィアマテラス宮崎は2020年にスタートしたクラブです。多くの選手は宮崎県新富町の地域おこし協力隊として、毎日の練習や毎週の試合だけでなく、地域の課題解決にも取り組んでいます。

新富町は人口約16,000人の小さな町ですが、Jリーグとなでしこリーグに所属する二つのクラブがホームタウンを置くフットボールタウンです。私たちヴィアマテラス宮崎には、創設以来、選手・スタッフと共に大切にしてきた言葉「～地域の花になる～」があります。ホームタウンである新富町の花となるよう、サッカーだけではなく、町に出てたくさんの人々に笑顔になっていただけるような活動を日々模索してきました。その中で選手たちは、アスリートが町の中で求められる姿とは何か、より近くに感じていただける存在となるためはどうしたらよいかと、祭りなど地元行事への参加、イベントの開催、選手が撮影からデザイン・制作まで担ったポスターやチラシを持っての企業訪問、サッカー教室での指導、手書き新聞の町内全戸配布、地元農家さんの収穫お手伝い、公園の草刈りや肥料まき、ワクワクする商品開発など、数えきれないくらいの活動を行ってきました。これらの活動の多くは選手たち自身が企画し、実行してきたものです。

そこには地域の方々に喜んでもらい、たくさんの笑顔が見たいという選手たちの思いがあります。3年目にはホームゲームに1,000人を超える来場者が訪れ、一番見ていただきたいサッカー選手として

の姿を間近で見てもらえるようになりました。それにぎわったホームゲームは、選手たちに大きな力をもたらし、強くしてくれています。

幼少期になでしこリーグを目指し、芽を出した小さな花の種たちが、指導者や関わる方々から栄養や水を与えられながらつぼみをつけ、太く大きな幹を育てています。そして今、幼少期に夢見た「なでしこリーグ」という土壤で花を咲かせています。これまで自身のために頑張ってきた選手たちが、温かく、優しく愛情を注いでくださるホームタウンの存在によって「地域のために戦う」強さを持ち、今後もさらに大きな花を咲かせることができるのではないかと思っています。2024シーズンも地域の花を多く咲かせられるよう、地域に寄り添いながら共に全力で駆け抜けていきたいと思います。



声援を送る地域の人々へ感謝（2023なでしこリーグ最終戦にて）

なでしこリーグ便り

なでしこリーグ初挑戦

SEISA OSAレイア湘南FC フロントスタッフ 江原奏音



<https://rhea.seisa-shonanoisosc.jp/>

私たちSEISA OSAレイア湘南FCは、2006年に中学生のカテゴリーで活動を開始しました。立ち上げから一貫して目指しているのは、「この地域でサッカーを続けることができる環境を作る」ということです。「サッカーがしたい」という6人の女の子たちの声でチームが始まり、クラブ創設から6年後、選手のニーズに応えるため、高校の部活動をユース年代のチームとして立ち上げました。その後、社会人カテゴリーにトップチームをつくり、徐々に活動の幅を広げながら、挑戦を続けています。2023シーズンにはなでしこリーグ参入を決めることができ、2024シーズンから新たな舞台に挑みます。初挑戦となるなでしこリーグで、全国のチームを相手に戦えることがとても楽しみです。

サッカー面では、世界基準で戦える選手の育成を目標に活動しています。中学生、高校生年代から勝負にこだわりながらも一貫指導で個の技術や戦術理解を磨いています。その集大成であるトップチームがなでしこリーグ昇格を果たせたことは、大きなステップアップであると実感しています。現在トップチームに在籍する選手は、全員が下部組織である星槎国際高等学校湘南の卒業生または在校生です。なでしこリーグでも質の高いサッカーを表現できるようにトレーニングに励みます。そして会場に足を運んでくださるお客様が面白い、また見に来たいと思うようなプレー、子どもたちの手本や目標になる

ようなプレーをお見せしたいと思います。

また、創設時から「人と地域に愛されるクラブ」を目指して活動してきました。これまでの活動でも多くの方に支えられ、応援していただき、なでしこリーグまで来ることができました。ホームゲームでは地域の方々に楽しんでもらえる場を提供し、人の交流が生まれるような場にしたいと考えています。

地域貢献活動としては、地元のサッカー教室やイベントなどのお手伝いなども積極的に行ってています。今後も地域とのつながりを大切にし、ますます応援してもらえるようなチームにならざるを得ないと思います。なでしこリーグという全国のトップリーグで戦うこと、地域をもっと元気にできるような活動に努めます。



なでしこリーグ2部入替戦でゴールを決めて喜ぶ選手たち



日本フットサル連盟便り

1試合ごとに成長、フットサル奈良県女子選抜の活躍

関西フットサル連盟 理事長 梅本成彦

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

「日本トリム Presents 第15回全国女子選抜フットサル大会」が2023年11月17日から19日、福岡県北九州市で開催され、関西大会を勝ち抜いて出場した奈良県女子選抜チームが、初出場にして初優勝という快挙を成し遂げました。

今大会は全国9地域と開催地から選出された12チームが参加しました。奈良県女子選抜は、昨年度の地域女子フットサルチャンピオンズリーグ（単独チームによる全国大会）で準優勝したバディフットサルクラブ フィオーレを中心とする3チームから選手を選出。前回大会準優勝の広島県選抜、開催地枠の福岡県選抜など、強豪ひしめく予選Bグループを3戦全勝で1位通過し、決勝トーナメントの準決勝では、同じ関西地域代表で過去最多6回の優勝を誇る兵庫県選抜にも競り勝ちました。続く決勝では、今大会MVPに輝いたエース高橋京花のハットトリックや敢闘賞を受賞したキャプテン南麻菜らの活躍をはじめ、チームが一丸となって猛攻を仕掛け、広島県選抜に8-4で勝利して見事頂点に立ちました。

関西大会を含めた8試合を全勝した奈良県女子選抜。しかし、その道のりは決して平坦ではありませんでした。奈良県はフットサルの競技人口が少なく、高いレベルを求めて県外に活動の場を移す選手が多くいます。そんな状況の下、奈良で生まれ育った選手や奈良に戻ってきた選手を集め、なんとかチームを編成。登録選手数は、参加12チー

ム中最小の12人で挑みました。8試合のうち5試合が1点差での勝利となるなど、どれも紙一重の勝利だったと思います。

普段は別々のチームに所属し、フットサルやサッカーの公式戦で活躍している選手たちですが、濱口和基監督の下、厳しい試合を重ねるごとにチームが一つにまとまり、仲間を信じて自信を持ってプレーしたことが、他府県の強豪と対等に渡り合えた要因だったと思います。

国内では、まだ認知度の低い競技ですが、2025年にはFIFA女子フットサルワールドカップが初開催されることが決まっています。近い将来、日本を代表して世界で戦ってくれる選手が関西から出てくることを期待しています。

最後になりますが、このような素晴らしい大会を提供いただいたことに対し、日本トリムをはじめとする協賛各社や関係者の皆さま、主催いただいた日本フットサル連盟、大会運営にご尽力いただいた福岡県サッカー協会、九州フットサル連盟、福岡県フットサル連盟、北九州市サッカー協会、そして、北九州市の皆さんに心より御礼申し上げます。



奈良県女子選抜は16歳から42歳までの12人の選手で編成。選手全員が大会で成長を遂げ、MVP級の活躍をした

日本ビーチサッカー連盟便り

3月に地域女子チャンピオンズカップとU-12フェスティバルを開催!

一般財団法人日本ビーチサッカー連盟 事務局

<http://jbsf.or.jp/>

3月9日から10日、「第6回Beach Soccer 地域女子チャンピオンズカップ」を沖縄県西原きらきらビーチで開催します。この大会は2019年に第1回を開催し、コロナ禍を経て今年で6回目を迎えます。女子のチームや競技人口はまだ少ないのですが、昨年の第5回大会には初参加のチームを含む11チームが参加するなど、少しずつ増えています。競技もレベルアップしており、高い個人技術やビーチサッカーならではのアクロバティックなプレーが随所に見られ、見応えのある試合も多くあります。

昨年、ビーチサッカー日本女子選抜チームの活動がスタートし、女子選手の新たな目標ができたことも女子選手の競技力が向上している要因だと思います。今年も地域の大会や教室、そして女子選抜の活動を通して、ビーチサッカー女子選手の活躍の場を増やしていくと考えています。

また、昨年に引き続き、3月23日から24日には、U-12を対象とした全国規模のU-12公式ビーチサッカー大会「第2回ビーチサッカー U-12フェスティバル」を兵庫県明石市大蔵海岸で開催します。3月2日から3日には、「第1回東海ビーチサッカー U-12フェスティバル」が静岡県浜松市の遠州灘海浜公園江之島ビーチコートで開催されます。日頃サッカーに打ち込んでいるU-12年代チームを対象としたビーチサッカーの試合環境の創出、ビーチサッカーが体験で

きる機会づくりを多くの協力者とともに行っています。

U-12フェスティバルは、普段なかなかビーチサッカーに関わる機会が少ない育成年代の選手が初めてビーチサッカーを体験する場として、砂の上を走ることの楽しさを味わい、はだしでボールを蹴る感覚を身につけてもらうことを目的としています。このフェスティバルをきっかけにビーチサッカーに興味を持つ子どもが増えています。自分がどの位置でボールを蹴っているのかを理解する機会にもなっており、サッカー技術の向上につながっていることを実感しています。

今後も大会やフェスティバルの開催を通じて全国各地でビーチサッカー競技の認知を広げ、将来、「ビーチサッカー選手になりたい」と夢を抱く子どもたちを増やしていきたいと思っています。



第5回地域女子チャンピオンシップ 開会式の様子



第1回ビーチサッカー U-12フェスティバル開会式

日本障がい者サッカー連盟便り



JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023を開催!

～「障がい者サッカーチャレンジひろば」をイベント内で初実施

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 事務局スタッフ 井上由惟子

<https://www.jiff.football/>

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は昨年12月23日、J-SOCIETY FOOTBALL PARK多摩(東京都)で「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023」を開催しました。

同イベントは、障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒にサッカーを楽しむイベントで、8回目の開催となる今回は毎年恒例のまぜこぜサッカー、まぜこぜウォーキングフットボールのほか、主に障がいのある子どもたちを対象とする「障がい者サッカーチャレンジひろば」を初めて実施しました。

午前の部の「障がい者サッカーチャレンジひろば」では、視覚障がい、聴覚障がい、身体障がい、知的・発達・精神障がい等のある人それぞれが楽しめるサッカーと、自分に合った方法を見つけたい人向けのサッカーとして、道具・ルール・内容を工夫したプログラムを展開。延べ68人の子どもたちが参加しました。初めてサッカーをする子どもたちも多く、最初は遠慮がちな姿も見られましたが、すぐに打ち解け、笑顔あふれる時間となりました。

午後の部のまぜこぜサッカーは、都内のJリーグ、Fリーグ、WEリーグ、なでしこリーグ、Jリーグ百年構想クラブなどの在京クラブの指導者や障がい者サッカーチームの皆さんに協力をいただいて実施しました。37人の子どもたちが参加し、ダンスやアイスブレイクを行った後、ボールを

蹴って楽みました。

まぜこぜウォーキングフットボールは、障がいの有無だけでなく、未就学児から高齢者まで年齢も幅広い33人の皆さんに楽しんでいただきました。また、対面プログラムのほか、障がいや病気などで会場に来るのが難しい人、遠方に住む人も参加できるよう、オンラインプログラムも実施し、参加者が一つでも多くの選択肢を持てるよう努めました。

開催にあたり、今年も在京クラブや障がい者サッカーチーム・団体、そして多くのボランティアの方々にご協力いただき、共にイベントをつくり上げることができたことに心より感謝いたします。今後もJIFFは、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりを通じて、共生社会の実現を目指していきます。



JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023 集合写真

全日本大学サッカー連盟便り



進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む。

一般財団法人全日本大学サッカー連盟 常務理事 櫻井友

<https://www.jufa.jp/>

2023年は、1月1日に国立競技場で行われたMCCスポーツpresents 2022年度第71回全日本大学サッカー選手権大会の決勝に始まり、12月24日に茨城県立カシマサッカースタジアムで行われたMCCスポーツpresents 2023年度第72回全日本大学サッカー選手権大会の決勝で明治大学が3大会ぶり4回目の優勝を飾り、無事に終了しました。

2023年は歴史的な1年でした。史上初めて1月1日に国立競技場で全日本大学サッカー選手権大会決勝を行ったこともそうですが、同大会で新潟医療福祉大学が北信越勢として初めて全国大会の決勝に進出したほか、夏に行われた総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントでは富士大学が東北勢初となる全国制覇を成し遂げました。また、DENSO CUP SOCCER 第22回大学日韓(韓日)定期戦においては、アウェイゲームで初勝利を飾りました。

そんな歴史的な年の翌年である2024年は、夏に行われている総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントと冬に行われる全日本大学サッカー選手権大会の大会形式を大幅に変更する、大改革の年となります。両大会ともに24チーム参加によるノックアウト方式で行われてきましたが、2024年より総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントは32チームによるノックアウト方式に、全日本大学サッカー選手権大会は28チーム参加による3ラウンド制となります(詳細は右記URLを参照ください)。

今回の改革に伴って試合数が大幅に増えるため、運営等に大変な労力

が必要となります。それでもこの大改革によって、今まで以上に質の高い試合が増え、選手の成長につながると考えています。以前、この蹴球通信でもお伝えさせていただきましたが、「大変だからやらない」といつて現状を維持することは後退しかありません。福沢諭吉の『學問のすゝめ』に、「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」という言葉があるように、絶え間ない挑戦が前に進むことにつながるので、2024年も課題と向き合いながら前に進み続けたいと思います。

最後になりましたが、サッカーを支えてくださっている全ての方々に感謝申し上げるとともに、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

<https://www.jufa.jp/news/news.php?nowpg=2&kn=1517>



2023年度 第47回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝の富士大学 DENSO CUP SOCCER 第22回大学日韓(韓日)定期戦の全日本大学選抜チーム

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。

彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフストランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの) Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。

JFFE 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー

パートナー



住友ベークライト



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会

Bewith
CUSTOMER INSIGHT CENTER

MSOL

三菱商事

会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度第1回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2024年1月11日、2024年度第1回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | | | |
|---------------------------|-----------|-----------------------------------|-----------|
| 1. 臨時評議員会開催 | P35 | 4 「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」等の改正 | P36 |
| 2. チーム／選手登録制度改革タスクフォースの設置 | P35 | 5 U-16日本代表監督選任 | P36 |
| 3. JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣（新規） | P35 | 6 令和6年能登半島地震に対する支援 | P36 |

臨時評議員会 開催

下記の通り、臨時評議員会を開催する。

開催日時：2024年1月28日（日）14:00～

開催方法：ウェブ会議システム

議題：●決議事項

(1) 役員等推薦委員会設置の件

チーム／選手登録制度改革タスクフォースの設置

「JFA2005年宣言」の具現に向けて、Japan's Wayに基づくより良いサッカー環境づくりの基盤となる登録制度の改革を進めている。

ついては、特にチーム／選手の登録制度の最終的な改革案を取りまとめることが主な目的として、下記の通り、タスクフォースを設置する。

(1) 名称

チーム／選手登録制度改革タスクフォース

(2) 目的

チーム／選手登録に関する以下の事項の検証、取りまとめ

①制度改定コンセプトの策定

②改定案における基本構造、改変点、影響事項の確認および検証

- クラブ、チーム、選手の登録構造
- 制度改定がゲーム環境に与える影響
- 登録年度の考え方とシーズン移行対応など

③チーム／選手登録制度改革案の策定

- JFAおよび47都道府県サッカー協会（47FA）における制度改革案の策定
- ゲーム環境の整備、競技会運営等に関する対応事項
- 登録料に関する事項（JFAおよび47FA）など

(3) 構成

宮本恒靖：専務理事

今井純子：理事／女子委員会副委員長

影山雅永：技術委員会 育成部会長

小西鉄平：フットサル委員会副委員長

宇尾野浩：公益財団法人東京都サッカー協会 事務局長

徳田康：公益財団法人愛知県サッカー協会 専務理事

松下涼太：一般社団法人熊本県サッカー協会 事務局長

※2月に公益社団法人日本プロサッカーリーグから1名追加予定

(4) 期間

2024年1月～2024年7月を予定

JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣（新規）

(1) チャイニーズ・タイペイ

チャイニーズ・タイペイサッカー協会よりユース育成ダイレクター兼ユース指導者養成ダイレクター派遣の依頼を受け、JFAアジア貢献事業の一環として、新たに下記の指導者を派遣する。

名前：池内豊（いけうち・ゆたか）

資格：JFA S級コーチライセンス

派遣先協会：チャイニーズ・タイペイサッカー協会（CTFA）

役職：ユース育成ダイレクター兼ユース指導者養成ダイレクター

契約期間：2024年2月1日～2025年1月31日

(2) カンボジア

カンボジアサッカー連盟よりテクニカルダイレクター派遣の依頼を受け、JFAアジア貢献事業の一環として、新たに下記の指導者を派遣する。

名前：市川重明（いちかわ・しげあき）

資格：JFA A級コーチライセンス

派遣先協会：カンボジアサッカー連盟（FFC）

役職：テクニカルダイレクター

契約期間：2024年4月1日～2025年1月31日

「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」等の改正

FIFA規則（選手の地位および移籍に関する規則）の一部改正（2023年4月1日施行）に基づき、国内規則の関連条項の改正を行う。また、各種規則について実態に合わせて表現を適正化する改正を行う。主な改正点は下記の通り。

（1）登録ウインドーの再定義

FIFA規則の改正に伴い、二つの登録ウインドーの期間について規定が変更された（登録ウインドーの定義が、初回のウインドーは「12週間以内」から「8週間以上12週間以内」、2回目のウインドーは「4週間以内」から「4週間以上8週間以内」にそれぞれ変更された）。これを受け、男子の登録ウインドーについて、第1登録ウインドーを「毎年1月に始まり、当該年3月の第4水曜日を最終日とする66日間」、第2登録ウインドーを「毎年7月に始まり、当該年8月の第3水曜日を最終日とする45日間」と再定義する。

※女子の登録ウインドーについては、WEリーグの新シーズン（2024/2025シーズン）の開始までに別途検討する。

（2）シーズンの定義の変更

FIFA規則において「シーズン」の定義が変更され、国内規則における「登録年度」と同義であることが示されたため、これに伴う変更を行う。

（3）「競技会期間」を規定

FIFA規則において「競技会期間」が定義されたため、国内規則においてもこれを規定する。

（4）育成型期限付移籍に係る改正

Jリーグの要請を踏まえ、同一リーグ内においても育成型期限付移籍を可能とするよう改正する。

（5）その他、実態に合わせた表現の適正化

改正の対象となる規則は下記の通り。

- プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則
- サッカー選手の登録と移籍等に関する規則
- 女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則
- プロフットサル選手の契約、登録および移籍に関する規則
- フットサル選手の登録と移籍等に関する規則

U-16日本代表監督選任

U-16日本代表（FIFA U-17ワールドカップを目指す日本代表チーム）の監督に廣山望（ひろやま・のぞみ）氏を選任する。

略歴は下記の通り。

＜プロフィール＞

廣山望

生年月日：1977年5月6日

出身地：千葉県

サッカー歴：1993～1995年 習志野市立習志野高校サッカー部
1996～2000年 ジュニアユース（市原）
2001年 セロ・ポルテニョ（パラグアイ）
2002年 スポルチ・レシフェ（ブラジル）
2002～2003年 スポルティング・ブラガ（ポルトガル）
2003～2004年 モンペリエHSC（フランス）
2004年 東京ヴェルディ1969

指導歴	2005年	セレッソ大阪
	2009～2010年	ザスパ草津
	2011～2012年	リッチモンド・キッカーズ（アメリカ）
	2013～2014年	JOCスポーツ指導者海外研修（スペイン・バルセロナ）
	2014年	JFAアカデミー福島U-15B 監督
	2015年	JFAアカデミー福島U-15 監督
	2016年	JFAアカデミー福島U-18 チャレンジ 監督
	2017年	U-15日本代表コーチ／JFAアカデミー福島U-14 監督
	2018年	JFAアカデミー福島U-15 監督
	2019～2020年	U-15／U-16／U-17日本代表 コーチ
	2021年	U-15日本代表監督／JFAアカデミー福島コーチ
	2022年	U-15日本代表監督／U-16日本代表コーチ
資格	2023年～	U-16日本代表監督／U-17日本代表コーチ
	2016年	JFA S級コーチライセンス

令和6年能登半島地震に対する支援

閣議にて激甚災害として指定された令和6年能登半島地震に係る被害に関して、被災した地域の一刻も早い復旧を願い、下記の通り対応する。

●義援金

金額：①500万円

②募金活動およびクラウドファンディング等を通じて受ける寄付金等の全額

寄付先：日本赤十字社

被害が広域に及んでいることから、被災自治体ではなく日本赤十字社を通じて寄付することとした。

なお、その他の支援、サッカーファミリー復興支援金や個別支援については、当該地域のサッカー施設等の被害状況や復興状況等を調査の上で支援内容を検討し、理事会への付議他、適宜対応することとした。

【義援金の過去実績（10年以内）】

2014年7月・8月	「台風11号・12号・前線による豪雨」（広島県）200万円
2015年9月	「台風18号等」（茨城県）200万円
2016年4月	「熊本地震」（熊本県）500万円
2018年7月	「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」（岡山県・広島県・愛媛県等）1,000万円
2018年9月	「平成30年北海道胆振東部地震」（北海道）200万円
2019年10月	「令和元年台風19号」（宮城県・福島県・茨城県・長野県他）300万円

報告事項

1 第26回FIFAカウンシル会議(12月17日開催)	P37
2 第3回 AFC理事会(12月21日開催)	P37
3 第73回東アジアサッカー連盟(EAFF)理事会(12月7日開催)	P38
4 千葉市との包括連携協定の締結	P38
5 2024年男子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制	P38
6 2024年女子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制	P38
7 2024年度S級コーチ養成講習会受講者	P39
8 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ	P39
9 2024年プロフェッショナルレフェリー契約	P39
10 JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣(継続)	P40
11 指導者ライセンス認定: S級コーチライセンス	P40
12 指導者ライセンス認定	P41
13 審判員および審判指導者の海外派遣	P41
14 2023年度新規女子1級審判員認定	P41
15 天皇杯実施委員会委員の変更	P41
16 1級勇退審判員および1級審判インストラクター 勇退者表彰	P42
17 日本サッカー後援会 会員表彰	P42
18 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)	P43

第26回FIFAカウンシル会議(12月17日開催)

第26回FIFAカウンシル会議が2023年12月17日にサウジアラビアのジッダで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

(1) FIFAクラブワールドカップ

2025年以降、32チームが参加予定のFIFAクラブワールドカップについて、以下の通り決定した。

①米国開催が決定しているFIFAクラブワールドカップ2025は、2025年6月15日から7月13日に開催する。

②大会の正式名称を「Mundial de Clubes」とする。

③大陸ごとに以下の出場枠を設ける。

アフリカサッカー連盟(CAF)4チーム、アジアサッカー連盟(AFC)4チーム、ヨーロッパサッカー連盟(UEFA)12チーム、北中米カリブ海サッカー連盟(CONCACAF)4チーム、オセニアサッカー連盟(OFC)1チーム、南米サッカー連盟(CONMEBOL)6チーム、ホスト国1チーム(ホスト国からの出場条件は引き続き協議する)

④同大会への出場条件として採用するクラブランキング方式およびトーナメント形式について、あらためて確認した(グループステージは4チームずつ8グループに分かれて総当たりリーグを行い、上位2チームがノックアウトステージ[ラウンド16]に進出する。3位決定戦は実施しない)

(2) FIFAインターベンチナルカップ

●2024年以降、全大陸連盟の優勝クラブが出場し、決勝戦をUEFAチャンピオンズリーグ優勝クラブとその他大陸連盟から勝ち抜いたクラブが中立地で対戦する大会について、正式名称を「Coupe Intercontinentale de la FIFA (FIFAインターベンチナルカップ)」に決定した。

●ファーストステージは、ステージAとステージBで構成される。ステージAはAFCチャンピオンズリーグ、CAFチャンピオンズリーグ、OFCチャンピオンズリーグの各優勝クラブが対戦し、ステージBはCONCACAFチャンピオンズカップとCONMEBOLリベルタドーレスの各優勝クラブが対戦する。

●第1回大会の日程を以下の通り決定した。

①ファーストステージ: 各クラブおよび大陸連盟と協議の上、FIFAが後日決定

②プレーオフ: 2024年12月14日に中立地で開催

③決勝: 2024年12月18日にプレーオフと同じ中立地で開催

(3) FIFA U-20ワールドカップ2025およびFIFA U-20女子ワールドカップ2026のホスト決定

●FIFA U-20ワールドカップ2025のホストをチリに決定し、出場枠数を以下の通り決定した。

AFC : 4、CAF : 4、CONCACAF : 4、CONMEBOL : 4、OFC : 2、UEFA : 5、ホスト国 : 1

●FIFA U-20女子ワールドカップ2026のホストをポーランドに決定し、出場枠数を以下の通り決定した。

AFC : 4、CAF : 4、CONCACAF : 4、CONMEBOL : 4、OFC : 2、UEFA : 5、ホスト国 : 1

(4) その他

●女子トレーニング補償システムの検討に向けた基本的枠組みを承認し、タスクフォースの創設を決定した。

●National Dispute Resolution Chamber Recognition Principles(国内紛争解決機関認定のための原則)およびAnnexe 1を含む、National Dispute Resolution Chamber Standard Regulations - 2023 edition(国内紛争解決機関の標準規則 2023年版)を承認した。

●以下の大会日程をインターナショナルマッチカレンダーに追加することを決定した。

①OFC ネーションズカップ 2024 : 2024年6月15日～6月30日

②CONCACAF ゴールドカップ2025 : 2025年6月14日～7月6日

③OFC 女子サッカーオリンピック予選大会2024 : 2024年2月7日～2月19日

④UEFA 女子EURO 2025 : 2025年7月2日～7月27日

第3回 AFC理事会(12月21日開催)

第3回AFC理事会が2023年12月21日にサウジアラビア・ジッダで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

(1)ガバナンスの強化に向けた「AFC Reform Taskforce (AFC改革タスクフォース)」を創設することを決定した。

(2)東アジアサッカー連盟代表AFC理事へのMr. Valentino SAN GIL(グアム)の任命、ならびに中央アジア地域女性特任理事へのMs. Mijgona MAHMADALIEVA(タジキスタン)の任命について報告した。

(3)2024年度に開催予定の「AFCアニュアルアワード2023」および「AFC加盟協会&地域連盟会長・専務理事カンファレンス2024」を韓国で開催することを決定した。

(4)理事のMs. Susan SHALABI(パレスチナ)より、ガザの紛争によるパレスチナの困難な状況について報告があり、AFC理事は、団結してパレスチナサッカー協会とパレスチナに対し、強固な支援を行うことを表明した。

第73回東アジアサッカー連盟(EAFF)理事会(12月7日開催)

第73回EAFF理事会が2023年12月7日にマカオで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) 第72回EAFF理事会(2023年10月31日 カタール／ドーハ開催)の議事録を承認した。
- (2) 2023年度修正予算を承認した。
- (3) 2024年度予算案を承認した。
- (4) 2024年度の競技会日程を承認した。
- (5) EAFF中国・杭州事務局の閉鎖を承認した。

- (6) 第12回EAFF総会を2024年3月30日に東京で開催し、現在空席となっているEAFF理事2枠(副会長と理事)の選挙を実施することを承認した。
- (7) WANG Ling-Hsiang氏(チャイニーズ・タイペイ)を会長付メディアアドバイザーに選任することを承認した。
- (8) 中国・珠海およびマカオにて開催のEAFF E-1サッカー選手権予選大会(女子)について報告した。
- (9) EAFF事務局本部を東京に置き、会長が選出された国にプレジデントオフィスを設置する案について協議した。

千葉市との包括連携協定の締結

千葉市とJFAは2023年12月26日、千葉市役所庁舎にて高円宮記念JFA夢フィールドを核とした包括連携協定を締結した。この協定は、双方の資源やノウハウを有効に活用し、幕張新都心をはじめとする千葉市におけるスポーツ振興や健康づくりを通して、未来へつなぐまちづくり、地域の一層の活性化および市民サービスの向上に資することを目的として締結されたもの。

●主な協定内容

千葉市とJFAは、次の事項について連携し、協力する

- (1) スポーツの普及・振興に関すること
- (2) インクルーシブな健康づくりの推進に関すること

- (3) 未来につながる人材育成や学習機会の創出に関すること
- (4) 幕張新都心をはじめとした千葉市のまちづくりや交流に関すること
- (5) 地域経済活性化や環境保全に関すること
- (6) その他の本協定の目的達成に資すること

●期間

協定締結日: 2023年12月26日から2025年3月31日までとする。

ただし、本協定の有効期間満了日の2ヵ月前までに両者のいずれからも申し出がないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

2024年男子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制

2024年男子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制は、下記の通り。

●世代別のFIFAワールドカップを目指す全ての日本代表チーム(日本代表チームを除く)の監督およびコーチングスタッフの選任

<2024ナショナルコーチングスタッフ体制>

★=新任

チーム	監督	代表強化 各代表チームスタッフ		
		コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ
SAMURAI BLUE(日本代表) 2026FIFAワールドカップ	森保一	名波浩 齊藤俊秀 前田遼一	下田崇	松本良一
U-22日本代表 AFC U23アジアカップ2024 オリンピック競技大会(2024/パリ)	大岩剛	羽田憲司	浜野征哉	矢野由治
U-19日本代表 AFC U20アジアカップ2025 FIFA U-20ワールドカップ2025	船越優蔵	菅原大介	高原寿康	★菅野淳
U-18日本代表	船越優蔵	菅原大介	高原寿康	★菅野淳
U-17日本代表	*	*	*	*
U-16日本代表 AFC U17アジアカップ2025 FIFA U-17ワールドカップ2025	★廣山望	★大畑開	★山岸範宏	★佐藤哲哉
U-15日本代表	平田礼次	*	井出大志	*

*ナショナルコーチングスタッフ、ナショナルトレセンコーチ、ロールモデルコーチ、各種プロジェクトメンバーより技術委員会にて適宜選任予定。

2024年女子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制

2024年女子代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制は、下記の通り。

●世代別のFIFA女子ワールドカップを目指す日本女子代表チーム(日本女子代表チームを除く)の監督およびコーチングスタッフの選任

<2024ナショナルコーチングスタッフ体制[サッカー女子担当]>

各代表チームスタッフ					
チーム	監督	コーチ	コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ
なでしこジャパン(日本女子代表) オリンピック競技大会(2024/パリ)	池田太(S) [JFA]	宮本ともみ(S) [JFA]	寺口謙介(A) [JFA]	西入俊浩(A/GK-L3) [JFA]	大塚慶輔 【株式会社ライフパフォーマンス】
U-20日本女子代表 FIFA U-20女子ワールドカップ 2024 【SAGAWA SHIGA FC】	狩野倫久(S) JFAコーチ (地域担当なし)	岡本三代(S) JFAコーチ (地域担当なし) [JFA]		小林忍(A/GK-A) JFAコーチ GKサブチーフ [JFA]	中西健一郎 【静岡産業大学】
U-17日本女子代表 FIFA U-17女子ワールドカップ 2024	白井貞義(S) JFAコーチ (地域担当なし) [JFA]	金野結子(S) JFAコーチ (地域担当なし) [JFA]		井嶋正樹(A/GK-A) JFAコーチ GKチーフ [JFA]	山田庸 【びわこ成蹊スポーツ大学】

2024年度S級コーチ養成講習会受講者

2024年度S級コーチ養成講習会の受講者について、2023年12月にトライアルを実施し、選考した結果、下記の通り決定した。

【トライアル概要】

指導実践：12月8日（金）、9日（土）、10日（日）

個人面談：12月15日（金）、16日（土）

申し込み数：59名

選考方法：指導実践、映像分析、面談を実施

上記選考方法にて実施したトライアルの成績順により、上位20名を選考。

2024年度S級コーチ養成講習会 受講者【20名】

氏名 ふりがな	性別	年齢	指導チーム・所属	役職
赤井秀一 あかい しゅういち	男性	42	愛媛FC U-18/U-15	アカデミーヘッドオブコーチ
阿部勇樹 あべ ゆうき	男性	42	浦和レッズ ユースチーム	コーチ
石田美穂子 いしだ みほこ	女性	41	ニッパツ横浜FCシーガルズ	監督
入江徹 いりえ とおる	男性	46	アルビレックス新潟	ヘッドコーチ
大和田真史 おおわだ まさし	男性	42	ジェフユナイテッド市原・千葉	コーチ
小笠原資暉 おがさわら もとたか	男性	40	東京ヴェルディジュニアユース	監督
加藤知弘 かとう ともひろ	男性	44	静岡産業大学サッカー部	ヘッドコーチ

氏名 ふりがな	性別	年齢	指導チーム・所属	役職
工藤輝央 くどう てるひさ	男性	43	ベガルタ仙台	GKコーチ
栗澤僚一 くりさわ りょういち	男性	41	柏レイソル	トップチームコーチ
迫井深也 さこい しんや	男性	46	サンフレッチェ広島	ヘッドコーチ
杉浦大輔 すぎうら だいすけ	男性	49	コンサドーレ札幌	コーチ兼通訳
津田恵太 つだ けいた	男性	37	JFAアカデミー福島WEST U-18	監督
永井雄一郎 ながい ゆういちろう	男性	44	KONOSU CITY FOOTBALL CLUB	監督
中村俊輔 なかむら しゅんすけ	男性	45	横浜FC	トップチームコーチ
中村直志 なかむら なおし	男性	44	名古屋グランパス	アカデミーマネージャー
西川陽介 にしかわ ようすけ	男性	46	ヴァンフォーレ甲府	フットボール部部長兼アカデミーダイレクター
西嶋弘之 にじま ひろゆき	男性	41	JFAコーチ東北担当	チーフ
林陵平 はやしりょうへい	男性	37	東京大学運動会式蹴球部	監督
福王忠世 ふくおう ただよ	男性	39	清水エスパルスユース	コーチ/セカンドチーム監督
宮寺哲平 みやでら てっぴ	男性	30	湘南ベルマーレU-15EAST	監督

(※50音順／指導チーム・所属、役職はトライアル申し込み時のもの)

47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ

47都道府県サッカー協会(47FA)におけるFAコーチの選任については、2019年度第9回理事会(2019年10月10日開催)において47FA向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会で審査を行った結果、右記の通り新たに2FAで決定した。

未定となっているFAについては、申請があり次第、隨時審査を行う。

既設置FA : 36FA

今回決定したFA : 2FA ※熊本県FA(新規)、徳島県FA(交代)

合計 : 37FA

【47FAコーチ一覧(今回報告)】

(専任者配置FA数: 37 / 47FA)

No	FA名	名前	保有ライセンス	備考
1	徳島県	東泰	S級	2024年2月就任 ※前任者からの交代
2	熊本県	野元恒兵	A級ジェネラル	2024年1月就任

2024年プロフェッショナルレフェリー契約

2024シーズンのプロフェッショナルレフェリー(PR)として、下記19名と契約を締結した。

【主審】

名前	ふりがな	年齢(※1)	PR就任年
西村雄一	にしむら・ゆういち	52才	2004年
飯田淳平	いいだ・じゅんぺい	43才	2011年
木村博之	ぎむら・ひろゆき	42才	2012年
山本雄大	やまもと・ゆうだい	41才	2015年
荒木友輔	あらき・ゆうすけ	38才	2018年
今村義朗	いまむら・よしろう	47才	2020年
福島孝一郎	ふくしま・こういちろう	41才	2020年
池内明彦	いけうち・あきひこ	41才	2021年
笠原寛貴	かさはら・ひろき	35才	2021年
中村太	なかむら・ふとし	46才	2022年

名前	ふりがな	年齢(※1)	PR就任年
清水勇人	しみず・はやと	41才	2022年
山下良美	やました・よしみ	38才	2022年
谷本涼	たにもと・りょう	36才	2023年
御厨貴文	みくりや・たかふみ	40才	2024年(※2)

【副審】

名前	ふりがな	年齢	PR就任年
鑑城巧	たかぎ・たくみ	42才	2018年
西橋勲	にしはし・いさお	38才	2020年
渡辺康太	わたなべ・こうた	34才	2023年
武部陽介	たけべ・ようすけ	38才	2024年(※2)
淺田武士	あさだ・たけし	35才	2024年(※2)

※1: 年齢は2023年12月31日時点

※2: PRとして新規に契約

JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣（継続）

JFAアジア貢献事業の一環として、下記の指導者11名を継続して派遣する。

(1) モンゴル／代表監督 兼 U-23代表監督
名前：大塚一朗（おおつか・いちろう）
保有資格：AFCプロディプロマコーチライセンス

(2) 北マリアナ諸島／U-17・U-20代表監督
名前：鈴木木乃実（すずき・このみ）
保有資格：JFA A級コーチライセンス

(3) ホンコン・チャイナ／U-16代表監督 兼 エリートユースダイレクター
名前：保坂拓朗（ほさか・たくろう）
保有資格：AFC A級コーチライセンス、JFA GKレベル1コーチライセンス

(4) カンボジア／U-18アカデミー 兼 U-18代表監督
名前：行徳浩二（ぎょうとく・こうじ）
保有資格：JFA S級コーチライセンス

(5) ベトナム／女子サッカー統括 兼 ユース女子代表監督
名前：井尻明（いじり・あきら）
保有資格：JFA S級コーチライセンス

(6) ベトナム／テクニカルダイレクター
名前：越田剛史（こしだ・たけし）
保有資格：JFA S級コーチライセンス

(7) フィリピン／ユース育成ダイレクター
名前：土田哲也（つちだ・てつや）
保有資格：JFA A級コーチライセンス

(8) ラオス／女子代表監督
名前：豊田奈夕葉（とよだ・なゆは）
保有資格：JFA A級コーチライセンス

(9) ブータン／U-20代表監督・BFFアカデミー U-19監督
名前：高橋秀治（たかはし・ひではる）
保有資格：JFA S級コーチライセンス

(10) ウズベキスタン／女子代表監督
名前：本田美登里（ほんだ・みどり）
保有資格：JFA S級コーチライセンス

(11) ウズベキスタン／女子代表GKコーチ
名前：堤喬也（つつみ・たかや）
保有資格：JFA A級コーチライセンス、JFA GKレベル3コーチライセンス

契約期間：原則、2025年1月31日まで。ただし、指導者によって異なる。

派遣先協会の費用負担：指導者の国際航空券、住居、現地諸経費

上記以外の費用については、派遣先協会と調整の上で決定。

指導者ライセンス認定：S級コーチライセンス

S級コーチ養成講習会において、国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記の3名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを認定した。

【2019年度】

(1) 名前：前田信弘（まえだ・のぶひろ）
指導チーム：新潟医療福祉大学女子サッカー部
生年月日：1973年6月3日
資格：2011年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴：2004～2006年 アルビレックス新潟・シンガポール GKコーチ
2007年 アルビレックス新潟ユース GK コーチ
2007～2016年 JFAナショナルコーチングスタッフ（日本女子代表 GKコーチ）
※リオ・デ・ジャネイロオリンピックアジア予選敗退後退任
2007～2021年 JFAナショナルトレセンコーチ（北信越GK担当）
(2014年 JFAナショナルトレセンコーチ：女子担当)
2022年～現在 新潟医療福祉大学女子サッカー部監督
※2019年度S級コーチ認定者数：16名／16名中（上記1名含む）

【2020年度】

(2) 名前：亘崇詞（わたり・たかし）
指導チーム：城西大学体育会サッカー部 レディース
生年月日：1972年3月8日
資格：2016年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴：2010～2011年 東京ヴェルディジュニア コーチ
2011～2012年 東京ヴェルディジュニアユース 監督
2012～2014年 ASエルフエン狭山 コーチ
2014～2017年 広東省体育彩票女子足球隊 中国2部 監督
2017～2022年 岡山湯郷Belle なでしこリーグ2部 GM 監督

2017～2021年 岡山県選抜女子チーム 監督

2021年～現在 城西大学体育会サッカー部レディース 監督
※2020年度S級コーチ認定者数：14名／16名中（上記1名含む）

【2021年度】

(3) 名前：宮本ともみ（みやもと・ともみ）
指導チーム：日本女子代表 コーチ
生年月日：1978年12月31日
資格：2017年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴：2015～2021年 みえ高田FC/高田短期大学女子サッカー部 監督
2017～2018年 U-16/17日本女子代表 コーチ
2019～2022年 U-19/20日本女子代表 コーチ
※2021年度 S級コーチ認定者数：14名／16名中（上記1名含む）

Associate-Pro (A-Pro) コーチ養成講習会修了後、コンバージョンコースを合格した下記の3名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを認定した。

【2023年度】

(4) 名前：河本菜穂子（かわもと・なおこ）
指導チーム：無所属
生年月日：1971年3月25日
資格：2022年 A-proライセンス取得
指導歴：2002～2014年 ロクアイFC スクールコーチ
2003年 大阪府女子トレセンU-15コーチ
2008～2011年 サンアメニティークラブスクールコーチ
2009～2013年 大阪府女子トレセンU-12コーチ
2010～2012年 高島市U-15 選抜コーチ
2012年 高島市立マキノ中学校サッカー部コーチ
2012～2014年 ロクアイ高島FC U-12 監督

2014年10月～11月	モルディブ女子代表監督
2015年3月～2016年2月	モルディブ女子代表監督
2016年4月～2017年3月	モルディブ女子代表監督
2017年	ロクアイ高島 FC U-12監督
2018年	ロクアイ高島FC スクールコーチ
2019年2月～2020年1月	モンゴルU-16・U-19女子代表監督
2020年2月～2021年1月	モンゴルU-15・U-18女子代表監督
2021年2月～2023年6月	モンゴルU-17・U-20女子代表監督
(5)名前	：金野結子（こんの・ゆいこ） 指導チーム：U-16日本女子代表 生年月日：1980年10月10日 資格：2023年 A-Proライセンス取得 指導歴：2013～2015年 ジュニアユース市原・千葉レディース U-18 コーチ・監督 2016～2017年 ジュニアユース市原・千葉レディース U-15 コーチ 2018年 ジュニアユース市原・千葉レディース U-18 監督

2018年～現在	日本サッカー協会 JFAコーチ
2019年	JFAアカデミー福島女子U-18 コーチ
2020年	JFAアカデミー福島女子U-15 監督
2021年	JFAアカデミー福島女子U-18 コーチ
2022年	JFAアカデミー福島女子U-15 監督
2023年～現在	U-16日本女子代表 コーチ

(6)名前	：三輪由衣（みわ・ゆい） 指導チーム：帝塚山学院大学 生年月日：1987年9月21日 資格：2023年 A-proライセンス取得 指導歴：2012～2014年 筑波大学女子サッカー部 監督 2013年 ユニバーシアード日本女子代表 テクニカルコーチ 2014～2020年 JFAアカデミー堺 コーチ 2018年～現在 日本サッカー協会 JFAコーチ 2020年～現在 帝塚山学院大学 監督
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※現S級コーチライセンス保持者数：545名（上記6名含む）

指導者ライセンス認定

次の指導者養成講習会を修了し、技術委員会が適格と認めた下記の者に対し、ライセンスを認定した。

- (1) 2020/2021年度 Associate Proライセンス合格者（2023年12月31日時点）
 - ①金野結子
 - ②三輪由衣（合計2名）
- (2) 2022年度 A級コーチジェネラルライセンス合格者（2023年12月31日時点）
 - ①伊藤文寿（合計1名）
- (3) 2022 - 23年度 A級コーチU-15ライセンス合格者（2023年12月31日時点）
 - ①中野俊亮（合計1名）

(4) 2023年度 ゴールキーパーA級コーチライセンス合格者（2023年12月18日時点）

- ①阿部勝弘
- ②井嶋正樹
- ③岡中勇人
- ④澤野晃士
- ⑤松本浩幸（合計5名）

(5) 2021年度 フットサルA級コーチライセンス合格者（2023年12月31日時点）

- ①加藤亜土（合計1名）

(6) 2022年度 フットサルA級コーチライセンス合格者（2023年12月31日時点）

- ①北隅智宙（合計1名）

審判員および審判指導者の海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣（受け入れ）期間	場所
BRIリーグ1（インドネシア）	審判員	荒木友輔、中村太	12月8日～21日	ジャカルタ／インドネシア
AFCカップ2023/24 グループステージA - West Zone Al Ahed FC (LBN) vs Al Futuwa (SYR)	審判員	山本雄大、西橋勲、武部陽介	12月12日	マスカット／オマーン
AFCカップ2023/24 グループステージ - East Zone CPK (MAC) vs Tainan City FC (TPE)	審判員	山下良美	12月14日	マカオ
AFCチャンピオンズリーグ2023/24 グループステージF Jeonbuk Hyundai Motors FC (KOR) vs Bangkok United (THA)	審判指導者（アセッサー）	石山昇	12月13日	全州／韓国

2023年度新規女子1級審判員認定

審判委員会で新規女子1級審判員の認定審査を実施し、下記の6名を女子1級審判員として認定した。

- 大村美詞（おおむら・みこと） 北海道 22歳
- 山崎真菜（やまざき・まな） 東北／秋田県 23歳

- 大村琴美（おおむら・ことみ） 関東／山梨県 24歳
- 水嶋優希（みずしま・ゆうき） 関西／大阪府 24歳
- 柿本麻希（かきもと・まき） 四国／徳島県 30歳
- 大堂清香（おおどう・さやか） 九州／鹿児島県 28歳

※年齢は2024年1月11日現在

天皇杯実施委員会委員の変更

一般社団法人関東サッカー協会内での担当変更に伴い、2024年2月より右記の通り、天皇杯実施委員を変更する。

変更前)中西聰太／公益社団法人千葉県サッカー協会 事務局長
変更後)金澤聰／公益財団法人茨城県サッカー協会 常務理事

1級勇退審判員および1級審判インストラクター 勇退者表彰

2023年をもって引退した下記の審判員および審判インストラクターに対し、長年にわたりトップカテゴリーにおいて審判または審判指導者活動をするなど審判技術の向上等に著しく貢献のあったことに対して感謝の意を表すため、「審判員及び審判指導者等に関する規則 第12節 第30条〔表彰〕」「表彰規則」に基づき表彰することを、表彰委員会が決定した。

(以下、敬称略、五十音順)

(1) 2023年をもって引退した審判員

①サッカー1級審判員

柿沼亨 (かきぬま・とおる)
佐藤貴之 (さとう・たかゆき)
清水崇之 (しみず・たかゆき)
高山啓義 (たかやま・ひろよし)
戸田東吾 (とだ・とうご)
藤井陽一 (ふじい・よういち)
細尾基 (ほそお・はじめ)
松尾一 (まつお・はじめ)
和角敏之 (わづみ・としゆき)

②サッカー女子1級審判員

伊藤実奈子 (いとう・みなこ)
井脇真理子 (いわき・まりこ)
高橋早織 (たかはし・さおり)
有働あすか (ゆうどう・あすか)

③フットサル1級審判員

田中健太郎 (たなか・けんたろう)
徳永光恵 (とくなが・みつえ)
松尾久美子 (まつお・くみこ)
有働あすか (ゆうどう・あすか)
吉岡智佳 (よしおか・ともよし)

(2) 2023年をもって引退した審判インストラクター

①サッカー1級審判インストラクター

梅本博之 (うめもと・ひろゆき)
大岩真由美 (おおいわ・まゆみ)
佐賀慎治 (さが・しんじ)
柴田正利 (しばた・まさとし)
徳永智昭 (とくなが・ちあき)
中村祐 (なかむら・ゆう)

廣嶋禎数 (ひろしま・よしかず)

松崎康弘 (まつざき・やすひろ)

②フットサル1級審判インストラクター

石原薰 (いしはら・かおる)

松崎康弘 (まつざき・やすひろ)

(3) 表彰内規

①審判員

1級審判員、女子1級審判員、またはフットサル1級審判員で、体力的、精神的等の理由により、ご本人の意向で本資格を返納する方

②審判インストラクター

第7節 第22条〔定年による引退〕

サッカー1級審判インストラクター及びフットサル1級審判インストラクターは、満70歳となった日が属する年度の最終日(3月31日)に定年により引退する。

(4) 表彰式

2月12日(月祝)に表彰式を実施し、感謝状を授与予定。

<参考>

【審判員及び審判指導者等に関する規則】

第12節 審判員及び審判指導者の表彰並びに懲罰

第30条〔表彰〕

本協会は、審判技術の向上等に著しく貢献のあった審判員及び審判指導者を表彰する。

【表彰規則】

(対象者)

第3条 本協会が行う表彰の対象者は、次のとおりとする。

(7) 審判員及び審判指導者(以下「審判員等」という。)

(表彰事由)

第4条 本協会は、前条の対象者が次の各号のいずれかに該当する場合に表彰を行う。

(3) 審判員として永年にわたり、競技運営に貢献したとき

(表彰者の決定)

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。

ただし、別表に定める者については、表彰委員会がその内容を確認した上で決定し、理事会に報告するものとする。

日本サッカー後援会 会員表彰

1977年の日本サッカー後援会発足以降、同団体から日本代表強化などのために毎年交付金をいただいており、その累計は約19億円に上る。については、日本サッカー後援会会員の長年の援助に対する感謝として、下記の通り表彰する。なお、本件については、表彰規則第6条にのっとり、2023年度第3回表彰委員会で承認された。

(1) 日本サッカー後援会会員在籍30年表彰

- ①対象：日本サッカー後援会会員として30年在籍した方
- ②贈呈品：2024年中に日本代表戦1試合ご招待および記念盾
- ③被表彰者：8名
- ④備考：2008年度より表彰実施

※過去実績(直近10年)：2023年32名、2022年40名、2021年21名、2020年26名、2019年28名、2018年16名、2017年20名、2016年16名、2015年13名、2014年23名

(2) 日本サッカー後援会会員在籍40年表彰

- ①対象：日本サッカー後援会会員として40年在籍した方
- ②贈呈品：2024年中に日本代表戦1試合ご招待および記念盾
- ③被表彰者：11名
- ④備考：2016年度より表彰実施

※過去実績：2023年8名、2022年8名、2021年13名、2020年13名、2019年35名、2018年29名、2017年なし、2016年41名

【参考】日本サッカー後援会からの交付金収入(過去10年)

2014年度	55,000千円 (JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2015年度	55,000千円 (JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2016年度	55,000千円 (JFA 35,000千円(内、こころのプロジェクト1,000千円、指導者養成海外研修留学費用10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円)
2017年度	59,000千円 (JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟8,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)
2018年度	57,000千円 (JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟6,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)
2019年度	57,000千円 (JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、JFA夢フィールド建設寄付1,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)

左ページ左上へ続く

2020年度	55,000千円 (JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円)	2022年度	50,000千円 (JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円)
2021年度	50,000千円 (JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円)	2023年度	50,000千円 (JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円)

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（新規）

(1)申請者（施設所有者）：二本松市

施設名：二本松市多目的運動広場 Aピッチ（仮称）
(福島県二本松市西勝田字杉内)

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ XPM-55

公認期間：2024年1月11日～2027年1月10日

公認番号：第274号

(2)申請者（施設所有者）：二本松市

施設名：二本松市多目的運動広場 Bピッチ（仮称）
(福島県二本松市西勝田字杉内)

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ XPM-55

公認期間：2024年1月11日～2027年1月10日

公認番号：第275号

(3)申請者（施設所有者）：小城市

施設名：小城市フットボールセンター（北ピッチ）
(佐賀県小城市牛津町勝1071番地1)

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ XPM-65T

公認期間：2024年1月11日～2027年1月10日

公認番号：第276号

(4)申請者（施設所有者）：小城市

施設名：小城市フットボールセンター（南ピッチ）
(佐賀県小城市牛津町勝1071番地1)

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ XPM-65T

公認期間：2024年1月11日～2027年1月10日

公認番号：第277号



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度臨時評議員会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2024年1月28日、2024年度臨時評議員会をJFAハウスとオンラインのハイブリッド形式で開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1. 役員等推薦委員会 設置 P43

役員等推薦委員会 設置

「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」第21条に基づき、役員等推薦委員会を設置する。

また、第22条第1項にて規定される委員について、下記の通り選任する。

なお、理事の3名および補欠1名は、1月11日に開催された2024年度第1回理事会において選出された。

【役員等推薦委員会委員】（敬称略）

（1）会長予定者

宮本恒靖 専務理事（2023年度12月臨時評議員会にて承認）

（2）理事のうち3名

①田嶋幸三 会長（第22条 第3項に則り、現行会長として）

②三好豊 常務理事（弁護士／法務委員会委員長）

③山岸佐知子 理事（審判委員会副委員長）

<補欠>宗政潤一郎 常務理事（公益財団法人広島県サッカー協会副会長 兼専務理事）※

（3）評議員のうち3名

①柏悦郎（公益財団法人埼玉県サッカー協会専務理事）

②大場俊二（一般社団法人大分県サッカー協会会長）

③山本康太（一般社団法人日本障がい者サッカー連盟事務総長）

<補欠>小林美由紀（公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ理事）※

（4）本協会から完全に独立した立場の有識者2名

①森岡裕策（公益財団法人日本スポーツ協会専務理事）

②藤沢久美（株式会社国際社会経済研究所理事長）

*「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」第22条第5項に基づき、補欠の委員として選出するもの。

（参考）役員の選任及び会長等の選定に関する規程

第22条【役員等推薦委員】

1. 役員等推薦委員会は、次の役員等推薦委員をもって構成する。

（1）会長予定者

（2）理事のうち3名

（3）評議員のうち3名

（4）本協会から完全に独立した立場の有識者2名

2. 役員等推薦委員会の委員長は委員の互選によって定める。但し、会長予定者は委員長になることができない。

3. 本条第1項第2号の委員の選出にあたり、会長予定者と現行の会長が異なる場合は、当該委員に現行の会長を含めるものとし、同一の場合は、その他の理事より3名を選出するものとする。

4. 本条第1項のうち、第2号の委員は1月理事会において選出し、第3号及び第4号の委員は同月末に開催される臨時評議員会において選出する。

5. 前項における委員の選出にあたっては、理事会及び評議員会よりそれぞれ理事及び評議員の中から1名の補欠を予め選出し、委員に事故がある時又は委員が会長予定者となり委員としての任務を遂行できない時は補欠として選出されたものがその任務を行う。

6. 役員等推薦委員は、役員等推薦委員会の事務運営及び役員等予定者の選出が円滑に行われるため必要と認められる事務手続きを行う権限を有し、義務を負う。

7. 役員等推薦委員は、役員等推薦委員会の事務手続きが全て完了し、かつ、本協会の定期評議員会及びその後の理事会において会長が選定され、就任したときをもって、役員等推薦委員を退任する。



- ① U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ② 日本高校サッカー選抜候補 選考合宿
- ③ U-17日本高校サッカー選抜候補 選考合宿
- ④ 令和5年度 第102回全国高等学校サッカー選手権大会
- ⑤ 第32回全日本大学女子サッカー選手権大会
- ⑥ 第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

- ⑦ JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会
- ⑧ JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会
- ⑨ JFA 第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会
- ⑩ 日本女子フットサルリーグ2023-2024

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

【スタッフ】

○監督: 狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ: 岡本三代(NCS) ○GKコーチ: 小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ: 中西健一郎(静岡産業大学) ○テクニカルスタッフ: 見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大熊茜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	FP	米田博美	セレッソ大阪ヤンマーレディース	FP	白垣うの	セレッソ大阪ヤンマーレディース
	鹿島彩莉	JFAアカデミー福島		笹井一愛	ノジマステラ神奈川相模原		辻澤亜唯	藤枝順心高校
	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ		角田楓佳	三菱重工浦和レッズレディース		松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメンーナ
FP	天野紗	INAC神戸レオネッサ		大島暁菜	大宮アルディージャVENTUS		<スケジュール>	
	白沢百合恵	アルビレックス新潟レディース		中谷莉奈	セレッソ大阪ヤンマーレディース		1月29日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
	土方麻椰	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		久保田真生	藤枝順心高校		30日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド) 練習試合(高円宮記念JFA夢フィールド)
	根府桃子	ノジマステラ神奈川相模原		遠藤ゆめ	マイナビ仙台レディースユース		31日～2月1日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
	和田麻希	セレッソ大阪ヤンマーレディース		吉岡心	JFAアカデミー福島			USA: アメリカ
	林愛花	サンタクララ大学(USA)		岡村來佳	三菱重工浦和レッズレディースユース			
	大山愛笑	早稲田大学		樋渡百花	日テレ・東京ヴェルディメンーナ			

日本高校サッカー選抜候補 選考合宿(時之栖)

【スタッフ】

○団長: 蔵森紀昭(成城学園高校) ○総務: 村山孝博(川島高校) ○監督: 米澤一成(京都橘高校) ○コーチ: 有村圭一郎(神村学園高等部) ○GKコーチ: 太田渉(京都橘高校/インテルナシオナルジャパン) ○トレーナー: 和泉彰宏(京都橘高校) ○主務: 宮坂拓弥(駒込中学校・高校)、青柳友哉(浦和東高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
GK	鈴木将永	青森山田高校	3	MF	梶磨佐志	米子北高校	3	FW	小嵐理翔	実践学園高校	3
	雨野颯真	前橋育英高校	3		杉本英吾	青森山田高校	3		宮下拓弥	桐光学園高校	3
	中浦悠大	京都橘高校	3		芝田玲	青森山田高校	3		堀眞汰	帝京長岡高校	3
	平塚仁	岡山学芸館高校	3		神田拓人	尚志高校	3		水永直太朗	東海大阪仰星高校	3
DF	小泉佳絃	青森山田高校	3		吉田裕哉	明秀日立高校	3		山本吟侍	高川学園高校	3
	山本虎	青森山田高校	3		長準喜	昌平高校	3		高岡伶颯	日章学園高校	2
	渡辺優空	尚志高校	3		太田隼剛	市立船橋高校	3				
	市川和弥	尚志高校	3		中村健太	堀越高校	3				
	五来凌空	市立船橋高校	3		松田悠世	桐光学園高校	3				
	塙川桜道	流通経済大柏高校	3		西川桂太	京都橘高校	3				
	布施克真	日大藤沢高校	2		北藤朔	神戸弘陵高校	3				
	野田隼太郎	藤枝東高校	3		宮川昇太	佐賀東高校	3				
	八巻涼真	浜松開誠館高校	3		名和田我空	神村学園高等部	2				
	金山耀太	近江高校	3		臼田成那	明桜高校	3				
FW	池戸柊宇	京都橘高校	3		網代陽勇	尚志高校	3				
	尾崎凱琉	大阪桐蔭高校	3		小田暁平	昌平高校	3				

<スケジュール>

1月20日 集合(時之栖スポーツセンター)
トレーニング(時之栖グラウンド)
練習試合 vs 日本体育大学(時之栖グラウンド)
トレーニング(うさぎ島グラウンド5)
21日 練習試合 vs 東京国際大学(時之栖グラウンド)
トレーニング(時之栖グラウンド)
22日 練習試合 vs U-17日本高校選抜候補(時之栖グラウンド)
解散(現地)
23日 練習試合 vs U-17日本高校選抜候補(時之栖グラウンド)
解散(現地)

U-17日本高校サッカー選抜候補 選考合宿(時之栖)

【スタッフ】

○団長: 二見元(大宮東高校) ○監督: 富居徹雄(旭川実業高校) ○コーチ: 小野貴裕(関東第一高校) ○GKコーチ: 木村大地(矢板中央高校) ○トレーナー: 赤羽達也(横浜リゾート&スポーツ専門学校) ○主務: 加藤悠(東久留米総合高校)、田渕常夫(熊谷高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
GK	藤間広希	矢板中央高校	2	DF	上原悠都	昌平高校	2	DF	山本圭晋	帝京長岡高校	2
	佐々木智太郎	昌平高校	2		谷口輝	西武台高校	2		江頭瀬南	佐賀東高校	2
	ギラエス・ニコラス	市立船橋高校	2		富樫龍暉	流通経済大柏高校	2		田中佑磨	佐賀東高校	2
	早川ウワブライト	日体大柏高校	2		森奏	堀越高校	2		五嶋夏生	大津高校	2
	松本優星	国見高校	2		田中玲音	東京実業高校	2		鈴木悠仁	神村学園高等部	2
	DF	小沼蒼珠	青森山田高校	2	岡崎礼暉	関東第一高校	2		濱谷陽	旭川実業高校	2
	山田佳	前橋育英高校	2		杉野太一	桐光学園高校	2		笹修大	札幌大谷高校	2

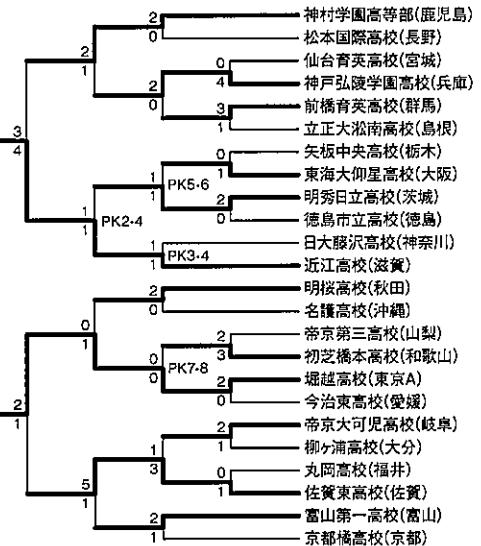
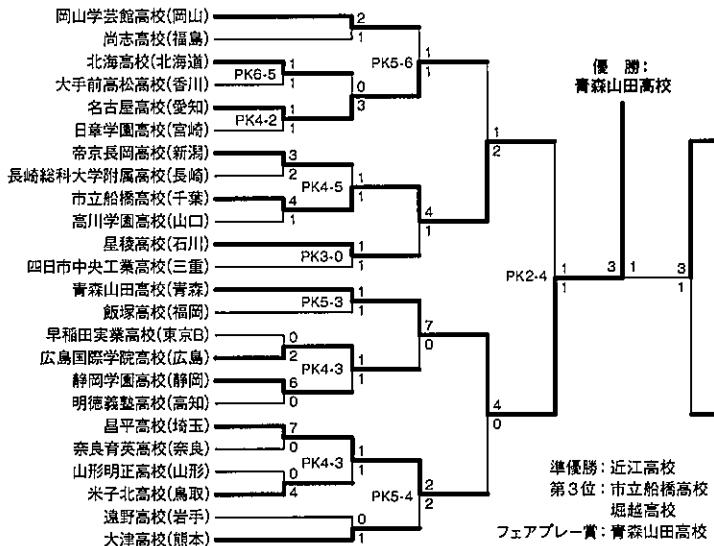
Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
MF	大内完介	尚志高校	2	MF	大成健人	神村学園高等部	2
	平林尊琉	前橋育英高校	1		新垣優盛	神村学園高等部	2
	大谷渕斗	昌平高校	2		福島和毅	神村学園高等部	1
	山口豪太	昌平高校	1	FW	清水彪雅	旭川実業高校	2
	長崎喜	昌平高校	1		矢崎レイス	尚志高校	2
	柚木創	流通経済大柏高校	2		オノノジュエ	前橋育英高校	2
	木村有磨	履正社高校	2		久保原心儀	市立船橋高校	2
	長村星波	瀬戸内高校	2		宮地陸翔	京都橘高校	2
	坂田幸大	大杜高校	1		日高元	神村学園高等部	1
	嶋本悠大	大津高校	2		大石脩斗	鹿児島城西高校	1

<スケジュール>
 1月20日 集合(時之栖スポーツセンター)
 トレーニング(裾野グラウンドE1)
 21日 トレーニング(裾野グラウンドE1)
 練習試合 vs 日本体育大学(裾野グラウンドE1)
 22日 トレーニング(裾野グラウンドE1)
 練習試合 vs 東京国際大学(裾野グラウンドE1)
 23日 練習試合 vs U-18日本高校選抜候補(時之栖グラウンド)
 解散(現地)

令和5年度 第102回全国高等学校サッカー選手権大会

本大会は、民間放送43社およびJFAの主催、(公財)全国高等学校体育連盟の共催で、2023年12月28日～2024年1月8日に首都圏の会場を中心に開催された。令和5年度にJFAに加盟登録された高校チームで、当該団体に登録された生徒であり、平成16年4月2日以降に生まれた者に出場資格が与えられた。

*大会レポートは68ページに掲載



準決勝

市立船橋高校 1 (前半0-1 後半1-0) 1 青森山田高校
PK2-4

●2024年1月6日 12:05 ●国立競技場 ●試合時間:90分、PK ●審判員:[主審]中井敏博 [副審]宇治原拓也／畠山大介 [第4の審判員]椎野大地 ●マッチコミッショナー:松本匡一 ●観衆:28,926人

市立船橋(監督:波多秀吾):[GK] (1) ギマラエス・ニコラス [DF] (2) 佐藤凜音 (3) 内川遼 (4) 宮川瑛光 (5) 五来凌空 [MF] (6) 白土典汰 (7) 太田隼剛 (8) 足立陽 (11) 佐々木裕涼 <-> HT (13) 須甲優理 > [FW] (10) 都司璃来 (15) 久保原心優 <-> 90'+1' (16) 岡部タリクカナイ颶斗>

控え:(17) 庄司光輝 (9) 泰悠月 (12) 西大和 (18) 伊丹俊元 (19) 井上千陽 (20) ギマラエス・ガブリエル (22) 石毛翼

青森山田(監督:正木昌宣):[GK] (1) 鈴木将永 [DF] (2) 小林拓斗 (3) 小沼薫珠 (4) 山本虎 (5) 小泉佳絵 (6) 菅澤凱 [MF] (8) 川原良介 <-> 53' (16) 後藤礼智 > (10) 芝田玲 (13) 福島健太 <-> 70' (9) 津島巧 > (14) 杉本英吾 <-> 89' (15) 齊藤和祈 > [FW] (11) 米谷壯史

控え:(12) 長谷川龍也 (7) 谷川勇獅 (17) 別府育真 (18) 山下凱也 (19) 池田勇気 (23) 小川加偉

得点: [市立船橋] 79' 久保原心優 (1-1) [青森山田] 11' 小泉佳絵 (0-1)

PK [市立船橋] (7) x (8) ○ (2) ○ (16) x
[青森山田] 先 (4) ○ (10) ○ (6) ○ (2) x (11) ○

準決勝

近江高校 3 (前半3-0 後半0-1) 1 堀越高校

●2024年1月6日 14:25 ●国立競技場 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]大橋佑祐 [副審]田代雄大／清水拓 [第4の審判員]田邊裕樹 ●マッチコミッショナー:滝本寛一 ●観衆:32,637人

近江(監督:前田孝季):[GK] (1) 山崎晃輝 [DF] (2) 安田旭 (5) 西村想大 <-> 90'+3' (3) 里見華成 > (10) 金山耀太 [MF] (4) 西飛勇吾 (6) 川上隼輔 (7) 鵜戸瑛士 <-> 90'+3' (16) 天雷樹 > (8) 山門立侑 <-> 88' (13) 山本諒 > (14) 浅井晴孔 (17) 幕瀬脩斗 <-> 49' (15) 川地一鶴 > [FW] (9) 小山真尋

控え:(25) 小出大翔 (11) 荒砂洋仁 (18) 大谷結衣斗 (20) 市場祐祐 (28) 大堀陽南太

堀越(監督:佐藤実):[GK] (1) 吉富怜人 [DF] (2) 竹内利樹人 <-> 72' (3) 森章博 > (4) 森奏 (13) 渡辺凌空 (19) 潤下涼太郎 [MF] (6) 渡辺隼大 (8) 吉荒開仁 <-> HT (16) 谷口悠成 > (14) 仲谷俊 <-> HT (7) 三鶴奏太 > [FW] (9) 高谷遼太 (10) 中村健太 (11) 伊藤祐太 <-> 61' (23) 高木流世 >

控え:(21) 佐藤晴翔 (5) 佐藤優真 (18) 小泉翔汰 (22) 杉村充樹 (29) 谷口晃成

得点: [近江] 11' 鵜戸瑛士 (1-0)、13' 山門立侑 (2-0)、22' 金山耀太 (3-0)
[堀越] 90+4' 中村健太 (3-1)

警告: [近江] 90+3' 山崎晃輝

決勝

青森山田高校 3 (前半1-0 後半2-1) 1 近江高校

●2024年1月8日 14:05 ●国立競技場 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]川俣秀秀 [副審]浅田武士／藤澤達也 [第4の審判員]安藤康平 ●マッチコミッショナー:大倉健史 ●観衆:55,019人

青森山田(監督:正木昌宣):[GK] (1) 鈴木将永 [DF] (2) 小林拓斗 (3) 小沼薫珠 <-> 90+2' (15) 齊藤和祈 > (4) 山本虎 (5) 小泉佳絵 (6) 菅澤凱 [MF] (8) 川原良介 <-> 78' (7) 谷川勇獅 > (10) 芝田玲 (13) 福島健太 <-> 78' (16) 後藤礼智 > (14) 杉本英吾 <-> 85' (9) 津島巧 > [FW] (11) 米谷壯史 <-> 90+2' (17) 別府育真

控え:(12) 長谷川龍也 (18) 山下凱也 (19) 池田勇気 (23) 小川加偉

近江(監督:前田孝季):[GK] (1) 山崎晃輝 [DF] (2) 安田旭 (5) 西村想大 (10) 金山耀太 [MF] (4) 西飛勇吾 (6) 川上隼輔 (7) 鵜戸瑛士 (8) 山門立侑 (14) 浅井晴孔 <-> 82' (11) 荒砂洋仁 > (17) 幕瀬脩斗 <-> 62' (15) 川地一鶴 > [FW] (9) 小山真尋 <-> HT (13) 山本諒 >

控え:(25) 小出大翔 (3) 里見華成 (16) 天雷樹 (18) 大谷結衣斗 (20) 市場祐祐 (24) 藤井陸

得点: [青森山田] 33' 福島健太 (1-0)、60' 米谷壯史 (2-1)、70' オウンゴール (3-1)
[近江] 47' 山本諒 (1-1)

【参加選手】

<北海高校> 監督:島谷制勝

小野寺信、佐々木海、大越要路、海野遼樹、栗塚優丞、武笠健次郎、川合航世、渡部雄大、伊藤風楽、片桐涼、門馬直哉、水野雄大、高橋奏翔、西垣凌斗、須摩耀平、西脇雄太、中村心、成澤晏士、白崎雅、萩野煌也、三橋碧翔、角田蓮、曳地優斗、齊藤准青、渡部頼亜、岡野琉之介、田中準人、野村光希、輪島亘、大貴祐基

<青森山田高校> 監督:正木昌宣

鈴木将永、長谷川龍也、磯村颯、小林拓斗、小沼薫珠、山本虎、小泉佳絵、菅澤凱、池田勇気、伊藤玲、閻戸豪、小川加偉、柿谷敦月、原田慶吾、大竹尚哉、本田陽大、谷川勇獅、川原良介、芝田玲、福島健太、杉本英吾、齊藤和祈、後藤礼智、別府育真、山口元幹、古川遙貴、津島巧、米谷壯史、山下凱也、衣川藍斗

<遠野高校> 監督:佐藤邦祥

浅沼英志、山田涼楓、田代謙真、菊池涉、田代成琉、佐々木湧太、嵐山哉人、戸羽輝希、菊池昇太、堀川桐、菊池大翔、谷地穂生、菊池遼大、馬場大瀬、高橋優成、昆野翔太、右近優太、今淵雄太郎、小倉悠慎、八重樫凌太、青山唯斗、福田心、菅田大誠、千葉陸、照井翼人、池口遙葵、小松樹來、高橋陵生、渡辺隼平、瀬川幹太

<明桜高校> 監督:原美彦

川村晃生、佐藤瑠那、成田謙紀、大木源士郎、山口滉生、菅野琉空、吉田秀、目黒琥珀、朴智晟、齊藤勇太、本島隆成、山形一世、村上尚起、近江谷巖心、鈴木雄大、中山煌斗、外山蓮、村上大河、武田大和、小松亮大、庄司郁哉、齊藤廉、杉本侑哉、廣森輝星、臼田成那、加藤鳳夢、北川学、片岡怜央、中野颯太、成田淳煌

<山形明正高校> 監督:石原和実

酒井淳平、山口文也、及川泰我、菅原隼斗、石橋聖也、松田海生、菊地琉生、鈴木遥斗、杉山翔、石川隼太、野口弥栄、山田瑞月、深田音旺、寺村健太郎、石川獅恩、佐々木聖渚、井上碧空、矢口青空、青木志音、吉田楓翔、岡野來英、丸山来寿、石黒友陽、中山遙叶、佐々木貴彬、中本和志、末光清、高橋航太、仲村渠健、森晃輝

<仙台育英高校> 監督:城福敬

小川陽海、築山穎、内田竣介、渡辺留唯、波名城元希、佐山光樹、面田凌、阿部聖、佐藤杜羽、松井琢磨、和久友咲、菅原颯太、黒葛原結天、小坂城太郎、中塚羽勇真、野村竜瑚、岡村春輝、沼館瞳衣、仁田心明、中西大晴、工藤天、佐々木颯太、糸井翔羽、三浦佳勝、伊藤俊輔、菊地蓮太、高橋隼之輔、佐藤裕、阿部剛己、河野宗真

<尚志高校> 監督:仲村浩二

高橋悠太、角田隆太朗、野田馨、富岡和真、高瀬大也、市川和弥、白石蓮、高田湊人、小原空大、渡邊優空、遠藤新太、宮城来輝、佐々木慎、出来伯琉、安斎悠人、神田拓人、若林来希、藤川壮史、凜田昂希、吉田尚平、大竹理央、宇佐美遼、馬場比呂、大内完介、網代陽勇、桜松駿、笹悠太、山本仁、西間木晴生、矢崎レイス

<明秀日立高校> 監督:萬場努

小泉凌輔、重松陽、新井田晃佑、伊藤綾希、今野生斗、飯田朝陽、若田部礼、山本凌、長谷川幸哉、川野竜大、根橋大祐、齊藤希生樹、後藤柚希、廣沢楓人、大原大和、吉田裕哉、益子峻輔、上田柊衣、永一輝、樋本杷壇、古館善、竹花龍生、阿部巧実、芝陸斗、熊崎瑛太、根岸隼、石橋翔、新陽樹、柴田健成、河野夢葉

<前橋育英高校> 監督:山田耕介

雨野翼真、藤原優希、西野心昌、齊藤希明、山田佳、熊谷康正、青木蓮人、清水大幹、立木堯斗、林優真、遠藤琢磨、石井陽、松下拓夢、黒沢佑晟、山崎勇誠、斎藤陽太、衆田丈朔、篠崎遼斗、平林尊琉、鈴木蓮大、平良晟也、佐藤耕太、中村太一、オノジュ慶吏、織茂誠太郎、大岡航未、植田貴士、四方田泰我、山西智也

<矢板中央高校> 監督:高橋健二

大沢咲人、藤間広希、高木謙心、小関大翔、梶谷皇光斗、清水陽、永井健慎、荒野壹心、小針慎太郎、小川結都、松本剛季、岡田獅央、佐藤快風、小森輝星、井上拓実、山元敦穂、山下魁心、鳥塚翔真、平野巧、石塚遙真、伊藤翼、外山瑛人、伊藤嘉真、池田拓歩、児玉聖士朗、朴大温、堀内嵐、渡部嶺斗、香崎青空、駒田侑太郎

<昌平高校> 監督:村松明人

佐々木智太郎、荻谷凌輔、白根翼、入江希星、坂本航大、上原悠都、佐怒賀大門、田中瞭生、佐々木康城、坂和飛空、鈴木翔、久野大翔、松村優成、鈴木宏幸、土谷飛雅、大谷湊斗、長瀬喜、長瀬喜、西嶋大翔、山口豪太、三浦悠代、前田大樹、田中洸成、玉田陸翔、本田健晋、小田咲平、工藤聖太郎、鄭志錫、平叶大、齋藤結斗

<市立船橋高校> 監督:波多秀吾

ギマラエス・ニコラス、庄司光輝、梶谷颯人、佐藤凜音、内川遼、宮川瑛光、五來凌空、井上千陽、ギマラエス・ガブリエル、鶴岡寿暉、山田信悟、白土典汰、太田隼剛、足立陽、秦悠月、佐々木裕涼、須甲優理、森駿人、岡部タリカナイ颯斗、金子竜也、石毛翼、曾田敬信、山口大智、藤代俊幸、長野恵弥、郡司璃来、西大和、久保原心優、伊丹俊元、太田畠飛

<堀越高校> 監督:佐藤寅

吉富柊人、篠沢祐斗、佐藤晴翔、竹内利樹人、森章博、森奏、佐藤優真、渡辺冴空、瀬下琥太郎、杉村充樹、横尾瑛人、山形潤瑛、渡辺隼大、三鷹奏太、吉荒開仁、仲谷俊、谷口悠成、勘田大翔、中野昂、谷口昊成、臼田昂太郎、高谷遼太、中村健太、伊藤蒼太、鹿間翔太、岩崎暁芽、小泉翔汰、高木琉世、田中豪、千葉慎之助

<早稲田実業高校> 監督:森泉武信

高村裕、宮盛朝、内藤光一、山本土文、根本渚生、若杉泰希、中嶋崇人、荒木陸、スミス聰太郎、森敷彦、堀蒼、小野寺栄斗、千木本亮磨、秋山翔太、居相太陽、伊藤勇輝、岩間一希、西山礼央、戸祭博登、野川一聰、松下岬、井手悠暉、大庭翼、古賀泰誠、竹内太志、久米遥太、霜田優真、地頭所大和、前田俊汰、新井田涼介

<日大藤沢高校> 監督:佐藤輝勝

野島佑司、斎藤直晴、小久保亮大、坂口康生、國分唯央、宮崎達也、尾野優日、片岡大慈、小川寧大、和田陸空、松本夢己、柳沼俊太、宮川空、萩原大地、佐藤春斗、諸墨清平、安場壮志郎、岡田生都、布施克真、佐藤優磨、伊藤颯飛、堺田恭大朗、高田航、岩藤利龍、山上大智、会津恒毅、進藤匠、岩内類、宮澤朋哉、岩坪瑛太

<帝京第三高校> 監督:相良和弘

倉田琢磨、近松煌、岩田知希、岸上樹莉、原田飛鳥、押田良翼、大野羽疏、高橋翼颯、福司楓馬、花崎知優、山田善己、中村健、秋間翔太、辻友翔、加々美遥斗、衆原一斗、山岡陸翔、保坂璃夢、朝比奈漱、鷗野創太、西澤篤成、武居駿也、菊地勇羽、大室敬慈、妙中大空、菱山大地、遊佐凍大朗、櫻井元舟、川田朔太郎、小澤波季

<帝京長岡高校> 監督:古沢徹

小林脩晃、田中伊織、道管陽斗、松岡涼空、高萩優太、池田遼、山本圭晋、浅井隼大、阪本湊士、湯山凱仁、堀垣純、武内裕輔、水川昌志、山村朔冬、橋本燐、原壯志、香西大河、安部僚馬、遠藤琉景、永井悠雅、吉竹勇人、柳田夢輝、中島啓太、新納大吾、畑遼河、堀眞、野村豊、野村豊、谷中賢、藤本翔真、渡邊颯

<富山第一高校> 監督:加納靖典

魚住秀真、曾江空海、魚住陸斗、小西双豪、岡田駿也、福光翔太、大居優汰、谷川智哉、山本大心、南宮翔太、盛田聰二、須田裁寿、大村笙太、田中陽路、多賀渾人、平田一葵、松井凪空、菅野暖大、入江秀虎、羽根成千加、羽根周太朗、高橋大和、加藤隼也、堀垣禪太郎、川原瑠偉、宮本凌成、谷柊杜、谷保健太、放崎結生、村上文太

<松本国際高校> 監督:勝沢泰

飯田幸樹、高尾一輝、小林健道、長崎大吾朗、城元諒星、小野寺伶音、鈴木侑斗、金山哲平、渡邊智紀、宇留賀大希、伊藤翔琉、山口颯太、宮下湊太、大津英佑、久保田剛海、山本湧大、福吉海斗、濱説赳一、津久井楓雅、栗原大河、藤森涼、元木夏樹、閑泰洋、下野成偉人、北西徹平、西澤康希、佐々木咲汰、米澤天良、橋崎泰雅、吉村大樹

<星稜高校> 監督:河合伸幸

橋本育磨、佐藤竣基、澤田拓実、井田佳佑、尾森虹太、倉畠鉄将、木村勲平、塩川晴也、竹谷内諒賢、太村優真、田沼拓也、濱田流聖、高田玲玖、守田俊、北方陽己、山口晴、天川達心、中村滉希、村上颯俄、西川太陽、吉田悠人、丸山京佑、高山堯大、和田翔太郎、前田勇登、竹山開、南慶士郎、後藤空生、與野木有汰、門倉主至

<丸岡高校> 監督:小阪康弘

山本貴太、清水唯太、西田将靖、永田俊介、河奥正流、宮崎陽、奥村風磨、横山天飛、大藤航輝、津張歩舞、徳川莉都、白木旋理、戸田玲亞琉、西田陸晴、渡辺祥氣、寺坂樹大、久津見楓、新村柊那、高畠友輝、下口叶汰、杉田拓未、青木宙、奥村洋武、安嶋琉生、西村心、川下恭太郎、加藤証、丸尾颯輝、小関結人、富本大翔

<静岡学園高校> 監督:川口修

中村圭佑、有竹拓海、山口航生、井口晴斗、岩田琉唯、水野朔、大村海心、野田裕人、吉村美海、矢澤怜士、提坂煌世、泉光太郎、庄大空、田嶋旦陽、高田優、志賀小政、岩本耀太、森崎澄晴、宮崎隆之介、山縣優翔、大平青空、小山顯、岡元和士、天野太陽、中村奏太、佐々木雄基、裙澤琢太、福地陣、神田奏真、大木悠羽

<名古屋高校> 監督:山田武久

小林航大、西田旺世、村谷穎、太田陸斗、佐藤琉輝、足立遼馬、井上款斗、月岡陸斗、大村莉久、渡辺天真、野上遼弥、伊藤瑠晟、山本悠真、田中響貴、川瀬陸、原康介、田口想太、伊藤守生、杉本成空、森柑太、田邊圭佑、恒吉賢心、櫻井神威、柳瀬琥美、服部李太朗、小川怜起、仲井蓮人、山本凜蔵、齋藤力、須川堅斗

<帝京大可児高校> 監督:仲井正剛

竹内耕平、土田壯太、古屋駿介、緒方瑞太、中村優慎、鷹見豪希、内山晴登、堀内祥暉、石田凱大、梅本泰佑、伊藤彰一、杉浦龍星、角岡駿季、西澤晴、内藤和希、吉兼怜真、明石望来、棚橋奎斗、黒沢一斗、鶴見一馬、樽井蓮太郎、執行悠雅、山野太陽、重松拓実、松井空音、田中豪、岩田快青、加藤隆成、高田悠志、青木嘉宏

<四日市中央工業高校> 監督:伊室陽介

原田海誠、松成立夢、篠田啓斗、伊藤大起、井村英右、山本拓弥、河合晴空、松原空、水田佑樹、野口諒明、岩田翔暉、浅野颯人、田頭篤彌、久保貴大、屋成征輝、片岡空良、中島晴介、西脇葉、山口叶夢、平野颯汰、若松音冬、川井航、丹羽伶介、工藤悠真、小林桜輔、小久保圭皓、杉山皇輔、坂田留仁嘉、伊藤元太、増田莉久

<近江高校> 監督:前田高孝

山崎晃輝、岡本航太郎、小出大翔、押谷武琉、山下津、安田旭、里見華威、西村想大、金山耀大、重田成輝、藤井陸、藤田准也、西飛勇吾、川上隼輔、鷦井瑛士、山門立侑、山本諒、浅井晴孔、川地一颶、天雷樹、廣瀬脩斗、大谷結衣斗、市場琉祐、河野翔空、大堀陽南太、小山真尋、荒砂洋仁、長谷川天太、中江大我、山上空疏

<京都橘高校> 監督:米澤一成

中浦悠大、川尻修生、櫛田武蔵、大塚真沙渡、園田優翔、池戸柊宇、山本洸生、小池陽斗、上田慶輔、山田挨縫、道倉悠聖、堀本隆太郎、原田蒼真、松本和磨、松本海音、穂積大河、吉野歩夢、高橋優、早苗優介、桐原惺疋、執行隼真、久保翔大、福永裕也、小野杏二、田中暖、吉田晃澄、西川桂太、増井那月、宮地陸翔、川原大志

<奈良育英高校> 監督:梶村卓

瀧川笑美、内村篤紀、森本十真、谷川琉希也、奥村央樹、八木涼輔、水流大翔、竹田奏、植村翔輝、平原颯、吉川魁、中田勇斗、堀大輔、田中紘士、川上隼平、藤岡仙太郎、村田康成、磯貝新之助、水津淳人、舟越拓海、西村優士、有友瑠、中島瑞尋、阪本圭、河原鴻介、西川仁瑛、佐藤聰祐、建野遼太郎、井登奏汰、藤川陽太

<初芝橋本高校> 監督:阪中義博

大竹野勇斗、江田修生、櫛田武蔵、大塚真沙渡、園田優翔、池戸柊宇、山本洸生、小池陽斗、上田慶輔、山田挨縫、道倉悠聖、堀本隆太郎、原田蒼真、松本和磨、松本海音、穂積大河、吉野歩夢、高橋優、早苗優介、桐原惺疋、執行隼真、久保翔大、福永裕也、小野杏二、田中暖、吉田晃澄、西川桂太、増井那月、宮地陸翔、川原大志

<東海大仰星高校> 監督:中務雅之

森本真幸、森安瑛示、吉水慶人、松川巽吾、加賀美諒、平井大地、松村暉、桃谷優吾、横瀬真、櫻田大翔、松田幸太郎、秋丸凜太郎、高山陸、中本昇、芳田慶達、中山蓮、櫛田泰洋、下館拓海、辻修斗、金田陽向、柳原悠翔、北川陽汰、芝谷壽汰、山本遼、水永直太郎、小林旺誠、北野慶汰、田守真翔、西出隼、金田柊真

<神戸弘陵学園高校> 監督:谷純一

石橋亮斗、歌野裕大、岡本祐次郎、阪上聖恩、柴尾美那、岡未來、藤本達真、豆成僚、三輪桜大、松井君彌、伊柳嘉成、中田心波、堀駿、大井李輔、佐波昂大、木津奏芽、有園依咲樹、十河快斗、利光陽朗、井田琉沙、中邑薈羽、梅原良美、馬場悠平、北藤朔、石橋瀬凪、高橋奏多、江崎有佑、石演慶人、下脇尾朔也、中村貴志

<米子北高校> 監督:中村真吾

尾崎巧望、岡田海琴、広川武寛、梶磨佐志、藤原壯志郎、浜根優大、樋渡蓮音、金城正宗、番原珠生、花田涼惺、石倉亜連、山本琉空、大橋利都、城田利恩、上原颯太、仲田堅信、濱口慶汰、小村日向、竹口晴陽、柴野惺、田村郁颯、熊谷彈、湯月哲大、久徳鳳雅、鈴木颯人、森田尚人、愛須隆聖、堀大夢、西尾潤星、田中太賀

<立正大沼南高校> 監督:野尻豪

西尾桜路、塚田喜心、山田新、藤原榮、宮本涼矢、坂本直太郎、西口大稀、三島典征、植田琉生、吉田宇利、山田太樹、中井佑、梅本ヒ之介、山田涼斗、升井泰雅、野澤颯天、三島拓人、豊田寛太、中谷瑠希、越田斗弥、藤原陸、西田樹、吉村璃空、大西侑磨、眞鍋隆聖、廣田宗己、永澤叶太、久島理功、大橋蒼真、西尾潤星、田中太賀

<広島国際学院高校> 監督:谷崎元樹

片渕竣介、松元清惺、加藤翔正、藤井海地、水野雄太、茂田颯平、島川翔汰、藤井蓮斗、高山陽那太、濱田奏汰、岡田康誠、上野陽光、伊津遙人、長谷川蒼矢、渡邊雄太、谷原海都、細川陽輝、石川撞真、萩野巧也、戸山晴人、福島拓哉、水川翔太、大下翔希、安田咲人、松永悠斗、野見明輝、本迫涉、岩本大河、折口隼也、山本まさお

<高川学園高校> 監督:江本孝

大西勇磨、三宅亮壽、高城柊哉、大下隼、徳若侑、安井拓海、沖野真之介、石原快晟、藤井蒼斗、岸本航太、松原滉雅、村田吟、小坂レオンス ンケンガ、熊谷峻哉、田邊大希、宮城太郎、佐藤大斗、松木汰販斗、伊木樹海、中津海蓮恩、栗栖酒晴、岡本歩夢、鴨目心希、山中大樹、山本吟侍、田坂大知、行友祐翔、大森鳳牙、藤田龍之介、託見柊威

＜岡山学芸館高校＞ 監督:高原良明
平塚琢、本田世成、楳地煌矢、道瀬智哉、平松伸朗、平野大樹、高山隼磨、平本悠太、柄尾優斗、
國本心夢、持永イザキ、田村日夏汰、木下瑠巳、田口裕真、山河獅童、万代大和、植野柊、小林
吉平、池上大慈、川端瑞己、幡本星音、今村天音、木村奏人、太田修次郎、田邊遼、香西健心、
伊藤中央、保達二郎、岸昂希、山本悠斗

<大手前高松高校> 監督:川上暢之
浦宮鶴太、西尾壯平、堤風太、大石圭社、林勇仁、正木舜、飯田旅人、東山諒大、芳地大河、横山功季、ドラゴ星エマスエー、佐々木晃也、大西輝、霧宮晴斗、境琉飛、上岡太翔、糸瀬勇智、洲脇豪翔、湯浅洋翔、増田凌、西田伊織、竹内蒼一朗、前田乃唯、大谷海聖、石原日向太、藤川遥、山村音喜、伊勢谷拓羽、橋本希翔、竹本海人

<今治東高校> 監督:谷謙吾
井門泰誠、山本琉央、大川凱斗、三好康介、岡田瑛斗、樋口智大、越智彪乃介、西河大陸、山中太陽、篠原泰盛、河上進士郎、近藤勇瑠、喜代吉三生、辻本惺耀、山本就太、田坂晃雅、安部日夕輝、小西拓、近藤大和、薦田拓大、高瀬悠葵、高橋一友、宮岡継弥、大荒陽平、高瀬一光、河上塔二郎、赤堀俊太朗、加藤陽城、北舛幹生、原田真幸

〈徳島市立高校〉 監督:河野博幸
安藤誠一郎、大佐古隆恵、李ハソン、瀬口竣介、川村琥太朗、山本煌大、麻植光規、藤川琉偉、
太田夏壽人、森田楓葉、岸孝亮、樹田侑汰、松山哲也、永市翔悟、池田怜以、山座拓達、原水智
弘、上田寛大、山口凜太朗、好浦悠仁、尾形郁海、逢坂翔雅、牛尾律貴、岸大介、笠原鷗太、鈴
木悠哉、平尾海斗、篠崎陸空、坂本宇朗泰、岡快吏

＜明徳義塾高校＞ 監督：小松晃
岡本友希、川村空都、山本ナジエル、氏原歩夢、女良明日夢、大石陸、天野慈穂、下野凌空、片岡咲翔、メフターラヤン、宮本致翰、田村薫太、高山拓巳、徳能伊織、一ノ瀬隆介、坂元悠真、葛籠聖斗、平生真斗、本間樹郎、青山龍輝、寺田将大、諸見勇徳、岡村大、砂川豪毅、西山愛輝、仲間路夏、河村一斗、吉田凱、肥田夕舞、池上太陽

＜飯塚高校＞ 監督：中辻喜敬
松崎鶴翁、堀口彌斗、長谷川悠衣、深川恭伍、平田龍治、坂本海凪太、藤井葉大、岩瀬太津也、原天聖、藤川翔馬、川村朋也、川俣陽輝、木下宗祐、黒岩雄慎、中島誌違、永原大真、濱川晨礼、林杉夢斗、瀧口豪大、久保公斗、吉田翔規、永田朔太郎、保科剛、原翔聖、大園治慈、古川公疏、大橋翔太、新垣類、永田虎仁朗、塙本一咲

<佐賀東高校> 監督:蒲原晶昭
中里好佑、西川空良、橋本胡亞、國武優太郎、甲斐桜助、田中幹大、江頭瀬南、田中佑磨、田中玖希、後藤輝洋、中島魁利、小野旺星、西川葵翔、大島弘賀、宮川昇太、江口恭平、中村琥道、右近歩武、諭間奏斗、富永莉久、迎寿物、江口賢伸、轟所大星、田口大翔、甲斐巧海、森田偉斗、宮崎空夢、石川僚祐、森嵩翔、守屋大地

（柳ヶ浦高校） 監督：有門寿
演：本郷眞、杉田凱風、湯浅諒、中川喜之輔、富着摺惟、木塚武、外園優心、下地里旺、富康真樹、
椎橋風仁、篠崎晟哉、宮地飛斗、芹田幸季、松本翔汰、池田琉生、安里皇、播本疏唯、小村力明、
新谷敏希、城拓斗、堀内惟良、大塚一斗、前川柊太、安部聰、松浦政宗、安里耀、曾根虎太郎、
八尋豊、徳丸亞色夢、佐々木麻我

<日章学園高校> 監督:原啓太
吉村元翔、上山颯耶、西森和浩、梶原壮一郎、藤本晃士、宮本大誠、阿部真大、児玉寛汰、田實優翔、野呂鳳辰、吉川昂み、吉山来希、安藤優翔、上原大昇、皆川春輝、南創太、高見秀美、小畠魅藍、有働徹哉、松本愛武、中島明夢、家永健道、川越麻斗、田上遼馬、篠田星凪、高岡伶颯、水田桂太朗、佐藤恭太郎、高橋脩哉、佐久川友祐

＜大津高校＞ 監督：宮崎祐介
坊野雄大、村上葵、須藤親太郎、大神優斗、田辺幸久、吉本篤史、五嶋夏生、守田龍弥、島田一
杜、末松煌生、村上悠哉、兼松将、古川大地、鴻本悠大、綴明日麻、中村健之介、日置陽人、舛井
悠悟、徳永雄斗、烟拓海、京原一郎、松田亞紗、松野秀亮、福島京次、岩崎天利、山下景司、稻
田翼、新田太陽、石塚羽衣、山下虎太郎

＜長崎絆科大附属高校＞ 監督:定方敏和
マガリエンス・アルナウド、山口海翔、宮本健介、小手川蓮、淺見歎太、市丸夢人、京谷未夢、青木征士郎、平山響音、藤原悠聖、田中泰平、原田真之介、金城琉琥、大屋麻尋、宇土尊琉、阿部紘斗、仲根楓樹、松下翼昇、尾島葉蓮、田尻龍祐アドバイザー:高橋駿介、山崎芽菜、秋田楓人、坂本綾、甲斐智也、福島文輝、島田俐亞武、新垣太一、弓矢真叶、土屋薔薇

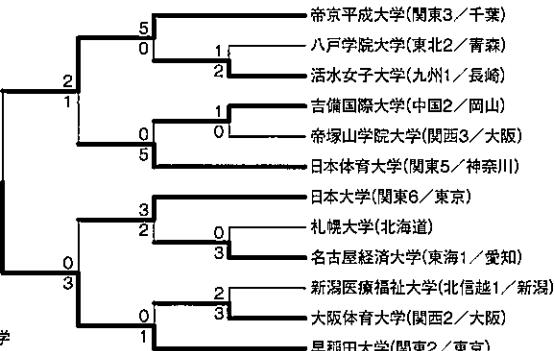
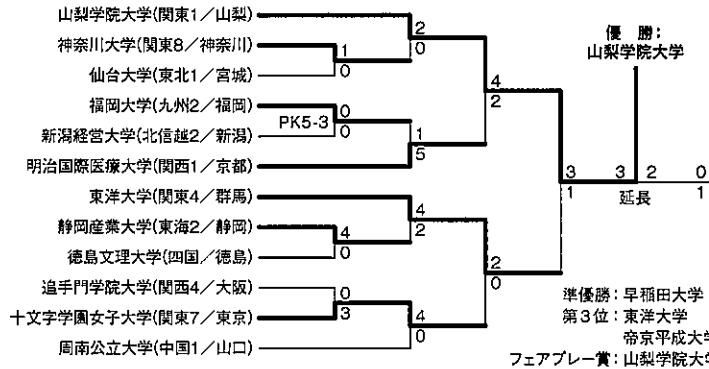
〈神村学園高等部〉 監督・有村圭一郎
川路陽、照屋楓大、寺田健太郎、古川俊也、中野陽斗、鈴木悠仁、難波大和、田中遼一郎、有馬廉康、吉永夢希、新垣陽盛、長沼政宗、吉田唯竜、内匠遼翔、下川温大、高橋修斗、福島和毅、大成健人、名和田我空、佐々木悠太、平木駿、徳村榎大、森元桜矢、長田誠矢、日高元、竹内尋、西丸道人、鈴木舵斗、樹本琉空

〈名講高校〉 監督:比嘉洋介
松瀬真之介、仲本大地、大城伶太、當山翼樹、大城祐人、桃原泰空、川上獅溫、比嘉隼太、比嘉悠斗、小濱海吏、巖嘉宗一郎、眞吉堅廉十、小浜聖也、前川虹志、大城蒼央、仲井間夏樹、親川駿馬、平原悠真、伊良波敦、湖原天夢、室間味選大、宮城光陽、金城希和、浦崎愛士、比嘉秀彩、仲村光羽、松田淳人、砂川龍之介、照屋瑠人、前川颯志

第32回全日本大学女子サッカー選手権大会

朝日新聞社、一般財団法人全日本大学女子サッカー連盟およびJFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームかつ大学のチームで、大会参加申し込み締切日（今年度は2023年11月16日）までに登録された単一の大学の学生の選手に出場資格が与えられた。今大会は、2023年12月24日～2024年1月6日に大阪府、千葉県、東京都で開催され、24チームが出場した。

※大会レポートは 69 ページに掲載



準決勝

山梨学院大学 3 (前半3-0 後半0-1) **1** **東洋大学**

●2024年1月4日 11:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]荒木裕里香 [副審]草処和江／國師えりな [第4の審判員]吉永真紀 ●観衆:578人

山梨学院[監督:村上裕子]:[GK](45)大原もも [DF](5)大高心(15)板谷美羽(35)鶴田華(65)椎葉香香→66'(50)宮本仁奈> [MF](9)山田歩美→66'(68)村上穂乃実> [FW](19)甲斐碧海(23)上田佳奈(38)青藤桃花←90+3'(28)高木琳>(46)木許和心 [FW](20)伊藤琴音→83'(11)内田生平>

控え:(60)高橋千空(24)阿部文音(29)小原愛生(53)大住六花(64)寺村穂香
東洋(監督:石津渡太郎):[GK](1)中村末有 [DF](2)落合依和(5)藤生菜摘(19)長尾ののか(35)鈴木京響 [MF](7)北村美羽(8)野口珠里(11)宮本妃菜里(16)稻山美優→<78>(38)加藤満久江 [FW](14)片岡由梨←<-58>(33)田中結衣(20)小林莉々子
ゆう:(21)清森有紗(6)今西那歩(13)猪木トト(22)ク里牛恵奈(26)山崎絢乃(29)竹内詩

得点：[山梨学院]6'、25'伊藤琴音(1-0)(3-0)、12'山田歩美(2-0)

準決勝

帝京平成大学 0(前半0-0 後半0-1)1 早稲田大学
●2024年1月4日 14:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判長:「主」

審)吉田瑞希 [副審]廣田奈美/大谷美瑛 [第4の審判員]勝又美沙希 ●観衆:607人
帝京平成(監督:矢野彌子):[GK](1)阿部ほのか [DF](7)波邊那奈(9)宮崎彩菜(23)山田瑞穂(47)鈴木木暮 [MF](4)浅野絢花(5)吉岡こころ(8)江崎暁世(11)小原蘭菜(50)佐藤工儀(2)リバード・カリナ・ヘンツ [FW](16)大曾根千尋

控え:(21)田倉羅姫(6)針生理菜(12)吉川麗(20)岡田かれん(28)須藤美羽(31)大八木朱音(35)樋原美咲(38)鍵谷天
早稲田監督(後藤史):[GK](1)石田心菜 [DF](2)夏目歩実(3)後藤若葉(5)田頭花菜(6)浦部美月 [MF](7)笠原紘乃(9)三谷和華奈<->83'(27)新井みゆき)<(10)築地育(30)大

山愛笑 [FW] (26) 千葉梨々花 <→90+2' (14) 生田七彩 > (28) 崎岡由真 <→61' (8) 白井
善潤 >

抽送(12)土山烟子(4)锯齿珠子(12)土圭花茎(12)楚田知鬼(12)西蜀彩金(25)长山淫蕡

得点：【星野田】35後藤英輔(0.1)

【参加選手】

<札幌大学> 監督:氏家新司

高見颯希、丸山雪月、秋田咲良、宇佐美愛、鈴木莉瑚、森上茉耶、藤原胡桃、東雲叶夢、山口ヒカル、井田久美子、玉川実奈、及川小枝、土井川颯希、安田聖羅、吉川夢叶、猪又月菜、志藤翠衣、嘉数クリア姫麗、門脇もえ

<仙台大学> 監督:黒澤尚

齊藤菜々香、坂釜慧、佐藤心音、岩田珠李、小川佳奈、菊池柚葉、山口歌子、山田萌々花、中島智香、筈尾舞雪、奥山空、齋藤千夏、佐藤和、太田璃花、藤田陽向、橘千笑、渡邊さくら、岡本ひな、加藤愛、馬場彩海、小河原彩花、箕川そら、武田夏凜、河野辺楓果、田中ことみ、後藤渚月、横山真鈴、清水照華、伊東萌衣、千葉美咲

<八戸学院大学> 監督:小川啓示

小林ちひろ、伊藤成美、中村月、橘朱音、早坂瑠菜、岩船春菜、平山珠梨、榎本聖姫、佐武はのか、島下七海、檜山伶、千葉湖羽、三浦萌愛、閑川伽音、太田潔華、細川暖彩、宮野日和、松ヶ崎水晶、伊藤朱音、赤松佑衣、伊藤真緒、野村実紀、及川桃、沼尾美空、石川凜華、若林亞胡

<山梨学院大学> 監督:村上裕子

谷口夕姫、大原もも、高橋千空、一瀬葵夢、大高心、中井佑姫奈、小原愛生、嶋田華、齋藤丹里、宮本仁奈、中津留彩奈、寺村穂香、関根実咲、稻田雛、山田歩美、熊谷南摘、栄谷美羽、甲斐碧海、上田佳奈、阿部文音、島村美風、木許和心、大住六花、香椎彩香、村上穂乃実、内田朱夏、伊藤琴音、高木琳、齊藤桃花、中込悠

<早稲田大学> 監督:後藤史

石田心菜、丸山翔子、田村亜沙美、夏目歩実、後藤若葉、堀内璃子、田頭花菜、浦部美月、木南花菜、小林舞美、藤田智里、杉山遥菜、ワース恵、笠原綺乃、白井美羽、三谷和華奈、築地育、栗田彩令、淀川知華、澤田美海、阪本環、生谷寧々、新井みゆき、川本美羽、大山愛笑、大森美南、生田七彩、千葉梨々花、崎岡由真、Eloise Hansen

<帝京平成大学> 監督:矢野喬子

阿部ほのか、田倉羅姫、吉田愛縁、渡邊那奈、宮崎彩菜、石井伶奈、岡田かれん、太田綾音、須藤美羽、大八木朱音、久保田知紗、鍵谷天、鈴木董、神田絢音、浅野綾花、吉岡こころ、針生理菜、江崎世来、古賀花野、小原蘭菜、吉川麗、北川心子、山田瑞穂、小笠原由衣、名越杏香、梶原美咲、加登友佳、佐藤千優、加藤渚、金子志成

<東洋大学> 監督:石津遼太郎

中村未有、久保花穂、遠藤有紗、三宅紗優、落合依和、熊谷美布、藤生菜摘、長尾ののか、久留生唯奈、五十嵐花怜、田畠風術、鈴木京響、三尾心々美、宮下紗和、今西那歩、北村美羽、野口珠里、宮本妃菜里、境ひより、稻山美優、森本陽菜、竹内瀬戸香、田中結衣、村岡由梨、齊藤桃香、小林莉々子、平原花珠、山崎綾乃、武田悠、加藤満久花

<日本体育大学> 監督:大槻茂久

西川佳那、服部茜汐香、長谷川想、福田はな、森文佳、朝倉加奈子、富岡千宙、高原天音、大矢さくら、西村萌、藤澤和心、大森みさき、知久奈菜穂、田村かのん、渡部麗、森田美紗希、金子麻優、岡本亜子、原田えな、萩原麻衣、松本歩音、野中遙陽、篠田帆花、島崎結希、寺尾星奈、窓岩日菜、北沢明未、中村円香、浅香美結、錦織美紀

<日本大学> 監督:持田紀与美

山田桜音、藤田萌歌、古橋綾乃、金澤柚希、Chae Yeowon、光田知世、間庭遙香、遠山瑞菜、油本明佳里、滝沢美結、田口湖香菜、大光望結、清水萌衣、川原梨寧、牧野美優、片山詩乃、藤原愛里、井上美海、久保華恩、青木若葉、曾離佑香、横溝麻里花、増原遙花、木村藍、太田千満、加賀美心音、渡邊莉沙子、小林結奈、西野早紀、玄蕃理恵

<十文字学園女子大学> 監督:野田明弘

清水美紅、須藤亜友花、佐怒賀理子、古川なな子、南里杏、中山涼、オモロジエバ英里香、三上舞佳、大城結菜、川本汐音、黒川愛奈、鈴木麻生、高梨智穂、野村裕紀、大槻美生、利光由衣、増茂菜波、黒澤琴音、細矢貴鼓、師田英利子、檜垣萌、赤間玲、福森和子、松野尾沙也、佐藤萌里、三谷碧葉、福田ひな、濱浦柚花、寺田妃花、片岡花葉

<神奈川大学> 監督:斎木翔太

田島伊織、松井里央、鈴木寛那、沼中彩里、中岡理子、安藤麻耶、西尾彩花、高野瀬紫苑、今井彩絢、吉田優菜、金子麻希、本多実夏子、浅田幸子、唐沢芽依、鶴岡優月、小倉琉海、伊井づばさ、前島翠、加田菜、堀井綾乃、平井杏幸、池口響子、鈴木杏梨、江藤里桜奈、木下陽菜

<新潟医療福祉大学> 監督:前田信弘

木崎あみ、若松杏海、澤田瑞希、谷口愛奈、森口莉子、佐々木美悠、中尾奈摘、大湯可琳、石川くらら、鶴巻美優、桑原理子、樋山和香、葛西彩夏、佐藤茉由、森三紘、岩田亞弥、大原和夏、牛尾静里、山下朝子、岡部莉子、佐々木穂乃花、中島和香、森下心温、豊村文香、堀内香歩、木村華恋、工藤聖蘭、清宮有貴、清水菜々羽

<新潟経営大学> 監督:稻葉旬

東原紗和、小柳涼華、矢古宇紗空、明石桃花、今井乃愛、九鬼ゆら、穂山夏渚、宮下世那、倉持咲希、松葉六花、井上美菜、林里莉、大槻桃華、吉原かな、下坂未咲、宮坂空夢、長田彩果、桃園美柚、松崎瑞穂、榎本真希、濱田幸宇宙

<名古屋経済大学> 監督:三壁雄介

加藤李梨、大津陽子、金城南、田淵結子、田尻梨桜、松本陽花、角田菜々子、柳美羽、北條愛翔、玉井萌、安本舞桜、荒川風香、山本玲、武田愛美、中川冬萌、川島美生、奥田愛理、新川華乃、桃原彩花、古谷瑠菜、肴倉由依、吉原汐音、中田琴巳、松尾美佑、福井りおん、北村ほのか、小川聖奈、大貫真華

決勝

山梨学院大学

3(前半1-2 後半1-0)2

早稲田大学

●2024年1月6日 13:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分、延長20分
 ●審判員:[主審]小野田伊佐子 [副審]荒川里実/田嶋うらら [第4の審判員]田中真輝
 ●観衆:1,613人

山梨学院(監督:村上裕子):[GK](45)大原もも [DF](15)栄谷美羽(35)嶋田華(50)宮本仁奈(65)香椎彩香<->82'(64)寺村穂香> [MF](9)山田歩美<->74'(53)大住六花>(19)甲斐碧海(23)上田佳奈<->93'(11)内田朱夏>(46)木許和心<->109'(28)高木琳>(38)齊藤桃花<->74'(5)大高心> [FW](20)伊藤琴音

控え:(60)高橋千空(16)中井佑姫奈(24)阿部文音(29)小原愛生

早稲田(監督:後藤史):[GK](1)石田心菜 [DF](2)夏目歩実(3)後藤若葉(5)田頭花菜(6)浦部美月 [MF](7)笠原綺乃(9)三谷和華奈<->82'(27)新井みゆき>(10)築地育(30)大山愛笑 [FW](26)千葉梨々花<->延後開始(14)生田七彩>(28)崎岡由真<->65'(8)白井美羽>

控え:(16)丸山翔子(4)堀内璃子(13)木南花菜(17)藤田智里(18)栗田彩令(25)杉山遥菜

得点 [山梨学院] 19'伊藤琴音(1-1)、85'嶋田華(2-2)、95'大住六花(3-2)

[早稲田] 7'千葉梨々花(0-1)、39'三谷和華奈(1-2)

<静岡産業大学> 監督:安浪貴之

淺井絵里香、越智れもん、安間帆乃香、岩本有叶、小島知佳子、石田小桜、長谷川愛花、疋田祝華、當房皆都、林知奈、森田和伽、中川瑚々、大西夏奈、山本心、駒水那名、北菜々子、梅津真央、梶木澤真彩

<明治国際医療大学> 監督:中村貴史

草刈希羽、秋山美月、中村瑠奈、須田麻鈴、飯田あんり、大田朱莉、本山優理、梶山朋恵、端山新、中島遥南、金子育未、山下空美、野本真衣、溝上可夏、野田幸那、金重美奈、保野伶奈、岡百合花、内田葵、大脇聖菜、吉留ひなの、栗栖采里、宮下祐奈、藤本涼伽、河村祐実、長井佐浦、石田愛、遠藤真緒、大西乙羽、池上羽雪

<大阪体育大学> 監督:石居宣子

津田明日翔、梅北葵、相谷亜由花、清悠香、岡村陽舞莉、加藤未来、東瑞里、小林葵、赤尾侑里、長谷原彩音、草場千寛、桂亜依、川浪実歩、三代淑世、北原歩奈、井上歩乃華、石川真愛永、植田絢羽、荒谷美優、平岩依々菜、矢野梨紗、黒松りばん、梅菜々笑、橋本結菜、辻原莉音、中垣和佳奈、沖百萌花、加井菜月、吉田巴菜、西野ななずな

<帝塚山学院大学> 監督:三輪由衣

東原咲紀、流川桐佳、伊藤恵梨子、谷口涼、浅見汐音、三井愛里沙、速見咲希、矢野愛華、山路なな、松崎花菜、伊藤有那、廣崎心、川上七奏、北田琴理、福田陽菜、中丸美令、松尾由帆、小緑瑠夏、林咲良、大倉弓佳、神門風音、新田萌夏、千本翔子、宮本夏夜、松林和香、西川姫花、扶蘇友里乃、加藤月唯、丸山日和、鈴木雫子

<追手門学院大学> 監督:酒井望

山本梨乃、森松紗羅、秋山来実、東優希、長野心菜、松村菜美、後藤愛梨、後藤萌乃果、田中夏海、井手口怜央、樹井優、湯ノ上朋乃佳、三浦彩夢、三浦めぐ、大場柚季、尾崎恵、仁木愛実、山下妃華、彦阪由依、松原愛佳、市川幸来、石橋春果、新谷星奈、本田優、古川朱莉、新谷杏菜、橋本みづき、菅森杏、平野優月、中田歩果

<周南公立大学> 監督:田中龍哉

宮本向日葵、八田七海、池澤のあ、渡邊凜、油布亞優美、河上雛美、松枝莉央、宮武里奈、高橋美樹、谷穂花、坂田恵実、時高由菜、椎屋恵美瑠、坪根妃瑠、大西絢菜、浪井香葉、木村円香、近藤千寛、高垣心、石井日菜

<吉備国際大学> 監督:太田真司

蜂須賀桃花、西原紀恵、八木遥、川名遙香、中野咲、徳本華暖、横山萌、内田真波、黒田珠樺、松井琳子、境菜々美、田野愛華、西山菜々、吉岡愛心、釣本小夏、土江葵唯、川久保花夏、田川葵、三村優花、赤木絵美香、横山奈柚子、山下結夢、三浦春菜、古谷優理亞、高取遥香、比嘉柚月、去来川琳加、西森海琴、河原彩花

<徳島文理大学> 監督:金子憲一

村上優級、森本真由、沖本梨央、只信佑奈、今西夏菜、富田幸実、松本有未、横田唯、井上凜花、西口和花、手塚月菜、宮平優佳、松原亜衣、中島佳那、田畠天海、西村モナミ、永井萌夏、松田陽菜乃、西垣美佑、上瀧凜子、高木絢音、塚野乙都、中原萌唯、植野沙耶、田畠真海、杉本美和、中川理菜子、森岡朱都、曾我美友

<活水女子大学> 監督:阿部麗

小西空海、徳永深南、中島歩夏、田中夏海、藤井瑠華、寶満梨美、加藤美有、佐々木優、柳本陽、田中花奈、金山誠空、山口礼結、河野すず、山道美琴、岩倉花遙、久保らん河、中村朱里、上村穂海、鶴菜々子、池畠遥

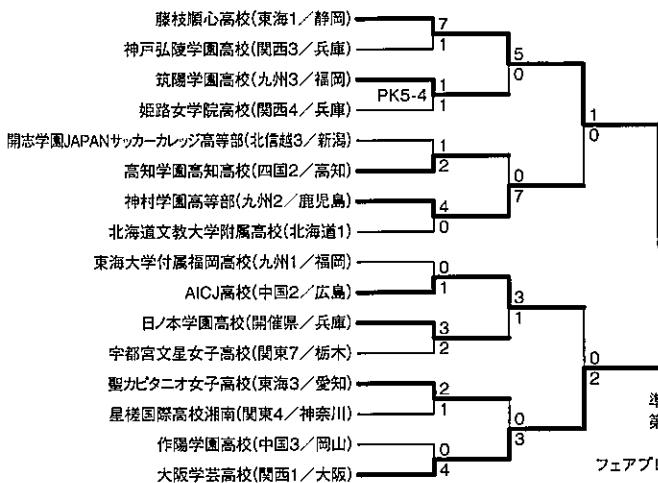
<福岡大学> 監督:門司康成

三宅未紗、佐藤寧、平野優、井手花香、川内花純、奈須野安侑里、波多野蘭、山根すず、別府朋香、齊藤彩乃、西山陽菜、平本夢乃、茅野愛恵、中島希海、志和知歩実、池田かこ、カーマイケル愛羅、河内早苗、島田梨々佳

第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

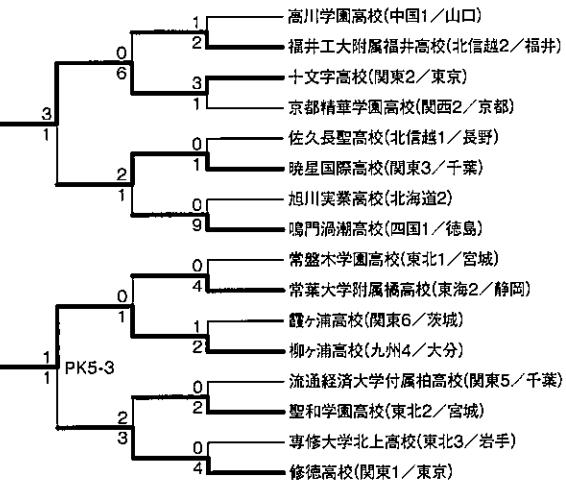
神戸市およびJFAの主催、(公財)全国高等学校体育連盟が共催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チーム、かつ都道府県高等学校体育連盟に加盟した高校の単独チームで(全日制課程・通信制課程・定時制課程の生徒による混合は認めない)、大会参加申し込み締切日までに登録された高校生の選手に参加資格が与えられた。今大会は、2023年12月30日~2024年1月7日に兵庫県で開催され、32チームが出場した。

※大会レポートは70ページに掲載



優勝：
藤枝順心高校

準優勝：十文字高校
第3位：大阪学芸高校
柳ヶ浦高校
フェアプレー賞：十文字高校



準決勝

藤枝順心高校 1 [前半0-0 後半1-0] 0 大阪学芸高校

●2024年1月5日 14:00 ●ノエビアスタジアム神戸 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]稻葉里美 [副審]佐々木陽美/吉永真紀 [第4の審判員]大村美詞 ●マッチコミッショナー:井上裕也 ●観客:832人

藤枝順心(監督:中村翔):[GK](1)菊地優杏 [DF](5)大川和流(8)中出朱音(15)松本琉那(18)柘植沙羽 [MF](6)下吉優衣(10)久保田真生(19)植木愛実 [FW](9)高岡澤(11)辻澤亜唯(17)藤原凜音

控え:(12)ンワディル・ヴィクトリア(2)望月欽那(14)曾根育美(16)永田優奈(20)中島沙彩(23)葛西唯衣(29)鈴木巴那

大阪学芸(監督:副島博志):[GK](1)宜野座令愛 [DF](3)木村衣那(4)西嶋桃花(22)松川陽加里(28)中村柚仁<->HT(24)小柳夏姫> [MF](6)江口碧華(8)滑川藍<->65'(29)三納咲希>(10)北川愛唯(11)山田実来 [FW](7)菊山裕衣<->76'(13)西凜華>(9)佐藤美優<->76'(19)中村優月>

控え:(23)扇子未歩(14)難波奏(25)塙見尚子

得点: [藤枝順心]90'+1'藤原凜音(1-0)

警告: [藤枝順心]28'辻澤亜唯 [大阪学芸]53'小柳夏姫

【参加選手】

<北海道文教大学附属高校> 監督:清野訓靖

河瀬望乃加、尾形芽生、生井千晶、佐藤菜月、鶴間みのり、澤野帆乃佳、齊藤瑠唯、安達優菜、吉川育夢、鶴村菜穂咲、曾部妃加里、牛鶴心海、佐藤友菜、小林悠夏、國井麻耶、館川遥菜、川村愛桜、川端ひまり、藤本袖夢、行天千鈞、田村もも、山田海愛、成田咲蘭、清家音々、古村螢、吉田有沙、近藤花保、小笠原ひなみ、鈴木彩日香、寺崎華子

<旭川実業高校> 監督:土岐勝浩

宮下雪乃、富田桃華、佐野智尊、眞壁幸来、秋山真花、山下可暖、葛西藍菜、山口瑞希尼、西潟胡花、柑野千咲、山下可鈴、佐藤千幸、田中葵、大居希実、岡村穂空、澤田美月、山本静果、中村杏夏、野呂柚羽、小川紅愛

<常盤木学園高校> 監督:阿部由晴

佐々木心、榎原碧彩、渡辺莉央、岩川鎧、柴山華奈、岸仁美、中島暁莉、岡村まだか、野澤花陽、板倉瑞穂、横田理帆、星吏紗、阿部菜々子、葛西彩、田井海音、市川里帆子、高木沙都、藤井愛梨、津嶋咲沙、菱沼みずき、山下杏梨、海野安璃、小川凍子、佐藤瑞希、白木珠奈、小笠原妃世、伊藤そら、東堂正枝、小林ちさ、柳町玲音

<聖和学園高校> 監督:曾山加奈子

男鹿藍里、益子恵、鈴木朱美、我那覇凜、佐々木はるか、梶原渚南、今野杏凪、小亀萌絵、村田梨帆、佐野美尋、佐藤あい奈、加藤春佳、紺谷あろえ、益子由愛、遠藤潤子、本田悠良、大竹美生、石川麗奈、櫻井梨里花、伊藤三名、杉森聖莉、峯崎夏海、伊藤花恋、保立七海、田辺心愛、米村歩夏、佐藤真桜、今村栄愛、佐藤実玖、岸本莉依

<専修大学北上高校> 監督:佐藤徳信

千葉玲奈、小林璃海、中鉢菜弥、齊藤菜南、高橋莉奈、金井日和、大竹夏姫、山下真央、佐々木こころ、川口凜、岩瀬心春、八銘ゆり亞、工藤蒼生、白石朝香、佐々木渚、昆野杏梨、小林愛、高庭沙紀、鈴柄日和、原子そら、菅野桃子、平山梨咲、沼崎ひかり、稻村花那、遠藤絢美梨、大鳥佑海、佐藤なごみ、大野妃菜、谷内碧、立嶋紀奈

<修徳高校> 監督:有賀重和

五十嵐憂美、市川るな、鬼澤美花、萩島美空、高野彰音、加藤麗、黒川煌、増子百花、大串陽南、徳江はる、倉田こはる、山西理緒、櫻戸りおな、青木梨緒奈、白城璃々花、菅原未有、星野玖羅々、鬼澤美袖、石川ここの、堀谷日和、森香菜奈、筒井まつり、那須野陽向、矢野幌、八木陽、小川結羽、野瀬日花里、小林愛菜、中川名奈美、宇田川果歩

準決勝

十文字高校 2 [前半2-0 後半0-0] 0 柳ヶ浦高校

●2024年1月5日 11:00 ●ノエビアスタジアム神戸 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]岩本慈花 [副審]大谷美瑛/丸本明奈 [第4の審判員]大村琴美 ●マッチコミッショナー:井上裕也 ●観客:544人

十文字(監督:石山隆之):[GK](1)中村薑 [DF](3)米口和花(5)山崎亞沙(6)受川琴未(8)安西愛<->90'+2'(20)山崎美乃> [MF](7)新井萌禾<->90'(14)伊藤芽紗>(9)三宅万尋(10)早間美空<->90'+2'(11)長行司百杏>(12)川口歩奏(13)福島茉莉花<->69'(17)梅本恵> [FW](4)本多桃華<->90'(18)澤田さくらアリーヤ>

控え:(16)辛嶋心結(15)菊池真唯子

柳ヶ浦(監督:林和志):[GK](1)大山姫星 [DF](3)能田未愛(4)高松芹羽(5)重松日菜(19)徳重花恋 [MF](6)松崎陽菜(10)松岡優空(16)中村沙愛<->76'(11)松田史真>(20)田淵聖那 [FW](8)濱田若那(14)江崎悠乃

控え:(12)大野姫咲(2)兼崎友希(9)高田実夢(15)園ひなの(17)村上安奈(18)田中莉那

得点: [十文字]25'福島茉莉花(1-0)、29'安西愛(2-0)

警告: [十文字]38'米口和花

決勝

藤枝順心高校 3 [前半2-0 後半1-0] 0 十文字高校

●2024年1月7日 12:03 ●ノエビアスタジアム神戸 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]馬場成美 [副審]横田碧/廣田奈美 [第4の審判員]柿本麻希 ●マッチコミッショナー:石塚俊一 ●観衆:2,350人

藤枝順心(監督:中村翔):[GK](1)菊地優杏 [DF](5)大川和流(8)中出朱音(15)松本琉那(18)柘植沙羽 [MF](6)下吉優衣(10)久保田真生(19)植木愛実<->90'+3'(29)鈴木巴那> [FW](9)高岡澤<->90'+1'(14)曾根育美>(11)辻澤亜唯(17)藤原凜音<->69'(23)葛西唯衣<->90'+1'(7)青井麻衣>

控え:(12)ンワディル・ヴィクトリア(16)永田優奈(20)中島沙彩

十文字(監督:石山隆之):[GK](1)中村薑 [DF](3)米口和花(5)山崎亞沙<->77'(2)小島世里>(6)受川琴未<->71'(14)伊藤芽紗>(8)安西愛<->71'(18)澤田さくらアリーヤ> [MF](7)新井萌禾(9)三宅万尋(10)早間美空(12)川口歩奏(13)福島茉莉花<->66'(17)梅本恵> [FW](4)本多桃華

控え:(16)辛嶋心結(11)長行司百杏(15)菊池真唯子

得点: [藤枝順心]4'久保田真生(1-0)、45'辻澤亜唯(2-0)、75'葛西唯衣(3-0)

警告: [藤枝順心]79'葛西唯衣

<十文字高校> 監督:石山隆之

中村薑、辛嶋心結、小島世里、山崎亞沙、受川琴未、安西愛、川田瑠依、山崎美乃、岩田理子、袖山夏怜、松尾弥空、本多桃華、新井萌禾、三宅万尋、早間美空、川口歩奏、福島茉莉花、伊藤芽紗、菊池真唯子、梅本恵、上川路遼、高橋美祐、木田遥、中山結花、宮崎日詩、米口和花、長行司百杏、澤田さくらアリーヤ、貴島莉子、吉田真穂

<柳ヶ浦高校> 監督:荒井穗高

竹下咲那、北條紗花、熊原なみ、大澤歌鈴、三輪乙葉、石川楓、鈴木愛美、押井美羽、岸本梓未、林希寛、古田由乃、川西伶奈、塩屋凜、齋藤色、岩本未颯、角田莉夏、芳垣美幸、石田千華、志村ひより、五十嵐美朝、岡本玲南、仲野真知、森崎紗寿、立花芽唯、黒川夢、杉山咲和、伊達香花、松谷星来、曳地鈴、河西桜和

<星槎国際高校湘南> 監督:柄澤俊介

内海佑南、秋谷夏帆、小池麻衣、坪井茉凜、朝倉麗、中野希音、齊藤麻琴、鈴木樹乃愛、駒澤歩、安岡若葉、瀬戸島美羽、矢島花香、梶地棕音、小石川叶夢、鈴木碧華、松崎栄菜、皆川和奏、望月心咲、高杉梓、原田和奏、田中羽菜、吉澤星空、首藤彩菜、遠藤桜寧、中島咲友菜、宮本和心、国吉花吏塁、島田陽良、東村心、周藤結桜

<流通経済大学付属柏高校> 監督:浦田佳穂

阿部麗奈、本多実桜、桑原花菜、伊東憧、川上葵、師岡奈央、内山莉依夏、松島日和、関口明日羽、鈴木那智、大林奈央、本間寧音、大道寺こころ、水口梨美、鰐坂みさき、安達凜花、井川愛稀、加藤あやめ、昆ひな、畠山花音、斎藤綾梨、西岡萌々子、川野辺碧、岡村杏奈、田中悠菜、小百合月、石原愛理、飯塚有咲、市野瑛瑠奈、清水彩華

<霞ヶ浦高校> 監督:竹元栄子

芦澤彩、土屋茉希、竹村咲希、地島愛彩、齊藤知寛、佐藤マイカ、足立陽菜、鎌上真緒、井上祐実、梅澤美羽香、増原希美、飯田美波、折田澤、上野心、大信田茉依、鈴木美羽、足立結菜、阿久津光、後藤咲幸、中川椎、矢内杏奈、五十嵐和郁、原田華花、佐藤亞衣

<宇都宮文星女子高校> 監督:鈴木秀明

山神七海、大藤彩夏、恩田杷花那、飯田怜唯、金久保美羽、佐藤初音、宮田和奏、茂木優菜、前林凜花、谷口明日菜、矢本美緒、益子玲亞、坂本咲和、中島麗来、須賀美由希、鎧木百恵、佐々木玲愛、岸本彩希、大谷木梨乃、中澤和、福田莉子、増山結菜、鹿沼亜沙美、廣瀬乃愛、佐藤優良々、佐藤楓華、大野志媛、酒巻桂奈、丸谷芽衣、渡辺笑彩

<佐久長聖高校> 監督:大島駿

植松結菜、笹子莉智、加藤真実、鈴木こなつ、新井陽彩、伊藤百花、桃井咲乃、中澤瑛夢、多賀恋日和、稲田かの子、谷津優菜、平賀千春、西尾碧海、山崎莉歩、道繁煌、草山梨子、馬崎仁菜、福島愛菜、青木心乃花、山下琴遥、川渕碧空、西澤千帆、金谷彩花

<福井工大附属福井高校> 監督:久保直也

寺田こころ、下川陽南多、四七萌子、留木未々、上村怜、神野真凜、木村ゆず、後藤璃胡、澤田美咲、伊神風花、田中美空、野村美里、金津暖、河上伶永、岡田ふみの、河合結月、濱井小町、宮脇結、花田凜音、岩崎詩、酒井津、名倉幸希、廣安小春、松永亜亜、秋田萌絵、西尾唯花、鈴木亜音、中垂仁、岩佐寧々、高橋みらい

<開志学園JAPAN サッカーカレッジ高等部> 監督:影山啓自

亀井美雨、坂田湖琳、吉田さくら、石田瑞南、齊藤百音、熊坂妃乃奈、糟野逢生、高山杏々葉、岩崎朱里、那須陽帆、吉田琉愛、小林柚葉、佐々木まゆ、五十嵐日菜、後藤遼月、袖留木咲希、牧野カレ、海老名白、相楽亜季、齋藤リズ、清川海七、松川そら、大宮永波、大西楓來、瀬川こころ、楠本樹里、山田桔梗、國多瑠那、三野彩音、谷柚葉

<藤枝順心高校> 監督:中村翔

菊地優杏、ソワディル・ヴィクトリア、伊藤楓夏、望月歓那、古田晃、大川和流、石野柚良、松本琉那、永田優奈、柘植沙羽、松山の美、岡崎海空、岡村望央、小林凜、赤塚花風、下吉優衣、青井麻衣、久保田真生、植本愛実、中島沙彩、佐藤ふう、葛西唯衣、弟子丸紗羽、鈴木由真、中出朱音、高岡灘、辻澤亜唯、曾根育美、藤原凜音、鈴木巴弥

<常葉大学附属橋本高校> 監督:後藤亜弥

田尻結菜、吉田佳菜、鈴木希花、稻川真紀、脇川あかり、川嶋柚衣、野村美友、笠井寧々、大石美音、浅賀心結、鈴木友菜、小澤瑠奈、望月寧々、神谷心菜、上杉恵、鈴木亜子、芝田美妃、松尾侑芽実、浅倉悠里奈、中村幸来、小島あんの、田中綾芽、元村芽菜、金指京華、佐藤煌、伊藤朱莉、後藤真生、松浦芽育子、石内日彩、川竹花音

<聖カピタニオ女子高校> 監督:多田利浩

石川萌絵、柿添彩良、梅村心陽、江崎紘羽、坂下利里奈、浦前遥楓、木村真綾、川北梨湖、中田絢日、鈴木里奈、沖本季委、高瀬未愛、加藤英麻、北村心菜、近藤綾音、中屋敷汐音、熊崎せり乃、衆原みりあ、筒菜乃芭、松波ほのか、畠山結佳、佐藤翠、田内友梨、小澤しいな、伊藤叶葉、塙川十鶴星、森星空、オーライー詩奈、草地奏良音、鯉江彩貴

<大阪学芸高校> 監督:副島博志

宜野座令愛、菱戸理那、厨子未歩、井田聖来、木村衣那、西嶋桃花、白井心葉、萩原未空、木下日花里、松川陽加里、小柳夏姫、中村柚仁、内田美愛、江口碧華、滑川藍、北川愛唯、山田実来、難波奏、小松佑莉、中村なつみ、堀花成、塙見尚子、井戸リ咲、温崎亜月、三納咲希、菊山裕衣、佐藤美優、西凜華、中村優月、越智想予

<京都精華学園高校> 監督:山本浩介

内田璃紅、貝阿彌來那、宮前すずな、小畠空葉、奥田陽菜、森野彩、小原美月、吉岡百亜、尾高紗莉、藤原寧々、山本玲音、久保田美優、大石葉音、松本華波、佐々木夢桜、池田柚季、小塚羽夏、谷田留愛、児玉暖奈、鈴木萌羽、中山美柚、奥藤来夢、山田奈緒、前田柊、高田琉那、越智絢香、出口愛海、梶田燈莉、稻森万桜、元村梨那

<神戸弘陵学園高校> 監督:松下昂佑

重松あいり、岡村陽生、西村佐笑子、黒木和香、鷺見優心、河本法紀、大場舞咲、岡田この美、賀集志乃、新井香奈、香山愛花、下条真嬉、橋本ひなの、金璃央、有木心花、中西美羽、津野田真桜、横山麗乃、富倉光俐、佐治椋花、藤井結菜、祝詩乃、咲倉吉乃、浦田咲彩、桂菜乃、兵頭楓葉、山田愛実、鈴木梨花、横井睦、塩見結衣

<姫路学院高校> 監督:米津美和

松下葉音、垣本茉奈香、藤本織羽、林田真心、中井星良、湯浅志穂、朝山瑞希、高橋華、高木桜姫、中田羽奏、木虎小菜美、淺見花乃、桃柄来夏、孝橋日瑠里、長谷莉心、川又柚月、大野杏、井上夢菜、佐野美優羽、森田希夏、辰巳奈々羽、滝谷杏実、北山日那、喜多一菜子、立野心愛、三輪愛梨、奥本愛生、寺澤汐梨、中村百花

<高川学園高校> 監督:石田皓大

利木結衣、倉光里奈、坪田麻央、堀美風、今田桃香、三戸萌百花、菅南月、下村聖奈、香川真緒、櫻部真悠、大森優月、中川千夏、石原百華、河村菜々海、石村心夢、茂庭朋幹、岸村莉桜、石川理緒、堀江花凜、田頭侑奈、兼崎心里、井下舞櫻、吉川ミリヤ、安村美月、中原凜

<AIJC高校> 監督:小川潤一

上野理佐、濱田留寧、森山佳乃、加藤咲貴、宮武つぐみ、北川紗羽、趙智美弥、東方琉莉、大木彩葵、三輪結海、柏原凜沙、樋口三夏、川崎和奏、原田柚葵、松本百花、大瀬あみ、打田もえ、出村爽美、森澤咲由、山村奈帆、安部羽南、河井愛姫、藤永梨花、松尾瑠樹レイラニ、宮井千徳、高井更紗、岸波美采、臼井利依、中谷日青、大木優奈

<作陽学園高校> 監督:山川莉々加

石田ひなは、中村友梨香、青木凜羽、新城琴美、甲木湖冬羽、大野凜果、原望恵、村上和愛、遠山夏海、宮嶋葵、小笠原愛透、齋藤萌珂、川上友愛、福岡結、森原日胡、尾崎海音、竹内あり、浜本夕愛、八塚唯花、馬見塚心、堀江昂央、室井逢愛、賀田愛、片口恵花、弓場麗華、阿間見茜、安部美琴、北川青空、笠野伶奈、田中沙羅

<鳴門渦潮高校> 監督:佐藤城介

佐木双葉、池田涼花、仙波愛衣、立野姫愛、岡本かがり、松村実春、古田彩瑛、杉本雪奈、水谷遥、吉川凜、由良と奏、南雲虹香、田中真由、高石ひなた、武田もえ、林心音、堺真央、由藤きらら、千代紗、露原直央、山口陽菜乃、高山夢歩、田中歩乃羽、村井沙帆、松本柚葉、林千刀、石田萌華、富田翔保、長井乃愛、堀沙鈴

<高知学園高知高校> 監督:名倉正倫、森本稔

掛水朝陽、田崎ひより、浜田咲来、山本あいり、鎌倉琉音、和田彩愛、黒岩美羽、掛橋結、田井るんな、間城海月、西山実希、小松嶺華、宮宇地加奈、濱田楓果、菊崎妃南、池西麗蘭、三本優空、嘉新心来、泉香里奈、大森桜花、市川ひまり、大野羽愛、矢壁真恵子

<東海大学付属福岡高校> 監督:山本ひろな

久本千紗、弓立詩菜、伊藤運花、曾我部莉美、大隈夏凜、井手口里穂、林南花、今村涼風、鳴元ヨリナ、平良夢華、細川乃梨華、神田心未、富沢侑和、前原渚沙、黒野美虹、大友響姫、梶原仁那、鳴元葉乃亜、藤本夢空、朝比雪華、菅原菜楠、中谷百音、樋崎綾香、山名映理、山田愛実、吉村あいり、新城凜、横田ひまり、井手穂花、草原愛莉

<神村学園高等部> 監督:寺師勇太

後藤未来、神宮司千尋、津曲和美、工藤凜紗、岩下心々愛、幸福征良、児玉一穂、成田夢愛、森田こころ、野村夏鈴、春園虹天、茂谷珠那、岡部光流、山田怜愛、黒岩沙羽、上田彩葉、三富りりか、中村心美、上田麻莉、吉満凜、新原由菜、穴見華衣、原口鈴音、一木知華、久保百果、安田美泉、益留琉葉、原田真心、名越月海、吉留心愛

<筑陽学園高校> 監督:白垣裕行

山下美優、高田真央、川上涼音、檜室里結姫、柳原菖、熊谷桃葉、西村久瑞実、柴田夢蘿、松川さら、大久保茜里、中島美詩、池内純玲、宮本彩衣、松本遥姫、岩谷湊堵、有吉優里菜、小川華、別當暎彩、橋百華、ムカダシゲイ恵玲奈、閑智美、本多もも、由見莉桜、高尾春乃、倉重咲希、阿部志穂、仲佐彩花、山本來怜愛、米良俐音、竹下優羽

<柳ヶ浦高校> 監督:林和志

大山姫星、大野姫咲、大野菜緒、兼崎友希、能田未愛、高松芹羽、重松日菜、橋本凜、高田紋叶、村上安奈、田中莉那、徳重花恋、北野萌々果、小林萌菜美、松崎陽菜、松田吏真、園ひなの、中村沙愛、田淵聖那、小泉碧美、坂本穂乃佳、山口咲、山下絢香、濱田若那、高田実夢、松岡優空、江崎悠乃、松山七菜、楠田遥風、馬場八千留

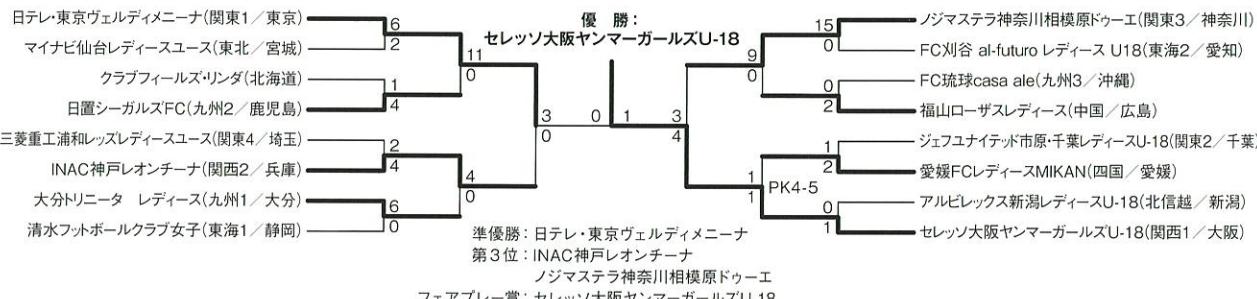
<日ノ本学園高校> 監督:和多田充寿

久田優里愛、湯ノ口愛佑菜、山崎美波、磯野美桜、渡邊絢音、森實葵、今井双葉、中里美咲、大塚理紗、櫻庭羽紗、干場千晶、赤羽桃萌、丸山星、本多瑠己、田村來愛、高城青空、岡林柚葉、小林結望、藤原良、高橋すか、上田妃茉里、木下奈南、藤田葵、稻垣連、林華衣、高木咲希、高橋れある、白築紗弥、高橋亜優、栗原都来穂

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームおよび大会参加申し込み締切日(2023年11月29日)までに登録された2005(平成17)年4月2日から2011(平成23)年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は1月3日~8日、大阪府のJ-GREEN場で開催され、16チームが出場した。

※大会レポートは72ページに掲載

JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会



準決勝

日テレ・東京ヴェルディ 3 [前半1-0 後半2-0] 0 メニーナ

INAC 神戸レオントーナー

●2024年1月6日 11:00 ●J-GREEN 場 S1 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]大村美詞 [副審]大村琴美/光田智乙 [第4の審判員]宮尾駿希 ●観衆:250人

日テレ(監督:坂口佳祐):[GK](1)ウルフ ジェシカ結吏 [DF](2)北島景子(3)青木夕菜(5)松岡瑛茉(12)鈴木温子 [MF](7)栗田七海<→HT(20)伊藤風葵>(8)須長穂乃果(10)眞城美春<→90'+2'(18)今ゆうり>(11)松永未夢(15)式田和 [FW](19)武内明香里

控え:(16)林心春(22)永井愛理(25)米倉和心(27)友利愛紗(28)奥住心音

1神戸(監督:下川正生):[GK](12)花村夕莉 [DF](3)奈須遙(5)金月夏萌(37)森結愛 [MF](8)寺田心春<→78'(30)衣川杏樹>(10)国本結月(14)池田春菜<→59'(13)山崎日花(20)山脇菜花<→64'(2)沖山乃彩>(62)大田ありす [FW](28)中平怜那<→78'(18)田中さら(29)小島爽<→59'(39)平七海>

控え:(21)大塚陽和(22)三浦奏里

得点: [日テレ]29'須長穂乃果(1-0)、50'伊藤風葵(2-0)、85'武内明香里(3-0)

[参加選手]

<クラブフィールズ・リンダ> 監督:松下宏

大村瑛絵、丸山彩、宮西優菜、菊谷凜々花、千田百恵、鈴木萌杏菜、山崎悠恵、稻川桃果、渡邊こはく、及川璃音、笹森日和、門間祐加子、盛永恵菜、片山恵凪、高田絢子、清水川明里、片山あさ、福村音色、永山未苑、庄谷内響華、石黒月、福永彩恵、演中美結、中村実幸、前田ゆづり、高田ちひる、亀山想那、泉葵衣、山田莉緒、櫻井希歩

<マイナビ仙台レディースユース> 監督:小川翔平

高橋愛利花、松浦舞帆、唐澤鈴緒、瀬戸紗依、宮崎優那、加藤愛、田家海凪、秋山世名、岩城恋音美、伊藤里保、三浦月音、佐藤美おん、吉田桃子、佐藤にいな、渡部心、遠藤ゆめ、菊地花奈、菅原千嘉、浅坂真桜、三島愛、渡邊衣織、井ノ瀬玲緑奈、山本彩寧、村樋愛瑠、佐藤果林、津田愛乃音、長岡みなみ、三谷宥乃、渡邊愛香里、星野朱凜

<日テレ・東京ヴェルディメニーナ> 監督:坂口佳祐

ウルフ ジェシカ結吏、林心春、永井愛理、松原璃桜奈、加登脇心羽、北島景子、青木夕菜、池上聖七、松岡瑛茉、朝生珠実、鈴木温子、武内明香里、奥住心音、大木優里菜、栗田七海、須長穂乃果、眞城美春、佐藤穂、渡邊柚香、今ゆうり、伊藤風葵、大長柑花、諏訪穂香、米倉和心、樋渡百花、松永未夢、式田和、友利愛紗

<ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18> 監督:関根麻里

斎藤彩那、瓜生芽、足立楓、宮崎ひかり、宮内愛美、井上果鈴、吉岡里奈子、注野友里愛、足立梓、伊藤璃音、池田藍子、荒井珠穂、菅野向日葵、原媛凜、増田咲良、高松芽衣、谷口真由、大塚彩希、宇野杏奈、吉福紗帆、岡崎叶芽、吉野心、辻彩花、根津里莉日、吉川莉子、角谷瑠菜

<ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ> 監督:緑川浩平

澁谷栄奈、五十嵐香奈、池田桃花、岩崎有波、久山紗季、木村菜々夏、天野美海、市川未悠、原真琴、明詩音梨、表まつり、木村小春、清水和楽、中嶋琉七、江本みのり、笹井優愛、大山真由奈、田村茉優、中原愛麻、高橋姫花、大野夏歩、小高夢、木竜有姫、平山樹歩、柴田瞳、有賀月、鈴木麻白、青山千晴、加藤紗奈、阪田明日香

<三菱重工浦和レッズレディースユース> 監督:森栄次

杉本唯、鈴木もか、加納由佳子、富井涼、伊勢はな、澤野翔夏、岡村來佳、夏目真凜、南柚乃、江口祐加、塚崎萌美、青田望々、松家ゆり、秋本佳音、佐々木千草、野原歩乃果、佐藤美海、竹内愛未、清水優風、高橋光莉、今野真帆、中野杏奈、長島華菜、熊田姫依、高橋佑奈、平川陽菜、前原嘉乃、藤崎智子、谷田祐、辻あみる

<アルビレックス新潟レディースU-18> 監督:鶴間美樹

遠藤花恋、山崎璃音、松田莉杏、山田悠莉、稻垣遙、横山笑愛、登坂夢愛、川崎実祐、米野紗良、川崎心菜、渡邊幸乃、押田果子、更級一花、海老名心、内藤穂乃花、小皆陽菜、風間紗良、若桑日和、岡崎藍、小山桃果、菊地結衣、長崎咲弥、諸橋ふう、田中聖愛、大山海波、菊池咲那、金枕依、片山乃愛、馬場朱里、渡辺麗奈

<清水フットボールクラブ女子> 監督:竹澤和子

丸山風奈、松川桃萌、山崎香奈、斎藤鈴那、鍋田芽依、上杉希、大久保星来、望月杏理、田中莉緒、荒砂幸永、篠原優和、木下巡、杉村珠李、高野貴愛、柴田ありさ、石川玲伊奈、中澤美咲、望月暖明、名波歩優、勝田妃奈、大村心萌、中村優杏、松永夕菜、杉山亞夢留、八木もこ、高木咲空、大塚遥、村上花、鈴木穂乃香、山本いのり

<FC刈谷 al-futuro レディース U18> 監督:吉田光範

大見香遙、山吹美琴、林キララ、前多衣良華、元土肥妙子、石川真菜、川崎陽彩、長倉琴音、青木里依、石原向日葵、加藤三奈、植尾友南、杉浦天、合田蒼彩、藤森愛鈴、川崎紗和子、塙本優菜、古澤一芭、蒲池野乃、松本陽向、村井祐乃、北川結月、ヒラサカ ニコレ、杉本妃菜多、近藤舞、杉浦風音、宮城珠瑚、秋月千奈、浦木花梨、安江咲恵

<セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18> 監督:日高欣弘

名和咲香、天野衣千花、関口明日香、原田菜央、倉田紗菜、西藍花、吉田疏衣、楠さやみ、牧口優花、酒本玖波、寺田莉紗、竹田葵、安田実愛、西村絵衣瑠、四本帆夏、林祐未、丸井優奈、中田昌那、木下日菜子、山崎由莉、牧之瀬歩、飯田聖瑠、中村心乃葉、下高莉咲、玉村海乃、平田姫彩、古田麻子、林優明、田村胡桃、池田柚葉

準決勝

ノジマステラ

神奈川相模原ドゥーエ 3 [前半1-2 後半2-2] 4 ヤンマーガールズ U-18

●2024年1月6日 13:31 ●J-GREEN 場 S1 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]柿本麻希 [副審]大堂清香/金測佑亮 [第4の審判員]宮尾駿希 ●観衆:270人

ノジマステラ(監督:緑川浩平):[GK](68)岩崎有波 [DF](2)久山紗季(13)木村菜々夏(35)明詩音梨(56)清水和楽<→61'(11)鈴木麻白→85'(33)青山千晴>(57)中嶋琉七<→40'(60)木竜有姫> [MF](19)笹井優愛(43)中原愛麻<→72'(29)市川未悠>(46)高橋姫花(55)小高夢 [FW](7)柴田瞳

控え:(16)濱谷栄奈(49)大野夏歩(52)阪田明日香

C大阪(監督:日高欣弘):[GK](41)名和咲香 [DF](33)吉田疏衣(34)楠さやみ(43)牧口優花(50)竹田葵 [MF](30)丸井優奈(32)中田昌那(38)木下日菜子<→72'(57)田村胡桃>(53)飯田聖瑠(54)中村心乃葉 [FW](40)古田麻子

控え:(51)天野衣千花(52)牧之瀬歩(55)安田実愛(56)西村絵衣瑠(58)池田柚葉(59)四本帆夏

得点: [ノジマステラ]17'、52'小高夢(1-0)(2-2)、73'市川未悠(3-3) [C大阪]30'古田麻子(1-1)、36'中村心乃葉(1-2)、54'丸井優奈(2-3)、76'牧口優花(3-4)

決勝

日テレ・東京ヴェルディ 0 [前半0-1 後半0-0] 1 メニーナ

セレッソ大阪 ヤンマーガールズ U-18

●2024年1月8日 11:00 ●J-GREEN 場 S1 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]大村琴美 [副審]大堂清香/大村美詞 [第4の審判員]柿本麻希 ●観衆:400人

日テレ(監督:坂口佳祐):[GK](1)ウルフ ジェシカ結吏 [DF](2)北島景子(3)青木夕菜(5)松岡瑛茉(12)鈴木温子 [MF](8)須長穂乃果(10)眞城美春(11)松永未夢(15)式田和(20)伊藤風葵 [FW](19)武内明香里<→72'(25)米倉和心>

控え:(16)林心春(7)栗田七海(18)今ゆうり(22)永井愛理(27)友利愛紗(28)奥住心音

C大阪(監督:日高欣弘):[GK](41)名和咲香 [DF](33)吉田疏衣(34)楠さやみ(43)牧口優花(50)竹田葵 [MF](30)丸井優奈<→84'(58)池田柚葉>(32)中田昌那(38)木下日菜子(53)飯田聖瑠(54)中村心乃葉 [FW](40)古田麻子

控え:(51)天野衣千花(52)牧之瀬歩(55)安田実愛(56)西村絵衣瑠(57)田村胡桃(59)四本帆夏

得点: [C大阪]19'吉田疏衣

<INAC 神戸レオントーナー> 監督:下川正生

花村夕莉、大塚陽和、西本稀彩莉、沖山乃彩、奈須遙、菊川友華、金月夏萌、宍倉由夢、山崎日花、時櫻帆、田中さら、三浦奏里、石田鈴、佐用稀空、中田愛心、森結愛、寺田心春、国本結月、池田春菜、山中珠夏、山脇菜花、三木杏莉、草刈あみ、大田ありす、井上楓音、鶴本眞央、中平怜那、小島爽、衣川杏樹、平七海

<福山ローザスレディース> 監督:川野紗季

西原紗矢、佐野花梨、川崎碧、坂元心美、渡邊優和、中島采音、天川佳音、鬼塚華蓮、藤井陽菜乃、新宅美月、吉本萌生、村上愛結、國森翼、小林莉子、小林未弥、鍵本紗花、竹内杏莉、樺上優芽菜、横山櫻、岡本結愛、烏星涼風、國森樹、田口美羽、大藤明莉、提由衣、横山心彩、吉田真心、坂本凜々、金光咲歩、原田いち乃

<愛媛FCレディース MIKAN > 監督:信谷純平

滴田菜々乃、桧谷春花、山本小百合、菊地陽菜、小林和、永見楓菜、砂川陽彩、三坂莉愛、董松空那、大石優空、米澤和花、村井凜、秋月美宥、西岡楓音、佐々木樹瑠、山下ちろる、岡田遥佳、西本有希、山下ななみ、高須實美空、徳本優里奈、田子夏海、篠崎里緒、舟越瀬、末光彩良、清水爽香、福岡来都

<大分トリニータ レディース> 監督:松本和也

衛藤七海、後藤麻希、秋月来望、本田麗奈、花宮うの、大下紗也奈、川本心莖、中溝桃、切封心花、平山迪、首藤聰春、東美月、宮川咲輝、今村咲羽、宝珠咲羽、上野仁胡、榮森結菜、奈木野紋羽、有田凪、吉村菜花、今皇かえで、加藤樹里愛、村上叶恋、西田愛奈、堀菜々美、村上凜果、小田唯夏、竹本徳愛、楠舞衣、木村優月

<日置シガルズFC > 監督:時吉祐一郎

東加菜心、濱寄夏帆、大久保月絃、重信捺、吉田楓、楠彩由菜、辻明唯、三薗葵、宮崎月望、脇添日向、西百々花、新屋敷陽和、佐々木千嘉、尾辻莉奈、上紅愛、上野りん、柳田夢乃、渕上咲季、有薗悠羽、下灌はのん、篠原茜、川野遼陽、浦田美織、野田朱花、小橋口愛、下玉利ゆらら、野村ア希、久保由彩子、原田来夢、有馬ひより

<FC琉球 casa ale > 監督:塩川健勇

與古田ルナ、新垣友唯、上原疏乃、喜多苗海、山本実桜、矢島七海、仲村芽衣紗、小林紗和子、當銘美利愛、新井藍、上原野琴、我如古美蘿、金城杏菜、塙川心琴、新里ひより、山田結月、諸見ゆりあ、宮城瑞蘭、新里ひなた、池原芽、平安座りま、松尾瑚々、フォーカナー アデーラ七美、新城颯花、佐久田ないび、山城七海、平安座よ

JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、2023年度にJFAのフットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った15歳未満（ただし、中学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない）の選手により構成されたチームで、当該チームに登録された選手に出場資格が与えられた。今大会は、1月6日～8日に栃木県の日環アリーナ栃木で開催され、16チームが出場した。

※大会レポートは73ページに掲載

■1次ラウンド

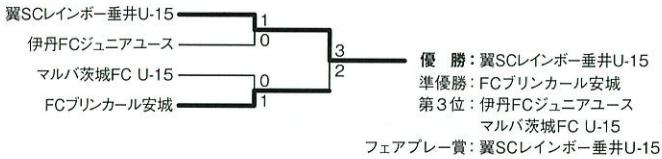
順位	グループA	翼	ヴィラノーバ	日光	リヴェント	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	翼SCレインボーゼ井U-15(東海2/岐阜)		9○2	5○1	5○1	9	3	0	0	19	4	15
2	ヴィラノーバ水俣(九州1/熊本)	2●9		1△1	4○0	4	1	1	1	7	10	-3
3	日光SCジング(開催地/栃木)	1●5	1△1		2○1	4	1	1	1	4	7	-3
4	FCリヴェント(四国1/愛媛)	1●5	0●4	1●2		0	0	0	3	2	11	-9

順位	グループC	マルバ	セレソ	Jフィールド	多賀	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	マルバ茨城FC U-15(関東1/茨城)		3○0	4○1	7○1	9	3	0	0	14	2	12
2	セレソ都城FC(九州2/宮崎)	0●3		3○0	4○0	6	2	0	1	7	3	4
3	Jフィールド岡山 F.C.(中国/岡山)	1●4	0●3		4○3	3	1	0	2	5	10	-5
4	FC多賀レッドスター U-15(東北/青森)	1●7	0●4	3●4		0	0	0	3	4	15	-11

順位	グループB	伊丹	札幌大谷	フウガドール	ヴィエント	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	伊丹FCジュニアユース(関西/兵庫)		2○1	5○3	5○2	9	3	0	0	12	6	6
2	札幌大谷中学校(北海道1)	1●2		3○2	2○1	6	2	0	1	6	5	1
3	フウガドールすみだウイングス(関東2/東京)	3●5	2●3		2△2	1	0	1	2	7	10	-3
4	ヴィエントU-15(北信越2/富山)	2●5	1●2	2△2		1	0	1	2	5	9	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



優勝:翼SCレインボーゼ井U-15

準優勝:FCプリンカール安城

第3位:伊丹FCジュニアユース

マルバ茨城FC U-15

フェアプレー賞:翼SCレインボーゼ井U-15

準決勝

翼SCレインボーゼ井U-15	1	(第1ビリオド0-0)	0	伊丹FCジュニアユース
		(第2ビリオド1-0)		

●2024年1月8日 11:00 ●日環アリーナ栃木 ピッチA ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]大塚康太 [第2審判]岩見祐吾 [第3審判]斎藤香菜 [タイムキーパー]原田豊久 ●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
高田時歩輝	○	1	GK	FP	3	△	林秀
杉田圭祐	△	3	FP	FP	4		西小野渉音
片山心温	5	FP	FP	5	○		原達輝
川地晃陽	△	6	FP	FP	6		松浦寛太
伊藤真白	○	7	FP	FP	7	△	加藤航大
川上尚馬	○	8	FP	FP	9	○	松岡昂汰
三輪凱輝	○	9	FP	FP	10	○	中間溪太
田中優成	○	10	FP	FP	11	○	坂東航
近沢宗祐	△	12	FP	FP	12		木下響
水谷州登	△	13	FP	FP	14	△	宮城隆之介
牧野快星	14	FP	FP	16			加藤遼馬
			FP	17			麻田叶翔
			FP	19			黒田麗雄
			GK	20	○		細見奏太
駿河雅真			コーチ				江藤正博

得点: [レインボーゼ井] 20' 川上尚馬(1-0)

○:先発、△:交代出場

準決勝

マルバ茨城FC U-15	0	(第1ビリオド0-0)	1	FCプリンカール安城
		(第2ビリオド0-1)		

●2024年1月8日 11:00 ●日環アリーナ栃木 ピッチB ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]今崎横胡 [第2審判]柿本一真 [第3審判]伊藤彰彦 [タイムキーパー]滝沢玲弥 ●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
宇田川颯汰	○	1	GK	FP	70		荒川誠太郎
斎藤健吾	△	2	FP	FP	72	○	伊藤奏風
須釜朱王	○	3	FP	FP	74		大槻将己
政所紀匡	4	FP	FP	75			大脇禪
小林環	○	6	FP	FP	78		坂部大翼
石川泰雅	△	7	FP	FP	80		鈴木天満
小泉洋晴	○	8	FP	FP	81		鈴木朋樹
物井慈元	○	10	FP	FP	82		鈴木春向
白木幹太	12	GK	FP	FP	84		田川翼
林譽介	14	FP	FP	88			西原駿
綿引陸斗	15	FP	FP	89	○		長谷川悠
川上鈴旺	△	17	FP	FP	90	○	穂積春之祐
黒澤夏生	19	FP	FP	91	○		万福唯翔
朝日雅陽	△	20	FP	GK	92	○	山田仁
緑川毅輝							古居俊平

得点: [プリンカール安城] 30' 伊藤奏風(1-0)

警告: [マルバ茨城] 24' 物井慈元

○:先発、△:交代出場

決勝

翼SCレインボーゼ井U-15	3	(第1ビリオド1-1)	2	FCプリンカール安城
		(第2ビリオド2-1)		

●2024年1月8日 14:15 ●日環アリーナ栃木 ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]川村勝治 [第2審判]斎藤香菜 [第3審判]原田豊久 [タイムキーパー]滝沢玲弥 ●観衆:100人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
高田時歩輝	○	1	GK	FP	70		荒川誠太郎
杉田圭祐	3	FP	FP	72	○		伊藤奏風
片山心温	5	FP	FP	74			大槻将己
川地晃陽	6	FP	FP	75			大脇禪
伊藤真白	○	7	FP	FP	78		坂部大翼
川上尚馬	○	8	FP	FP	80		鈴木天満
三輪凱輝	○	9	FP	FP	81		鈴木朋樹
田中優成	○	10	FP	FP	82		鈴木春向
近沢宗祐	12	FP	FP	84			田川翼
水谷州登	△	13	FP	FP	88	△	西原駿
牧野快星	14	FP	FP	89	○		長谷川悠
			FP	90	○		穂積春之祐
			FP	91	○		万福唯翔
			GK	92	○		山田仁
駿河雅真			コーチ				古居俊平

得点: [レインボーゼ井] 3'、20' 伊藤真白(1-0) (2-1)、30' 三輪凱輝(3-2)
[プリンカール安城] 4'、21' 伊藤奏風(1-1) (2-2)

○:先発、△:交代出場

<長岡JYFC> 監督:田代寛明

増田悠生、氣田寛大、関塗翔、郷理人、小島悠衣人、田代蓮翔、野口琉律、角南治郎、鳥羽ひかる、小柳來大、安藤仁成、小師宗大、南雲修瑠、井上怜乃、民部優心

<ヴィエントU-15> 監督:栗山政和

坂井瑞基、浅野悠斗、野口稟太、奥村仁、水口慧人、牧野亮太、長谷川力丸、吉田慶竜、大友達

<FCプリンカール安城> 監督:古居俊平

山田仁、荒川誠太郎、井内駿太、伊藤泰風、宇佐亮哉、大槻将己、大脇禎、尾崎大晟、尾崎龍夢、坂部大翼、鈴木天満、鈴木朋樹、鈴木春向、高本康矢、田川翼、都甲恵汰、西原駿、長谷川悠、穂積春之祐、万福唯翔

<翼SCレインボーベンチU-15> 監督:伊藤隆文

高田時歩輝、安藤悠丞、杉田圭祐、片山心温、川地晃陽、伊藤真白、川上尚馬、三輪凱輝、田中優成、近沢宗祐、水谷州登、牧野快星

<伊丹FCジュニアユース> 監督:江藤正博

大久保貴真、細見奏太、成田智哉、林秀、西小野渕音、原遼輝、松浦寛太、加藤航大、中山大輝、松岡昂汰、中間渓太、坂東航、木下響、大藪宗介、宮城隆之介、薦谷勇作、加藤遼馬、麻田叶翔、東薫介、黒田麗雄

<Jフィールド岡山F.C.> 監督:宮下俊

藤岡宏彰、鳥越疏哉、齊藤叶夢、富山拓夢、森田輝輝、金沢寛太、細川斗暉、片山彬良、水嶋滉、本村悠斗、川村良世、今田智己、鶴海綾大、稻葉竜希、石井瑛登、池田陽音

<FCリヴェント> 監督:池内龍志

皆川翔空、伊藤陽人、中矢淳士、佐々木暖真、水野蒼士、武智偉正、渡辺悠馬、水田勇織、平陸斗、本多麻人、渡部里空、植木佑介

<高知中学校> 監督:森本稔

森心、森逞、大山蒼士郎、栗本愛司、安岡佑真、笹岡翔、岸田拓己、田村潤平、岡村唯叶、山崎智太、佐野楓心、福本俊、西村圭太

<ヴィラーバ水俣> 監督:鉢田晃平

坂本広宣、立村元気、徳田陽輝、川原太一、續山陽彌、寒川椋仁、義田凌大、秋山朝陽、増田陽向、久松楓、久保田蓮、井上旭、増田遼陽、山内日々人、井本秀季、境目楓、福本将人

<セレソン都城FC> 監督:中山新吾

濱田兼伍、金丸智、大庭篤太郎、南太空廊、磯邊昊、別府紅明、金川龍人、荒川駿人、渡瀬藍人、久野武、財部遙輝、椿井輝海、岩元航希、早瀬薫、池島旺星、甲斐蒼斗、原田優志、宮前創翔、尾辻月輝、金川羽琥人

<日光SCジンガ> 監督:水野暁彦

白石莉大、齊藤翼大、上島桃耶、手塚謙太、青木悠咲、石下瑛斗、福田遼輝、高橋駿斗、多田悠真、小太刀慶佑、角田頼希、鈴木愛琉、上島煌成、神山揮翔、小井土颯希

JFA 第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、2023年度にJFAのフットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った15歳未満（ただし、中学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない）の女子選手により構成されたチームで、当該チームに登録された選手に出場資格が与えられた。今大会は、1月7日～8日に栃木県の日環アリーナ栃木で開催され、9チームが出場した。

※大会レポートは74ページに掲載

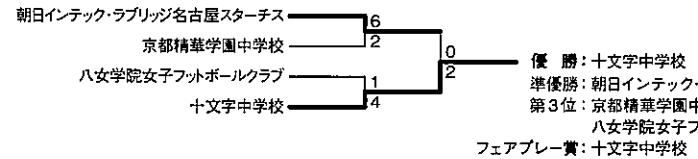
■1次ラウンド

順位	グループA	朝日インテック	十文字中	フライア	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス(東海／愛知)	0△0	4○2	4	1	1	0	4	2	2	2
2	十文字中学校(関東／東京)	0△0	1○0	4	1	1	0	1	0	1	3
3	フライアFCウェネス(中国／岡山)	2●4	0●1	0	0	0	2	2	5	5	-3

順位	グループC	八女学院	リンダ	ラオフェン	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	八女学院女子フットボールクラブ(九州／福岡)	2○1	2○1	6	2	0	0	4	2	2	2
2	クラブフィールズ・リンダ(北海道)	1●2	6○0	3	1	0	1	7	2	5	5
3	ラオフェン(北信越／富山)	1●2	0●6	0	0	0	2	1	8	7	-1

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



準決勝

朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス	6	(第1ビリオド1-0 第2ビリオド5-2)	2	京都精華学園中学校
-----------------------	---	--------------------------	---	-----------

●2024年1月8日 9:30 ●日環アリーナ栃木 ピッチA ●試合時間:24分 ●審判員: [主審] 豊田静香 [第2審判] 木村未来 [第3審判] 外館美穂 [タイムキーパー] 川守田美咲 ●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
栗田若菜	○	41	GK	GK	1	○	神田瑠伽
中留駿美	△	42	FP	FP	3	○	田口玲音愛
玉井那奈	○	44	FP	FP	4	△	井口優奈
杉原希季	△	45	FP	FP	5	△	辻横羽菜
伊藤琴葉	○	46	FP	FP	6	○	米田衣織
松田夏芽	△	47	FP	FP	7	△	金川葵
永谷このは	○	48	FP	FP	8	○	松田実永
岩原凜果	△	49	FP	FP	9	△	大家梨緒
村松亜胡	△	50	FP	FP	10	△	山本祐加
佐竹結愛	○	51	FP	FP	11	○	三瀬圭音
南口実咲	△	52	FP	GK	12	△	林香利奈
長谷川碧衣	△	53	FP	FP	15	△	明田怜
森本結羽	△	54	FP	FP	16	△	谷玲央梨
			FP	FP	19	△	伊坪優依
江後賢一			監督	監督			木下正裕

[ラブリッジ名古屋]2'、18' 永谷このは(1-0)(3-0)、13' 伊藤琴葉(2-0)、19'、20' 松田夏芽(4-2)(5-2)、22' 玉井那奈(6-2)

[京都精華学園中]19' 伊坪優依(3-1)、19' 辻横羽菜(3-2)

警告 [京都精華学園中]4' 米田衣織

○:先発、△:交代出場

準決勝

八女学院女子 フットボールクラブ	1	(第1ビリオド0-2 第2ビリオド1-2)	4
---------------------	---	--------------------------	---

●2024年1月8日 9:30 ●日環アリーナ栃木 ピッチB ●試合時間:24分 ●審判員: [主審] 金沢しづく [第2審判] 神野亮 [第3審判] 荒木裕里香 [タイムキーパー] 中田悠人 ●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
小森麻絵	○	1	GK	GK	1	○	丹羽なるみ
森田桜心	△	3	FP	FP	2	△	杉山和奏
鶴田奈々	△	5	FP	FP	4	△	竹本明維
伊東美遥	○	7	FP	FP	6	△	岩瀬真衣
清水ゆづき	○	8	FP	FP	9	△	永井美咲
伊崎有那	○	9	FP	FP	10	△	横田理桜
野口はな	△	10	FP	FP	12	○	根銘花李
柴帆七海	11	FP	FP	13	△	△	大谷優芽
瀧田莉那	○	13	FP	FP	15	○	野尻睦
大谷希望	14	FP	FP	18	○	△	上田璃奈
大久保由奈	16	GK	FP	19	○	△	影山芹奈
牟田梨奈乃	17	FP	FP	31	△	△	細川真緒
			FP	33	△	△	山本理央
			FP	47	○	△	角野心花
樋口貴史			監督				大滝靖

[八女学院]15' 野口はな(1-2)

[十文字中]8'、16'、18' 根銘花李(0-1)(1-3)(1-4)、11' 野尻睦(0-2)

○:先発、△:交代出場



皇后杯
JFA
WOMEN'S
CHAMPIONSHIP

皇后杯

JFA 第45回

記録集

全日本女子サッカー選手権大会

第1部 大会結果一覧 P57

第2部 全試合公式記録 P58

第3部 参加48チーム登録選手 P63

大会概要

趣 旨：日本国内における女子のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図り、広く女子サッカーの普及振興に寄与することを目的とし、中学1年生以上の登録選手を対象とした国内で最も権威のある単独チームの大大会として実施する。

主 催：公益財団法人日本サッカー協会

主 管：一般社団法人宮城県サッカー協会、公益財団法人茨城県サッカー協会、公益社団法人栃木県サッカー協会、公益財団法人埼玉県サッカー協会、一般社団法人福井県サッカー協会、一般財団法人静岡県サッカー協会、一般社団法人三重県サッカー協会、一般社団法人京都府サッカー協会、一般社団法人大阪府サッカー協会、一般社団法人兵庫県サッカー協会、一般財団法人鳥取県サッカー協会、公益財団法人広島県サッカー協会、一般社団法人宮崎県サッカー協会

後 援：朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社
【準決勝】京都府、龜岡市 【決勝】大阪市、大阪市教育委員会

協 賛：JFAオフィシャルトップパートナー：キリンホールディングス株式会社
JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社
JFAコンペティションパートナー：株式会社モルテン、ニチバン株式会社

開 催 日：【1回戦】2023年11月18日(土)、19日(日)
【2回戦】2023年11月25日(土)、26日(日)
【3回戦】2023年12月2日(土)、3日(日)
【4回戦】2023年12月10日(日)
【5回戦】2023年12月16日(土)、17日(日)
【準々決勝】2024年1月14日(日)
【準決勝】2024年1月20日(土)
【決勝】2024年1月27日(土)

会 場：【1回戦】ひたちなか市総合運動公園陸上競技場(茨城県ひたちなか市)、栃木県グリーンスタジアム(栃木県宇都宮市)

【2回戦】セイホクパーク石巻 石巻フットボール場(宮城県石巻市)、藤枝総合運動公園サッカー場(静岡県藤枝市)、上野運動公園競技場(三重県伊賀市)、Axisバードスタジアム(鳥取県鳥取市)

【3回戦】セイホクパーク石巻 石巻フットボール場(宮城県石巻市)、日東シンコースタジアム丸岡サッカー場(福井県坂井市)、三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカーラグビー場・メインG(三重県鈴鹿市)

【4回戦】セイホクパーク石巻 石巻フットボール場(宮城県石巻市)、藤枝総合運動公園サッカー場(静岡県藤枝市)

【5回戦】カンセキスタジアムとちぎ(栃木県宇都宮市)、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉県熊谷市)、兵庫県立三木総合防災公園陸上競技場(兵庫県三木市)、ユニリバスタジアム新富(宮崎県兒湯郡)

【準々決勝】カンセキスタジアムとちぎ(栃木県宇都宮市)、兵庫県立三木総合防災公園陸上競技場(兵庫県三木市)、広島広域公園第一球技場(広島県広島市)

【準決勝】サンガスタジアム by KYOCERA(京都府亀岡市)

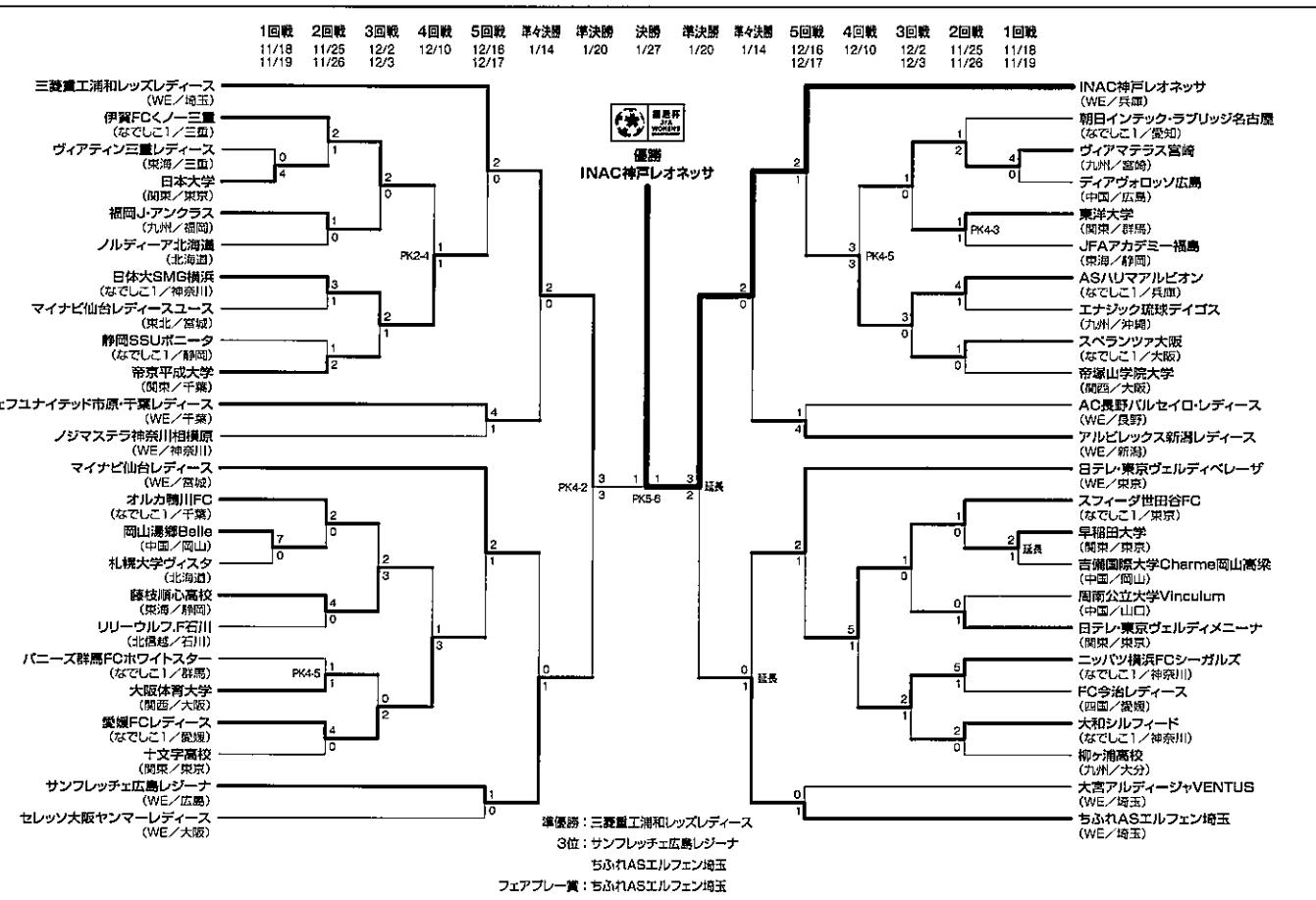
【決勝】ヨドコウ桜スタジアム(大阪府大阪市)

参加チーム：全48チーム

・WEリーグ12チーム、なでしこリーグ1部12チーム

・北海道2チーム、東北1チーム、関東6チーム、北信越1チーム、東海3チーム、関西2チーム、中国4チーム、四国1チーム、九州4チーム

※大会レポートは66~67ページに掲載





第1部 大会結果一覧

■1回戦

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
1	11月19日 11:00	岡山湯郷Belle	7-0 (2-0)	札幌大学ヴィスタ	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場
2	11月18日 11:00	ヴィアマテラス宮崎	4-0 (1-0)	ディアヴォロッソ広島	栃木県グリーンスタジアム
3	11月19日 14:00	ヴィアティン三重レディース	0-4 (0-1)	日本大学	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場
4	11月18日 14:00	早稲田大学	2-1 (1-1, 0-0, 0-0) 延長	吉備国際大学Charme岡山高梁	栃木県グリーンスタジアム
					71

■2回戦

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
5	11月26日 14:00	オルカ鶴川FC	2-0 (2-0)	岡山湯郷Belle	Axisバードスタジアム
6	11月26日 14:00	藤枝順心高校	4-0 (1-0)	リリーウルフF石川	藤枝総合運動公園サッカー場
7	11月25日 10:30	パニーズ群馬FCホワイトスター	1-1 (1-0, 0-1, 0-0) PK4-5	大阪体育大学	上野運動公園競技場
8	11月26日 10:30	愛媛FCレディース	4-0 (4-0)	十文字高校	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
9	11月26日 10:31	朝日インテック・ラブリッジ名古屋	1-2 (0-2)	ヴィアマテラス宮崎	上野運動公園競技場
10	11月25日 11:00	東洋大学	1-1 (0-0, 1-1, 0-0) PK4-3	JFAアカデミー福島	藤枝総合運動公園サッカー場
11	11月26日 11:00	ASハリマアルビオン	4-1 (3-0)	エナジック琉球ティゴス	藤枝総合運動公園サッカー場
12	11月25日 14:05	スペランツァ大阪	1-0 (0-0)	帝塚山学院大学	上野運動公園競技場
13	11月26日 13:30	伊賀FCクノーニー三重	2-1 (1-1)	日本大学	上野運動公園競技場
14	11月25日 10:30	福岡J・アンクラス	1-0 (1-0)	ノルディア北海道	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
15	11月26日 13:30	日体大SMG横浜	3-1 (2-1)	マイナビ仙台レディースユース	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
16	11月25日 14:25	静岡SSUボニータ	1-2 (0-0)	帝京平成大学	藤枝総合運動公園サッカー場
17	11月25日 14:00	スフィーダ世田谷FC	1-0 (0-0)	早稲田大学	Axisバードスタジアム
18	11月26日 11:00	周南公立大学Vinculum	0-1 (0-1)	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	Axisバードスタジアム
19	11月25日 13:30	ニッパツ横浜FCシーガルズ	5-1 (1-1)	FC今治レディース	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
20	11月25日 11:01	大和シリフィード	2-0 (1-0)	柳ヶ浦高校	Axisバードスタジアム
					42

■3回戦

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
21	12月2日 13:30	オルカ鶴川FC	2-3 (1-2)	藤枝順心高校	日東シンコースタジアム丸岡サッカー場
22	12月2日 10:30	大阪体育大学	0-2 (0-1)	愛媛FCレディース	日東シンコースタジアム丸岡サッカー場
23	12月3日 13:30	ヴィアマテラス宮崎	1-0 (0-0)	東洋大学	日東シンコースタジアム丸岡サッカー場
24	12月3日 11:00	ASハリマアルビオン	3-0 (1-0)	スペランツァ大阪	三重交通スポーツの社鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG
25	12月3日 14:00	伊賀FCクノーニー三重	2-0 (0-0)	福岡J・アンクラス	三重交通Gスポーツの社鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG
26	12月3日 13:30	日体大SMG横浜	2-1 (1-0)	帝京平成大学	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
27	12月3日 10:30	スフィーダ世田谷FC	1-0 (1-0)	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
28	12月3日 10:30	ニッパツ横浜FCシーガルズ	2-1 (1-1)	大和シリフィード	日東シンコースタジアム丸岡サッカー場
					76

■4回戦

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
29	12月10日 10:30	藤枝順心高校	1-3 (0-1)	愛媛FCレディース	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
30	12月10日 14:00	ヴィアマテラス宮崎	3-3 (2-1, 0-1, 0-1) PK4-5	ASハリマアルビオン	藤枝総合運動公園サッカー場
31	12月10日 13:30	伊賀FCクノーニー三重	1-1 (1-0, 0-1, 0-0) PK2-4	日体大SMG横浜	セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
32	12月10日 11:00	スフィーダ世田谷FC	5-1 (4-0)	ニッパツ横浜FCシーガルズ	藤枝総合運動公園サッカー場
					290

■5回戦

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
33	12月16日 14:00	三菱重工浦和レッズレディース	2-0 (1-0)	日体大SMG横浜	カンセキスタジアムとちぎ
34	12月17日 13:00	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	4-1 (2-1)	ノジマステラ神奈川相模原	ユニリーバスタジアム新富
35	12月17日 11:00	マイナビ仙台レディース	2-1 (0-0)	愛媛FCレディース	カンセキスタジアムとちぎ
36	12月16日 11:00	サンフレッチェ広島レジーナ	1-0 (0-0)	セレッソ大阪ヤンマーレディース	カンセキスタジアムとちぎ
37	12月17日 14:00	INAC神戸レオネッサ	2-1 (1-0)	ASハリマアルビオン	兵庫県立三木総合防災公園陸上競技場
38	12月17日 11:00	AC長野パルセイロ・レディース	1-4 (1-3)	アルビレックス新潟レディース	兵庫県立三木総合防災公園陸上競技場
39	12月17日 14:00	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	2-1 (0-0)	スフィーダ世田谷FC	カンセキスタジアムとちぎ
40	12月17日 13:00	大宮アルディージャVENTUS	0-1 (0-1)	ちふれASエルフェン埼玉	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
					2,028

準々決勝

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
41	1月14日 14:30	三菱重工浦和レッズレディース	2-0 (1-0)	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	カンセキスタジアムとちぎ
42	1月14日 13:00	マイナビ仙台レディース	0-1 (0-1)	サンフレッチェ広島レジーナ	広島県立公園 第一球技場
43	1月14日 13:00	INAC神戸レオネッサ	2-0 (1-0)	アルビレックス新潟レディース	兵庫県立三木総合防災公園陸上競技場
44	1月14日 11:00	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	0-1 (0-0, 0-0, 0-1) 延長	ちふれASエルフェン埼玉	カンセキスタジアムとちぎ
					1,038

準決勝

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
45	1月20日 11:03	INAC神戸レオネッサ	3-2 (1-0, 1-2, 0-0) 延長	ちふれASエルフェン埼玉	サンガスタジアム by KYOCERA
46	1月20日 14:20	三菱重工浦和レッズレディース	3-3 (2-1, 0-1, 0-1) PK4-2	サンフレッチェ広島レジーナ	サンガスタジアム by KYOCERA

決勝

No.	日時	対戦	得点	会場	観衆(人)
47	1月27日 13:07	三菱重工浦和レッズレディース	1-1 (1-0, 0-1, 0-0) PK5-6	INAC神戸レオネッサ	ヨドコウ桜スタジアム

16| 2回戦
静岡SSUボニータ
帝京平成大学
1 [前半0-0 後半1-2] 2

●2023年11月25日 14:25 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]岩本聰花【副審】西野崇/村上広樹【第4の審判員】山梨尚哉 ●マッチコミッショナー:山本好彦 ●観衆:223人

[GK] 1 高橋美春	[GK] 1 阿部ほのか
[DF] 3 彦坂桃花	[DF] 47 鈴木薫
[DF] 4 堀澤優	[DF] 38 錦谷天
[DF] 6 山田優衣	退 [DF] 7 渡邊那奈
→ 88'(7)中川湖々	→ 78'(24)太田絞音
[MF] 11 三輪涼奈	手 [DF] 28 須藤美羽
[MF] 13 金丸紗子	[MF] 4 浅野絞花
→ 78'(16)小池真理	[MF] 8 江崎世来
[MF] 14 日野李保	[MF] 11 小原蘭菜
[MF] 23 服部花音	→ 78'(17)北川心子
→ 59'(3)林知奈	[MF] 10 古賀花野
[FW] 9 土屋佑季	[MF] 50 佐藤千優
→ 59'(2)渡辺彩香	[FW] 23 山田瑞穂
[FW] 22 山本心	→ 64'(5)吉岡こころ
[FW] 28 梅津真央	
7'1金丸紗子(1-2)	得点 47'山田瑞穂(0-1)、68'佐藤千優(0-2)
85'日野李保	警告 42'鈴木薫

13| 2回戦
伊賀FCくーー三重
日本大学
2 [前半1-1 後半1-0] 1

●2023年11月26日 13:30 ●上野運動公園競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]國師えりな【副審】水谷幸平/小崎一心【第4の審判員】平野達也 ●マッチコミッショナー:小花浩司 ●観衆:220人

[GK] 16 後藤優香	[GK] 1 山田桜音
[DF] 4 西林里恵	[DF] 4 チエ・ヨウオン
[DF] 13 宮迫たまみ	場 → 67'(29)大光望結
[DF] 3 楽美結	退 [DF] 5 光田知世
[DF] 23 坂元茉那	[DF] 3 金澤祐希
[MF] 6 常田麻友	手 [DF] 25 滝沢美結
→ 90'(25)小林綺那	[MF] 14 久保華恩
[MF] 8 下條彩	[MF] 7 牧野美優
[MF] 17 藤田桃加	[MF] 8 片山咲乃
→ HT(20)竹島加奈子	→ 67'(31)太田千満
[MF] 9 村上日奈子	[MF] 11 藤原愛里
→ 81'(7)渡辺凜	[FW] 9 渡辺莉沙子
[FW] 10 森内美	[FW] 10 小林結菜
28'常田麻友(1-1)、51'楽美結	[FW] 2 西川明花
(2-1)	16'久保華恩(0-1)
28'常田麻友(1-1)、51'楽美結	得点 16'久保華恩(0-1)
(2-1)	警告 27'牧野美優、64'金澤祐希

10| 2回戦
東洋大学
JFAアカデミー福島
1 [前半0-0 後半1-1] 1
PK4-3

●2023年11月25日 11:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分、延長30分、PK ●[主審]田嶋うらら【副審】山下真佑/伴野弘大【第4の審判員】若ヶ谷康介 ●マッチコミッショナー:岩見充治 ●観衆:179人

[GK] 1 中村未有	[GK] 1 鹿島彩莉
[DF] 2 落合依和	[DF] 6 棚口紗花
[DF] 35 鈴木京響	[DF] 3 古賀塔子
[DF] 5 旗生菜摘	[DF] 4 木名野桃喜
[DF] 19 長尾ののか	選 [DF] 2 金城瑞那
[MF] 16 稲山美優	[MF] 14 柳愛花
[MF] 7 北村美羽	[MF] 10 谷川萌々子
[MF] 8 野口珠里	[MF] 8 木村未来
[MF] 11 宮本妃菜里	→ 73'(17)松浦望花
[FW] 2 小林リタ子	[MF] 28 花城唯唯
→ 77'(33)田中結衣	→ 51'(31)野田芙多葉
[FW] 14 村岡由梨	→ 107'(13)旭田好里
→ 延前前(26)山崎綾乃	[MF] 11 板村真央
[FW] 22 山崎綾乃	[FW] 15 原ひばり
67'宮本妃菜里(1-0)	→ HT(25)福島望愛
得点 78'谷川萌々子(1-1)	
[先] 20○、3○、33○、11○、7X PK 10○、6○、4○、11X、3X	

17| 2回戦
スフィーダ世田谷FC
早稲田大学
1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2023年11月25日 14:00 ●Axisバースタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]廣田奈美【副審】加藤恭子/山中達郎【第4の審判員】船澤祐 ●マッチコミッショナー:北村卓治 ●観衆:97人

[GK] 1 石野妃芽佳	[GK] 16 丸山翔子
[DF] 2 根本恵夏	出 [DF] 2 夏目歩実
[DF] 5 渡辺瑞稀	[DF] 3 後藤若菜
[DF] 3 片桐美羽	[DF] 5 田頭花菜
[DF] 13 舟富祐歌	退 [MF] 9 三谷和華奈
[MF] 6 金子ゆい	手 [MF] 30 大山愛笑
[MF] 16 田口茉亜紗	[MF] 10 築地育
[MF] 8 三本紗矢香	[MF] 6 浦部美月
[MF] 11 長崎茜	[FW] 8 白井美羽
[FW] 9 新垣華波	[FW] 28 岩岡由理
[FW] 10 大竹麻友	→ 64'(26)千葉梨々花
47'渡辺瑞稀(1-0)	[FW] 7 笠原綺乃
85'田口茉亜紗	得点
85'田口茉亜紗	警告

14| 2回戦
福岡J・アンクラス
ノルディーア北海道
1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2023年11月25日 10:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]福葉里美【副審】田中真輝/関川伽音【第4の審判員】大内拓実 ●マッチコミッショナー:倉田泰明 ●観衆:50人

[GK] 1 朝山美帆	[GK] 16 瀬田法味
[DF] 3 陵山真子	出 [DF] 6 安達沙織
[DF] 18 平坂咲希	[DF] 23 久保菜桜
[DF] 4 合成暉	[DF] 13 丸形梨恵
[MF] 20 原日揮	選 [MF] 15 大沼萌百葉
→ 66'(25)相浦幸桜	[MF] 15 橋本恵里
[MF] 23 野田夏未	[MF] 7 大沼寿々歩
[MF] 8 藤原由美	[MF] 25 市原彩良
[MF] 6 浮田詩音	→ 58'(9)樋脇花
[FW] 22 高橋萌々香	[MF] 19 宇野麗依
→ 78'(16)上村美月	→ 58'(27)松浦あさひ
[FW] 24 平良文果	[FW] 11 鈴木麻理菜
[FW] 14 柳田詩織	[FW] 8 鈴木瑠菜
41'原日揮(1-0)	得点
41'原日揮(1-0)	警告 17'宇野麗依

11| 2回戦
ASハリマアルビオン
エナジック琉球デイゴス
4 [前半3-0 後半1-1] 1

●2023年11月26日 11:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]演崎栄美【副審】鈴木隆太/松本紹太【第4の審判員】坂本優 ●マッチコミッショナー:原田一豊 ●観衆:122人

[GK] 1 竹下奏彩	[GK] 21 リャオ・ウェンチー
[DF] 19 斎藤和	出 [DF] 18 金城愛理
[DF] 5 小島美玖	[DF] 5 田中佑奈
[DF] 15 国生乃愛	選 [DF] 20 国分遥香
[DF] 4 片山中澤	→ HT(2)山里あります
[MF] 28 谷島利実	手 [DF] 7 鹿島楓
→ HT(11)山岸夢歩	[MF] 10 山城見友希
[MF] 8 武田裕季	[MF] 8 國吉真梨子
→ 61'(27)川上然	→ 70'(14)宮崎莉奈
[MF] 14 正野可菜子	[MF] 13 新井愛海
→ HT(18)中野リ乃	→ HT(15)牧山麗菜
[MF] 17 喜馬史奈	[MF] 4 坂入萌々子
→ 61'(26)鈴原安佑	[FW] 16 宇津木陽奈
[MF] 9 内田美鈴	[FW] 17 霧香織
→ 74'(2)杉田めい	→ 54'(24)富澤藍那
[FW] 20 鹿井七奈	
2'40'内田美鈴(1-0) (3-0)、得点 77'坂入萌々子(3-1)	
38'89'鹿井七奈(2-0) (4-1)	
84'川上然	警告 21'國分遥香、60'牧山麗菜

12| 2回戦
スペランツア大阪
帝塚山学院大学
1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2023年11月25日 14:05 ●上野運動公園競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]吉永真紀【副審】水谷幸平/平野達也【第4の審判員】森田正強 ●マッチコミッショナー:牧弘和 ●観衆:177人

[GK] 31 井上加菜美	[GK] 38 流川桐佳
[DF] 3 上西可奈子	出 [DF] 25 速見咲希
[DF] 4 宮地明日翔	場 → 84'(5)浅見汐音
[DF] 14 小籠桃華	選 [DF] 56 川上七奏
[DF] 2 横田彩乃	手 [DF] 4 谷口涼
[DF] 22 煙中美友香	[MF] 42 小嶋瑞夏
[MF] 17 森文佳	→ 80'(20)宮本春花
[MF] 8 渡部麗	[MF] 30 中丸美令
[MF] 5 久松世名	[MF] 41 尾山由帆
[MF] 3 知久奈菜穂	[MF] 24 中野真奈美
→ 88'(28)森澤和心	[MF] 34 加藤月唯
[MF] 10 森田美紗希	[MF] 6 佐藤にいな
[MF] 11 金子麻優	[MF] 15 渋坂真櫻
→ 61'(14)窓岩日菜	→ HT(22)井ノ瀬玲緒奈
[FW] 40 季雅	[MF] 8 渡部心
→ 82'(6)田村かのん	[MF] 11 菊地花奈
[FW] 15 北沢明未	→ 90'+1(4)長阿みなみ
→ 65'(15)油布亞優美	→ 82'(17)三谷春乃
得点 8'青木夕菜(0-1)	
16'金子麻優(1-1)、36'北沢明未	得点 15'津田愛乃音(0-1)
未(2-1)、68'渡部麗(3-1)	

皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会 記録集

第2部 全試合公式記録

25 | 3回戦

伊賀FCくノ一三重

福岡J・アンクラス

2 [前半0-0 後半2-0] 0

●2023年12月3日 14:00 ●三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG ●試合時間:90分 ●[主審]佐々木陽美[副審]國師えりな/深谷聰一[第4の審判員]田中健太 ●マッチコミッショナー:谷口宏之 ●観衆:254人

[GK] 16 後藤優香	出	[GK] 1 朝山美帆
[DF] 4 西林里恵	入	[DF] 4 成合瞳
[DF] 13 宮迫たまみ	場	[DF] 2 和田莉愛
[DF] 3 泰美結	選	[DF] 18 平坂咲希
[DF] 23 坂元栄那	手	[DF] 3 藤山眞子
[MF] 6 常田麻友		[MF] 23 野田夏未
[MF] 8 下條彩		[MF] 8 藤亜由美
[MF] 17 藤田桃加		[MF] 6 浮田琴音
→ 71'(20)竹島加奈子		[FW] 16 上村美月
9' 村上日奈子		→ HT(22)高橋萌々香
→ 90'(14)原田結奈		[FW] 25 相浦幸桜
[FW] 10 森仁美		→ 67'(24)平良文果
→ 90'(7)渡邊凜		[FW] 14 柳詩織
[FW] 2 西川明花		
→ 81'(11)小川志保		
56'常田麻友(1-0)、80'村上日奈子(2-0)	得点	

56'常田麻友(1-0)、80'村上日奈子(2-0)

得点

26 | 3回戦

日体大SMG横浜

帝京平成大学

2 [前半1-0 後半1-1] 1

●2023年12月3日 13:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
●試合時間:90分 ●[主審]吉田瑞希[副審]吉永真紀/山崎真菜[第4の審判員]新田琢人 ●マッチコミッショナー:北郷光宏 ●観衆:43人

[GK] 12 西川佳那	出	[GK] 1 阿部ほのか
[DF] 7 高原天音	入	[DF] 47 鈴木草
[DF] 4 朝倉加奈子	場	[DF] 23 山田瑞穂
[DF] 17 森文佳	選	[DF] 7 渡邊那奈
[DF] 3 知久奈菜穂	手	[DF] 28 須藤美羽
[MF] 8 渡部麗		→ 64'(36)鍵谷天
[MF] 5 富岡千宙		[MF] 4 浅野綾花
[MF] 10 森田美紗希		[MF] 5 吉岡こころ
[FW] 40 李誠雅		[MF] 11 小原蘭菜
→ 82'(21)寺尾星奈		→ 83'(17)北川心子
[FW] 11 金子麻優		[MF] 8 江崎世来
→ 57'(6)田村かのん		[MF] 50 佐藤千優
[FW] 15 北沢明未		[MF] 10 古賀花野
10'北沢明未(1-0)、70'李誠雅(2-0)	得点	85'古賀花野(2-1)
	警告 42'小原蘭菜	

10'北沢明未(1-0)、70'李誠雅(2-0)

得点

警告 42'小原蘭菜

27 | 3回戦

スフィーダ世田谷FC | 日テレ・東京ヴェルディメニーナ

1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2023年12月3日 10:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
●試合時間:90分 ●[主審]稻葉里美[副審]田中真輝/神あかり[第4の審判員]吉田成夫 ●マッチコミッショナー:福田治 ●観衆:113人

[GK] 1 石野妃芽生	出	[GK] 1 ウルフジンカ結吏
[DF] 2 根本彩夏	入	[DF] 5 松岡瑛茉
[DF] 5 渡辺稀稀	場	[DF] 3 青木夕菜
[DF] 13 倉富祐歌	選	[DF] 12 鈴木温子
[MF] 3 柏原美羽	手	[MF] 8 須長穂乃果
[MF] 6 金子ゆい		[MF] 25 米倉和心
[MF] 16 田口茉亜紗		→ 68'(2)北島景子
[MF] 8 三本紗矢香		[MF] 7 栗田七海
[MF] 11 長崎茜		→ 79'(14)佐藤色
[FW] 10 大竹麻友		[MF] 11 松永未夢
[FW] 9 新垣華波		[MF] 15 式田和
27'長崎茜(1-0)	得点	[MF] 10 真城美春
		[MF] 20 伊藤風葵
	警告 20'米倉和心、75'北島景子	

27'長崎茜(1-0)

得点

警告 20'米倉和心、75'北島景子

22 | 3回戦

大阪体育大学

愛媛FCレディース

0 [前半0-1 後半1-2] 2

●2023年12月2日 10:30 ●日東シコースタジアム丸岡 サッカー場
●試合時間:90分 ●[主審]横田碧[副審]荒木裕里香/高井由衣奈[第4の審判員]榎波亮介 ●マッチコミッショナー:栗森政一郎 ●観衆:110人

[GK] 1 津田明日翔	出	[GK] 21 小松里弥
[DF] 14 黒松りほん	入	[DF] 24 前田花依
[DF] 5 加藤未来	場	→ 83'(22)武田菜津美
[DF] 28 東瑞里	選	[DF] 4 村上朱音
[DF] 26 草場千寛	手	[DF] 27 成島彩佳
[MF] 23 野田夏未		[DF] 9 久保田晴香
[MF] 8 藤亜由美		[MF] 10 上村彩華
[MF] 6 浮田琴音		[MF] 11 小島和希子
[FW] 16 上村美月		→ 58'(6)阪本未周
→ 75'(32)橋本結菜		[MF] 14 平塚万貴
[MF] 27 尾山侑里		[MF] 15 櫻谷岬
[MF] 11 川浪実歩		[MF] 26 桜井由衣香
→ 75'(36)沖百萌花		→ 70'(7)大宮央
[FW] 8 平岩依々菜		[FW] 8 松本苑佳
→ 80'(20)三代淑世		[FW] 25 田子夏海
[FW] 9 矢野詩紗		→ 70'(29)今藏綾乃
[FW] 18 道原莉音		37'久保田晴香(0-1)、76'大宮央(0-2)
→ 64'(24)北原歩奈		
	得点	

37'久保田晴香(0-1)、76'大宮央(0-2)

得点

37'久保田晴香(0-1)、76'大宮央(0-2)

得点

19 | 2回戦

ニッパツ横浜FCシーガルズ

FC今治レディース

5 [前半1-1 後半4-0] 1

●2023年11月25日 13:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場
●試合時間:90分 ●[主審]吉田瑞希[副審]山崎真菜/神あかり[第4の審判員]村上孝一 ●マッチコミッショナー:福田克行 ●観衆:66人

[GK] 21 大久保づし	出	[GK] 21 藤田涼加
→ 88'(31)吉原南美	入	[DF] 10 首藤優里
[DF] 2 渡部那月	場	[DF] 22 高橋琴音
[DF] 3 浦海綾	選	[DF] 6 池崎愛
[DF] 5 吉田風沙	手	[DF] 25 安河内亜実
[DF] 26 橋本恵美理		[MF] 7 橋高海音
[MF] 10 小須田璃菜		[MF] 14 松本梨桜
[MF] 23 櫻井まだか		[MF] 18 森瀬希咲
[MF] 32 河野朱里		[MF] 9 竹田果矢
[MF] 27 横山朱里		[FW] 11 越智七加
[MF] 14 川谷好美		[MF] 20 大平桃
[MF] 25 渡辺玲那		[FW] 15 伊藤瑠音
[MF] 7 蔵田あかり		→ 79'(23)鈴鹿有稀
[FW] 9 山田由菜		
→ 88'(22)川添ゆず		
37'73'83'山田由菜(1-0)(4-1)	得点	45+2'森瀬希咲(1-1)
(5-1)、70'小須田璃菜(2-1)、得点		
71'蔵田あかり(3-1)		

37'73'83'山田由菜(1-0)(4-1)

(5-1)、70'小須田璃菜(2-1)、得点

71'蔵田あかり(3-1)

得点

34| 5回戦

ジュユナイテッド浦原千葉レディース ノジマステラ神奈川相模原

4 [前半2-1 後半2-0] 1

●2023年12月17日 13:00 ●ユニリーバスタジアム新富 ●試合時間:90分 ●[主審]高橋早織 [副審]小泉朝香/國節えりな[第4の審判員]大堂香音 ●マッチコミッショナー:酒井昭宏 ●観衆:191人

[GK] 1 満水琴	[GK] 16 戸尻風沙
[DF] 5 田中真理子	出 [DF] 3 上陽菜
[DF] 6 蓮輪真琴	場 → 73'(4)伊東珠梨
[DF] 4 林香奈絵	選 [DF] 5 大賀理紗子
[DF] 2 腹代真帆	手 [DF] 20 小野奈菜
→ 71'(3)小林ひなた	→ 87'(22)常田菜那
[MF] 10 鶴川実歩	[MF] 6 下山莉子
→ 90'+2(24)城和怜奈	→ 87'(7)平田ひかり
[MF] 8 岸川恭津希	[MF] 17 川島はるな
[MF] 14 大船環	[MF] 23 藤原加奈
→ 84'(19)上野紗穂	[FW] 18 藤原琴乃
[FW] 11 千葉玲海菜	[FW] 9 南野亮里沙
[FW] 9 大澤春花	[FW] 11 浜田芽菜
→ 90'+2(16)今田紗良	→ 73'(19)井井一愛
[FW] 17 山口千尋	[FW] 17 小川由姫
→ 71'(7)小川由姫	
9'田中真理子(1-0)、44'鶴川実歩(2-1)、82'千葉玲海菜(3- 得点)	32'浜田芽菜(1-1)
1)、90'+5'今田紗良(4-1)	
45'+3'林香奈絵	警告

9'田中真理子(1-0)、44'鶴川実歩(2-1)、82'千葉玲海菜(3- 得点)

1)、90'+5'今田紗良(4-1)

45'+3'林香奈絵

警告

35| 5回戦

マイナビ仙台レディース 愛媛FCレディース

2 [前半0-0 後半2-1] 1

●2023年12月17日 11:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]小野田伊佐子 [副審]横田碧/吉田瑞希 [第4の審判員]小林幸子 ●マッチコミッショナー:中島勇人 ●観衆:264人

[GK] 16 松本真未子	[GK] 21 小松里弥
[DF] 28 松永未衣奈	出 [DF] 24 前田花依
[DF] 5 国武愛美	場 [DF] 4 村上朱音
[DF] 19 佐藤楓	選 [DF] 27 篠島彩佳
[DF] 4 高平美愛	手 [DF] 3 上村彩華
[MF] 25 太田萌咲	→ 70'(9)久保田晴香
[MF] 26 西野朱音	[MF] 26 桜井由衣香
[MF] 27 田畠晴菜	→ 57'(6)阪本未周
[MF] 10 中島依美	[MF] 14 平塚万貴
[MF] 24 遠澤ゆめ	[MF] 15 梶谷岬
[FW] 20 廣澤真穂	→ 85'(18)横山亜依
52'廣澤真穂(1-0)、87'田畠晴菜(2-1)	[MF] 11 小島和希子
84'田子夏海(1-1)	→ 57'(7)大宮央
得点	[FW] 8 松本苑佳
[FW] 29 今藤綾乃	→ 87'(14)川邊汐夏
→ HT(25)田子夏海	[FW] 10 大竹麻友

52'廣澤真穂(1-0)、87'田畠晴

得点

84'田子夏海(1-1)

得点

52'廣澤真穂(2-1)

36| 5回戦

サンフレッセ広島レジーナ セレッソ大阪ヤンマーレディース

1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2023年12月16日 11:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]桐原純子 [副審]廣田奈美/福葉里美 [第4の審判員]沢田静 ●マッチコミッショナー:中村雅一 ●観衆:527人

[GK] 1 木浦瑞那	[GK] 21 山崎栄子
[DF] 2 近賀ゆかり	出 [DF] 3 米田博美
→ 61'(3)吳屋理子	場 [DF] 4 简井梨香
[DF] 6 左山桃子	選 [DF] 7 萩久保優里
[DF] 5 市瀬千里	→ 89'(19)四海結奈
[DF] 20 島袋奈美恵	[DF] 10 小山史乃観
[MF] 18 渡邊真衣	[MF] 13 百瀬結香
→ 90'+1'(27)森宙舞	→ 89'(26)北原朱夏
[MF] 23 柳瀬楓奈	[MF] 14 高和芹夏
[MF] 26 立花葉	[MF] 18 宮本光梨
→ 90'+1'(14)松本奈美加	→ 67'(29)和田麻希
[MF] 11 中嶋波乃	[MF] 28 関阪麗奈
[FW] 9 上野真実	[FW] 11 矢形海優
→ 83'(17)大内梨央	[FW] 36 萩本悠加
[FW] 13 高橋美太紀	→ 80'(22)白垣うの
→ 83'(19)吉野真央	
51'中嶋波乃(1-0)	得点

51'中嶋波乃(1-0)

得点

51'中嶋波乃(1-0)

皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会 記録集

第2部 全試合公式記録

43 準々決勝

INAC神戸レオネッサ | アルビレックス新潟レディース

2 [前半1-0 後半1-0] 0

●2024年1月14日 13:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]勝又美沙希[副審]山本真理/馬場成美[第4の審判員]一木千広 ●マッチコミッショナー:松山博明 ●観衆:610人

[GK] 1 山下杏也加	出	[GK] 1 平尾知佳
[DF] 2 守屋都弥	入	[DF] 32 白沢百合恵
→ 90'+1'(4)井手ひなた	場	→ 67'(3)プラフシャーン
[DF] 3 土光真代	退	[DF] 4 三浦紗津紀
[DF] 5 三宅史織		[DF] 25 加村なみ
[DF] 4 竹重杏歌理	手	→ 67'(2)浦川璃子
[MF] 16 天野紗		[DF] 7 園田瑞貴
[MF] 6 松原優菜		[MF] 18 石田千尋
[MF] 10 成宮唯		→ 57'(5)川村優理
→ 90'+1'(8)増矢理花		[MF] 10 上尾野めぐみ
[MF] 13 北川ひかる		→ 67'(31)白井ひめ乃
[FW] 9 田中美南		[MF] 13 杉田亜美
[FW] 24 愛川陽菜		[FW] 19 川澄奈穂美
→ 64'(11)高瀬愛実		[FW] 17 滝川結女
		→ 80'(9)児野楓香
		[FW] 8 石淵萌実

3'北川ひかる(1-0)、52'田中美南(2-0)

90'+3'高瀬愛実 警告 52'加村なみ

44 準々決勝

日テレ・東京ヴェルディベレーザ | ちふれASエルフェン埼玉

0 [前半0-0 後半0-0] 1

●2024年1月14日 11:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分、延長30分 ●[主審]曾根未宇[副審]佐々木陽美/丸本明奈[第4の審判員]田中真輝 ●マッチコミッショナー:片岡道夫 ●観衆:1,038人

[GK] 1 田中桃子	出	[GK] 1 浅野菜摘
[DF] 24 柏村菜那	入	[DF] 20 岸みのり
→ 112'(18)岩崎心南	場	[DF] 2 木下菜
[DF] 22 坂部幸菜	退	[DF] 24 大沼歩加
[DF] 25 池上聖七		[DF] 19 金平莉紗
→ 95'(2)木崎あおい	手	[MF] 13 佐久間未稀
[DF] 5 松田紫野		→ 延後前(3)松久保明梨
[MF] 8 菅野奏音		[MF] 5 濑戸口梢
[MF] 10 木下桃香		→ 112'(4)橋沼真帆
[MF] 15 土方麻那		[MF] 17 唐橋万結
[MF] 7 北村菜々美		→ 74'(29)祐村ひかる
[FW] 11 藤野あお		[FW] 8 園田悠奈
[FW] 19 山本袖月		[FW] 6 瀬野有希
→ 60'(27)橋渡百花		[FW] 10 吉田莉胡

得点 95'金平莉紗(0-1)

45 準決勝

INAC神戸レオネッサ | ちふれASエルフェン埼玉

3 [前半1-0 後半1-2] 2

●2024年1月20日 11:03 ●サンガスタジアム by KYOCERA ●試合時間:90分、延長30分 ●[主審]千葉恵美[副審]萩尾麻衣子/草処和江[第4の審判員]荒川里実 ●マッチコミッショナー:佐々木理 ●観衆:1,079人

[GK] 1 山下杏也加	出	[GK] 1 浅野菜摘
[DF] 2 守屋都弥	入	[DF] 20 岸みのり
[DF] 3 土光真代	場	[DF] 2 木下菜
[DF] 5 三宅史織	退	[DF] 24 大沼歩加
[DF] 15 井手ひなた		[DF] 13 佐久間未稀
→ 89'(8)増矢理花	手	→ 65'(3)松久保明梨
[MF] 6 天野紗		[MF] 5 濑戸口梢
[MF] 8 松原優菜		→ 75'(18)高橋禪
[MF] 10 成宮唯		[MF] 17 唐橋万結
[MF] 13 北川ひかる		→ HT(29)祐村ひかる
[FW] 9 田中美南		[MF] 19 金平莉紗
[FW] 24 愛川陽菜		[FW] 8 園田悠奈
→ 62'(11)高瀬愛実		[FW] 6 瀬野有希
		[FW] 10 吉田莉胡

39'田中美南(1-0)、61'守屋都弥(2-1)、120'北川ひかる(3-2) 得点 52'吉田莉胡(1-1)、83'祐村ひかる(2-2)

警告 38'金平莉紗

40 5回戦

大宮アルディージャVENTUS | ちふれASエルフェン埼玉

0 [前半0-1 後半0-0] 1

●2023年12月17日 13:00 ●熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]山本真理[副審]田嶋うらら/橋本真光[第4の審判員]岩佐莉奈 ●マッチコミッショナー:新井智也 ●観衆:2,028人

[GK] 21 スタンボー華	出	[GK] 1 浅野菜摘
[DF] 6 有吉佐織	入	[DF] 3 松久保明梨
[DF] 5 乗松瑠華	場	→ 20'(3)岸みのり
→ 89'(10)五鶴京香	退	[DF] 24 大沼歩加
[DF] 4 長嶋洸		[DF] 19 金平莉紗
[DF] 3 鮎島彩	手	[MF] 13 佐久間未稀
[MF] 15 林みのり		→ 69'(2)木下菜
[MF] 18 田嶋みのり		[MF] 5 濑戸口梢
[MF] 13 仲田歩夢		[MF] 4 橋沼真帆
→ 57'(19)船木里奈		[MF] 17 唐橋万結
[MF] 11 阪口萌乃		[FW] 6 瀬野有希
[MF] 26 衣澤海星		[FW] 8 園田悠奈
→ 82'(33)大島暖菜		
[FW] 2 坂井優紀		
→ 57'(9)井上綾香		

得点 23'大沼歩加(0-1)

37 5回戦

INAC神戸レオネッサ | ASハリマアルビオン

2 [前半1-0 後半1-1] 1

●2023年12月17日 14:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]曾根未宇[副審]大西英里/森数真治[第4の審判員]中本早紀 ●マッチコミッショナー:中熊光義 ●観衆:688人

[GK] 18 戸梶有里野	出	[GK] 1 竹下奏彩
[DF] 2 守屋都弥	入	[DF] 2 杉田めい
[DF] 3 土光真代	場	[DF] 5 小島美玖
[DF] 4 竹重杏歌理	退	[DF] 8 武田裕季
[DF] 6 松原優菜		[DF] 4 阪中澤
[MF] 8 増矢理花	手	[MF] 11 山岸夢歩
→ 50'(24)愛川陽菜		[MF] 14 正野可菜子
[MF] 19 林愛花		→ 85'(19)森和奏
[MF] 7 山本麻也		[MF] 18 中野里乃
→ HT(10)成宮唯		[MF] 17 葛馬史奈
[MF] 13 北川ひかる		[FW] 9 内田美鈴
[FW] 17 高瀬愛実		[FW] 20 亀井七奈
→ 77'(16)天野紗		→ 85'(28)谷島利実
[FW] 9 田中美南		[FW] 9 小島美玖(1-1)

9'高瀬愛実(1-0)、81'成宮唯 得点 59'小島美玖(1-1)(2-1)

41 準々決勝

三菱重工浦和レッズレディース | ジュエフユナイテッド市原・千葉レディース

2 [前半1-0 後半1-0] 0

●2024年1月14日 14:30 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]草処和江[副審]桐原純子/岩本穂花[第4の審判員]小野田伊佐子 ●マッチコミッショナー:中原美智雄 ●観衆:1,567人

[GK] 1 池田咲紀子	出	[GK] 33 米澤萌香
[DF] 17 逸藤優	入	[DF] 1 中山真理子
[DF] 13 長嶋玲奈	場	→ 71'(3)石田菜々海
[DF] 3 石川聰音	退	[DF] 6 蓮輪真琴
[DF] 16 水谷有希		[DF] 4 林香奈絵
→ 81'(7)高橋はな	手	[DF] 2 藤代真帆
[MF] 14 角田楓佳		→ 59'(10)鶴川実歩
[MF] 5 濑戸口梢		[MF] 23 小林ひなた
→ 71'(19)塙越柚歩		[MF] 8 岸川奈津希
[MF] 18 柴田華絵		[MF] 14 大熊環
→ 81'(4)佐々木蘭		→ 71'(22)井上千里
[MF] 8 猪木光		[MF] 12 朝霧ありあ
[MF] 10 安藤梢		→ 71'(19)安倍乃花
[MF] 7 北村菜々美		[MF] 15 木下千尋
[FW] 11 清家貴子		[MF] 10 上尾野めぐみ
[FW] 9 菅澤優衣香		[MF] 13 杉田亜美
→ 63'(15)島田芽依		[MF] 17 澤田リ奈

42'50'安藤梢(1-0)(2-0) 得点

42 準々決勝

マイナビ仙台レディース | サンフレッシュ広島レジーナ

0 [前半0-1 後半0-0] 1

●2024年1月14日 13:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:90分 ●[主審]梶山英美子[副審]萩尾麻衣子/藤田美智子[第4の審判員]中本早紀 ●マッチコミッショナー:大下国忠 ●観衆:1,231人

[GK] 16 松本真未子	出	[GK] 1 木福瑠那
[DF] 27 田畠晴美	入	[DF] 3 吳屋絆理子
[DF] 5 國武愛美	場	[DF] 6 左山桃子
[DF] 19 佐藤楓	退	[DF] 5 市瀬千里
[DF] 4 高平美憂		[MF] 18 渡邊真衣
[DF] 25 太田萌咲	手	[MF] 23 柳瀬楓菜
[MF] 26 西野朱音		[MF] 26 立花葉
[MF] 6 原衣吹		[MF] 11 中嶋淑乃
→ 79'(7)鶴田凜		[MF] 9 上野真実
[MF] 10 中島依美		→ 90'+5'(19)吉野真央
[MF] 24 遠藤ゆめ		[MF] 33 濱澤千聖
[FW] 20 廣澤真穂		[FW] 13 高橋美夕紀
→ 76'(14)松本茉奈加		→ 76'(14)松本茉奈加

得点 43'上野真実(0-1)

39 5回戦

日テレ・東京ヴェルディベレーザ | スフィーダ世田谷FC

2 [前半0-0 後半2-1] 1

●2023年12月17日 14:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]草処和江[副審]萩尾麻衣子/原崇[第4の審判員]齊藤清美 ●マッチコミッショナー:村山進 ●観衆:593人

[GK] 31 野田にな	出	[GK] 1 石野妃芽佳
[DF] 6 宮川麻都	入	[DF] 2 根本彩夏
[DF] 22 坂部幸菜	場	[DF] 5 渡辺瑞穂
[DF] 25 池上聖七	退	[DF] 3 柏原美羽
[DF] 5 松田紫野		[DF] 13 倉富祐歌
[MF] 10 木下桃香		[MF] 6 金子ゆい
[MF] 8 菅野奏音		[MF] 15 望月麻央
[MF] 11 藤野あお		→ HT(16)田口茉亜紗
[MF] 2 木崎あおい		[MF] 8 三本玲香
→ HT(15)土方麻椰		[MF] 11 長崎茜
[FW] 19 山本袖月		[FW] 10 大竹麻友
→ 56'(27)橋渡百花		[FW] 9 新堀華波
[FW] 7 北村菜々美		[FW] 7 北村菜々美
→ 90'(13)木村彩那		

80'藤野あお(1-1)、87'北村菜々美(2-1) 得点 76'金子ゆい(0-1)

第3部 参加48チーム・登録選手

①帝塚山学院大学

- ②三輪由衣
- ③初出場
- ④2回戦
- ⑤薄井成美、神門風音、谷口涼、浅見汐音、三井愛里沙、新田萌夏、北田琴理、千本翔子、福田陽菜、宮本夏夜、東原咲紀、松林和香、西川姫花、遠見咲希、山路なづな、扶蘇友里乃、中丸美令、古川陽菜、加藤月唯、丸山日和、流川桐佳、松崎花菜、松尾由帆、小緑瑠夏、福田美祐、鈴木麗子、林咲良、大倉弓佳、伊藤有那、川上七奏

①周南公立大学Vinculum

- ②田中龍哉
- ③7回
- ④2回戦
- ⑤宮本向葵、松枝莉央、八田七海、宮武里奈、池澤のあ、高橋美樹、谷穂花、田中芽、田中葵、永吉璃子、椎屋恵美瑠、渡邊凜、近藤千寛、田中千愛、油布亞優美、四元輝、坪根妃紀、大西紗菜、木村円香、坂田恵実、河上雫菜、石井日菜、阿川カエラ、高垣心、浪井香葉、時高由菜、田中紗世

①吉備国際大学Charme岡山高梁

- ②太田真司
- ③19回
- ④1回戦
- ⑤佐喜真幹、宮本果実、岩田莉奈、本庄結、中村有沙、土山桃香、神田若帆、古谷優理亞、中村怜愛、加戸由佳、西村留亜、板倉楓、川名みのり、山下栄、中野咲、吉岡愛心、西山菜々、川名遥香、須賀桃花、人見有咲、山下結夢、細川元代、樋口佳那子、根本梨香子、三浦春菜

①岡山湯郷Belle

- ②谷口博志
- ③21回
- ④2回戦
- ⑤山田路、多崎美玖、米本みのり、内田好美、中村ひかる、山田美絹と、町田朱里、鳥海由佳、横山久美、岸野早奈、秋元美雨、今野瞳、近藤あすか、根本ひかる、小林亜耶奈、村上夏奈瀬、山下沙耶香、城倉歩未、片山真鞠、松田望、木須みそら、新谷楓華、程思玲、守屋菜奈、谷口木乃実

①ディアヴォロッソ広島

- ②岩田純児
- ③2回
- ④1回戦
- ⑤湯浅里香子、宮崎有里香、田邊いちご、江口涼香、長野菜奈、向井彩香、内藤友花、山根夢乃、高島絢音、前田香名子、大畠恵美莉、伊藤ゆき、武田綾香、森山未来、杉岡真里奈、横手萌乃香

①FC今治レディース

- ②布山達朗
- ③4回
- ④2回戦
- ⑤中田香菜子、大崎梨香、土井咲良、小川真名美、杉山菜月、池崎愛、橋高海音、大平桃、竹田果矢、首藤優里、越智七加、松本梨桜、伊藤璃音、福田有彩、尾島早織、森瀬希咲、大塚鈴香、藤田涼加、高橋琴音、鈴鹿有稀、越智心愛、安河内ア美、大倉光藍、白鞘愛留、中村彩花、木原優奈、岡部実華、東日向子

①エナジック琉球デイゴス

- ②田口豊士
- ③5回
- ④2回戦
- ⑤山里ありす、高田京香、坂入萌々子、田中佑奈、白土莉那、豊田楓、吉國真梨子、アデリー・ヤミ、山城見友希、木村絵梨、新井愛海、宮崎莉奈、牧山麗菜、宇津木陽奈、霜香織、金城愛理、町田茉衣、國分遙香、廖政淇、伊藤美菜子、牟田羽菜、富沢藍那、チャン・スーシン

①柳ヶ浦高校

- ②林和志
- ③初出場
- ④2回戦
- ⑤大野菜緒、田中莉那、徳重花恋、高松芹羽、重松日菜、松崎陽菜、江崎悠乃、篠田若那、山口咲、松岡優空、中村沙愛、大野姫咲、高田紋叶、園ひなの、兼崎友希、松田吏真、高田実夢、小泉碧美、田未だ愛、田淵聖那、大山姫星、内村美結、北野萌々果、松崎裡愛、橋本凜、小林萌菜美、坂本穂乃佳、椿田遥風、馬場八千流、山下絢香

①ヴィアマテラス宮崎

- ②水永翔馬
- ③3回
- ④1回戦
- ⑤青柳麻理鈴、宮本真緒、永野桃子、島田優依菜、松田遥奈、有馬りこ、嘉数飛鳥、岡野有里子、永富裕梨、松田早和、宮崎珠里、島田綾子、馬場ひなの、福丸智子、齊藤夕眞、西山裕香、切通真央、坂田美優、坂本理保、村上すず、渡谷祥乃、池田玲奈、河野愛依、爲保美月、秋元虹波、松野梨那

①福岡J-アンクラス

- ②河島美絵
- ③17回
- ④3回戦
- ⑤朝山美帆、和田莉愛、藤山眞子、成合瞳、庄司美優、浮田琴音、須田綾香、藤並由美、宮本樹奈、岡未沙子、小山莉奈、藤崎愛乃、柳田詩織、奥田真歩、上村美月、平坂咲希、長部汐利、原日揮、進藤奈奈花、高橋萌々香、野田夏未、平良文果、相浦幸桜、綿貫心華

④2回戦

- ⑤中村堇、小島世里、米口和花、本多桃華、山崎亜沙、愛川琴未、川口歩奏、安西愛、三宅万尋、早間美空、長行司百合、澤田さくらアリーヤ、福島茉莉花、伊藤芽紗、菊池真唯子、辛鳴心結、梅本恵、上川路遥、川田瑠依、山崎美乃、岩田理子、木田遥、梅澤ひかり、貴島莉子、宮崎日詩、袖山夏怜、高橋美祐、吉田真穂、鶴岡杏彩、新井萌未

①日本大学

- ②持田紀与美
- ③初出場
- ④2回戦
- ⑤山田桜音、金澤柚希、チエ・ヨウオン、光田知世、牧野美優、片山貞乃、渡邉莉沙子、小林結奈、藤原愛里、藤田萌歌、久保華恩、木村莉添、間庭遥香、西野早紀、青木若菜、曾贈佑香、遠山瑠菜、油本明佳里、横溝麻里花、増原遥花、滴沢美結、田口瑚香菜、木村藍、大光望結、太田千満、加賀美心音、清水萌衣、川原梨寧、玄蕃理恵、笠村凜

①日テレ・東京ヴェルティメニーナ

- ②坂口佳祐
- ③17回
- ④3回戦
- ⑤ウルフ・ジエシカ結び、北島景子、青木夕菜、松岡瑛茉、朝生珠美、田口七海、須長穂乃果、眞城美春、松永未夢、鈴木温子、佐藤色、式田和、林心春、渡邊栄香、今ゆうり、武内明香里、伊藤鳳葵、永井愛理、大長柑花、諏訪穂香、米倉和、松原璃桜奈、友利愛紗、奥住心音、大木優里菜、加登脇心羽

①東洋大学

- ②石津遼太郎
- ③5回
- ④3回戦
- ⑤中村未有、落合依和、熊谷美布、藤生菜摘、今西那歩、北村美羽、野口珠里、宮本妃菜里、境ひより、村岡由梨、石塚木乃葉、稻山美優、長尾ののか、小林莉々子、久保花穂、久留生唯奈、平原花珠、山崎凌乃、森本陽菜、川村萌々、遠藤有紗、五十嵐花怜、田中結衣、田畠風侑、鈴木京響、武田悠、加藤満久花、三尾心々美、宮下紗和、三宅紗優

①早稲田大学

- ②後藤史
- ③16回
- ④2回戦
- ⑤石田心菜、夏目歩実、後藤若葉、堀内璃子、田頭花菜、浦部美羽、笠原綺乃、白井美羽、三谷和華奈、築地育、木南花菜、生田七彩、小林舞美、丸山翔子、藤田智里、栗田彩令、淀川知華、澤田美海、田村亜沙美、阪本環、生谷寧々、杉山遥菜、千葉梨々花、新井みゆき、崎嶋由真、川本美羽、大山愛笑、ワース恵、エロイズ・ハンセン

①リリーウルフ.F石川

- ②上田涼斗
- ③2回
- ④2回戦
- ⑤松本紗和、後藤真未、青山美里、米川愛美、藤田笑歌夏、北条あゆみ、松丸綾子、広瀬さつき、大谷琉晏、久永望生、井上愛未、舛田仁美、志村壇南。佐々木由紀菜、砂川陽菜、岡崎祥子、古俣愛実、金谷じゅず、安倍花、中岡左津記、小西かほる、中山莉乃、新井優紀、宮下あづき、赤坂南穂、藤野聖奈、釣村美紀

①JFAアカデミー福島

- ②山口隆文
- ③16回
- ④2回戦
- ⑤鹿島彩莉、金成瑠那、古賀塔子、名木野桃嘉、吉岡心、樋口梨花、長綱莉央、木村未来、米田百佳、谷川萌々子、板村真央、福田真一、大場好里、柳愛花、原ひばり、林椿、松井望花、若月りる葉、鳥羽生芽、古川心運、石井音羽、梅木万優子、福島望愛、伊藤杏莉、花城恵唯、西ひまり、高橋心花、野田美多葉、松下遙蘭、田中愛純香

①藤枝順心高校

- ②中村翔
- ③17回
- ④2回戦
- ⑤菊地優香、望月歓那、柘植沙羽、赤塚花風、大川和流、下吉優衣、古田昊、中出朱音、高岡潔、久保田真生、辻澤亞唯、ソワディル・ヴィクトリア、弟子丸紗羽、葛西唯衣、松本琉璃那、植本愛実、藤原凜音、永田健奈、佐藤ふう、中島沙彩、伊藤美術、岡崎海空、松山の美、小林凜、鈴木由真、岡村望央、鈴木巴那、小林愛梨、堀江莉心、尾辻夏奈

①ヴィアティン三重レディース

- ②貞健一
- ③3回
- ④1回戦
- ⑤切畑琴乃、山崎香、河合美月、宮本裕加、市川苑佳、矢橋菜央、山口紗矢、山崎愛海、伊藤美咲、押田彩、古田菜緒、長谷川優、高田莉緒、南知穂、佐々木彩、桑原舞音、片野田朱珠、川端蒼弓、戎谷ア美、八神友梨弥、玉城亞海、矢野詩子、鈴木朝惠、野村彩衣、森藤凜

①大阪体育大学

- ②石居宣子
- ③15回
- ④2回戦
- ⑤津田明日翔、清悠香、吉田巳菜、加藤未菜、加井菜月、平岩依々菜、矢野梨紗、桂ア依、川浪実歩、梅北葵、荒谷美優、黒松りばん、桐菜々笑、長谷原彰音、石川真愛永、辻原莉音、三代源世、相谷亜由花、井上歩乃華、植田絢羽、北原歩奈、草場千寛、赤尾里、東瑞里、岡村陽菜、橋本結菜、西野なづな、中垣和佳奈、沖百萌花、小林葵

知奈、安間帆乃香、北菜々子、石田小桜、榎木澤真彩、當房皆都、越智れもん

①朝日インテック・ラブリッジ名古屋

- ②森山泰行
- ③16回
- ④2回戦
- ⑤垣内愛菜、齋藤久瑠美、瀬戸春陽、橘麗衣、安部由希子、高島瑠里子、長谷川朋佳、市原理奈、水野亞美、山田仁衣奈、江崎杏那、山本さゆり、市川実季、三田一紗代、清水あかね、神谷千葉、平尾愛穂、瀬戸伊織、岡倉海香、川尻真由、加藤ゆあ、黒柳美裕、新城舞、逸見桃子、上田桃、中村友香、黒木愛理、大潤日、木下咲帆、三浦桃

①伊賀FCくノ一重

- ②北村隆二
- ③35回／3回
- ④4回戦
- ⑤和田涼花、西川明花、秦美結、西林里恵、藤田理子、常田麻友、渡邊凜、下條彩、村上由奈子、森仁美、小川志保、宮迫たまみ、原田結奈、佐々木葵、後藤優香、藤田桃加、坂元ひなの、篠原沙耶、竹島加奈子、高橋杏奈、高山菜々香、川元茉耶、中垣虹衣碧、小林綺那、田中晴菜、正野瑠菜、谷口清夏

①スペランツア大阪

- ②種田佳織
- ③23回
- ④3回戦
- ⑤和田涼花、西川明花、秦美結、西林里恵、藤田理子、常田麻友、渡邊凜、下條彩、村上由奈子、森仁美、小川志保、宮迫たまみ、原田結奈、佐々木葵、後藤優香、藤田桃加、坂元ひなの、篠原沙耶、竹島加奈子、高橋杏奈、高山菜々香、川元茉耶、中垣虹衣碧、小林綺那、田中晴菜、正野瑠菜、谷口清夏

①ASハリマアルビオン

- ②小野鈴香
- ③10回
- ④5回戦
- ⑤竹下彩美、杉田めい、東菜月、阪中澪、小島美玖、吉田紫穂、井之脇朱音、武田裕季、内田美鈴、千葉園子、山岸夢歩、高橋楓姫、正野可菜子、國生乃愛、松久保葵子、葛馬史奈、中野里乃、森和彩、亀井七奈、杉野陽咲、四海真結華、村田かえで、藤原安佑、川上然、谷島利実、長澤優芽、原田実歩、西崎帆花、山本麻裕

①愛媛FCレディース

- ②徳永尊信
- ③15回
- ④5回戦
- ⑤濱田百華、松永早紀、上村彩華、村上朱音、大矢円佳、阪本未周、大宮央、松本苑佳、久保田晴香、鈴木紗理、小島和希子、丸山ちさと、平塚万貴、櫻谷岬、仲松叶実、横山亜依、小松里弥、武田菜津美、鳴林美花、前田花依、田子夏海、桜井由衣香、篠島彩佳、加藤美咲、今戻綾乃、田上歩実、川合未望、毛利美佑

①ノルディーア北海道

- ②米山隆一
- ③14回
- ④2回戦
- ⑤上野陽希、中島汐里、三澤ゆず菜、安達沙織、大沼寿々歩、鈴木璃茉、榎静花、鈴木麻理菜、丸形梨恵、橋本恵里、大沼萌百葉、澤田法味、山道未彩、最上愛里、宇野麗依、橘彩珠、野辺千尋、森和彩、井久保茉奈、市原彩愛、松浦あさひ、中川良美

①札幌大学ヴィズタ

- ②氏家新司
- ③2回
- ④1回戦
- ⑤高見楓希、藤原胡桃、東雲叶夢、丸山雪月、山口ヒカル、井田久美子、王川実乃音、志川小林、秋川咲良、土井川楓希、宇佐美愛、鈴木莉瑚、安田聖羅、吉川夢叶、森上茉耶、猪又月菜、志藤翠衣、嘉数クレア姫麗、門脇もえ

①マイナビ仙台レディースユース

- ②小川翔平
- ③初出場
- ④2回戦
- ⑤高橋愛利花、宮崎優那、加藤愛、田家海凪、秋山世名、佐藤にいな、渡部心、津田愛乃音、菊地花奈、菅原千嘉、長岡みなみ、浅坂真桜、松浦舞帆、三谷宥乃、三島愛、波邊衣織、澤嶺結、井ノ瀬玲緒、瀬戸如紗、岩城愁音美、森本彩寧、伊藤里保、三浦月音、渡邊愛香里、瀬戸川紗良、佐藤美おん、吉田桃子、村椿愛瑠、佐藤果林、星野朱凜、佐藤りのあ

①帝京平成大学

- ②矢野喬子
- ③3回
- ④3回戦
- ⑤阿部ほのか、神田絢音、浅野綾花、吉岡こころ、針生理菜、渡邊那奈、江崎世来、古賀花野、小原蘭菜、吉川麗、北川心子、岡田かれん、田倉羅姫、加藤渚、山田瑞穂、太田綾音、小笠原由衣、須藤亜美羽、名越杏香、太田風砂、大八木朱音、久保田知紗、吉田愛瑠、梶原美咲、森早苗、鍵谷天、金子志成、鈴木愛理沙、鈴木董、佐藤千優

①十文字高校

- ②石山隆之
- ③2回

サッカーファミリー広場



One Shot 今月のワンショット

JFA第29回全日本U-15フットサル選手権大会の決勝は、東海大会の決勝でも対戦した翼SCレインボーゼ井U-15（岐阜県）とFCプリンカール安城（愛知県）が激突した。点を取り合う白熱した展開を制したのは、翼SCレインボーゼ井。東海大会で4連覇のFCプリンカール安城にリベンジを果たす形に。互いに全力を尽くした一戦、健闘をたたえ合つた。



blue-ing!情報

DISCOVERYエリアの大画面ビジョンを使った “ド迫力”のシアタービューリングが追加

AFCアジアカップカタール2023の大会期間中、blue-ing!初のパブリックビューリングが開催された。blue-ing!でのパブリックビューリングは、SAMURAI BLUE（日本代表）の全試合を対象とし、ノックアウトステージからはDISCOVERYエリアの大画面ビジョンを使った「シアタービューリング」も新たに加わり、臨場感のあるサウンドとスクリーンで観戦を楽しめるようになった。



●blue-ing!公式HP

<https://blueing.jfa.jp/>



選手への差別的発言に関して

2024年1月24日

日本サッカー協会（JFA）は2008年にリスペクト宣言を行い、暴力・暴言の根絶、人種・差別、等をしないことを宣言しました。現在、一切の妥協も許さない「ゼロ・トランク」の姿勢でその根絶を目指しています。

現在、開催されているAFCアジアカップカタール2023においてSAMURAI BLUE（日本代表）は優勝を目指し、監督、選手、スタッフ、そしてJFAも一丸となって戦っています。もちろんスポーツにおいて勝敗はつきもので、いかなる結果も受け入れる覚悟で戦いに臨んでいます。それもフェアプレーの精神だと考えます。

ファン・サポーターをはじめ、多くの皆さんからも熱い声援や叱咤激励をいただいている。そういう声援はチームや選手を鼓舞し、素晴らしいゲームを行う原動力になります。

その一方で、SNSにわれわれが掲げるリスペクトとは異なる差別的発言、誹謗中傷などが投稿されました。断じて許されない行為であり、JFAとして断固抗議します。

差別や誹謗中傷などの心ない投稿は、個人の人権や名誉、プライバシーを脅かし、人を窮屈に追い込んだり、法律に違反する行為に発展したりするなど、深刻な事態になることも少なくありません。多様性を尊重するという社会の動きに逆行することもあり、恥すべき行為だと考えます。

JFAは人権や名誉、プライバシーなどを侵害する行為を決して容認せず、法的措置も辞さない姿勢でその根絶を目指していく考えです。

公益財団法人日本サッカー協会
会長 田嶋幸三



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0Tvrvo-Leh64Nomkz4YOCQAVoVhhmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間：平日 12:00～18:00（土日祝・年末年始等除く）





皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会が2023年11月18日から2024年1月27日にかけて行われ、INAC神戸レオネッサが第38回大会以来となる優勝を果たした。

※大会記録集は56~64ページを参照

INAC神戸レオネッサが7大会ぶり7度目の優勝!



皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会

WEリーグチームへの挑戦権を懸けた戦い

2023年11月に開幕した皇后杯は、48チームによるノックアウト方式で行われ、5回戦からWEリーグチームが登場。女子サッカー日本一を懸けた戦いが繰り広げられた。

3回戦では、藤枝順心高校（東海／静岡）がなでしこ1部のオルカ鴨川FC（千葉）に挑んだ。藤枝順心高は、エースの辻澤亜唯が早々に2点を決める。対する鴨川もなでしこ1部で最優秀選手賞を受賞した鈴木陽などが得点を挙げたが、後半終了間際に再び辻澤が豪快なシュートを決めてハットトリックを達成。

藤枝順心高が鴨川を3-2で破る。ジャイアントキリングを果たした。昨季の全日大選手権大会で優勝した東洋大学（関東／群馬）は、来季から

大会最多得点はV宮崎の齊藤夕真が記録。4試合で5得点を挙げた



WEリーグ勢が力を誇示 ベスト8を独占

WEリーグチームが登場した5回戦、前回

昇格するヴィアマテラス宮崎（九州／宮崎）と対戦。接戦を演じるもV宮崎の齊藤夕真に決勝弾を決められ、惜しくも敗れた。第43回大会でベスト4に進んだ日テレ・東京ヴェルディメニーナ（関東／東京）もスフィーダ世田谷FC（なでしこ1部／東京）に0-1と一步及ばなかつた。

4回戦はなでしこ1部チームが強さを発揮する。愛媛FCレディース（なでしこ1部／愛媛）は、快進撃を続けていた藤枝順心高に3-1で勝利。ASハリマアルビオン（なでしこ1部／兵庫）もV宮崎をPK戦の末に下した。V宮崎の攻撃を支えた嘉数飛鳥は「質を上げて頭を使う部分をレベルアップさせ、来季を迎える」と決意を新たにした。日体大SMG横浜（なでしこ1部／神奈川）は、伊賀FCくノ一三重（同／三重）に逆転負け。S世田谷は後半に新堀華波が決めた2得点などで、ニッパツ横浜FCシーガルズ（なでしこ1部／神奈川）に5-1で快勝した。

約1ヶ月の中止を経て再開した準々決勝。三菱重工浦和レッズレディース（埼玉）は、栃木県のカンセキスタジアムとちぎでジェフユナイテッド市原・千葉レディース（千葉）と対戦した。地元凱旋の安藤梢が、前後半に1点ずつを決めて浦和を勝利に導いた。安藤は「それぞれの持ち味を引き出せるようプレーでき

王者の日テレ・東京ヴェルディベレーザ（東京）

はS世田谷の挑戦を受けた。金子ゆいに先制を許した東京NBだったが、その後に藤野あおばが同点とし、続いて北村菜々美の逆転弾で2-1の白星スタートを切った。マイナビ仙台レディース（宮城）は愛媛FCに先制したが、田子夏海のゴールで愛媛が1-1に追いつく。その後、田畠晴菜が獲得したPKを自ら決めてマイ仙台が2-1と勝ち越した。WEリーグで首位のINAC神戸レオネッサ（兵庫）は、途中出場した成宮唯が巧みなキックフェイントから決勝ゴールを決め、ASハリマとの兵庫ダービーを2-1で制した。WEリーグカップ霸者のサンフレッチェ広島レジーナ（広島）は、中嶋淑乃のゴールでセレッソ大阪ヤンマーレディース（大阪）に1-0で勝利。この結果、ベスト8はWEリーグ勢が占めることとなつた。

約1ヶ月の中止を経て再開した準々決勝。三菱重工浦和レッズレディース（埼玉）は、栃木県のカンセキスタジアムとちぎでジェフユナイテッド市原・千葉レディース（千葉）と対戦した。地元凱旋の安藤梢が、前後半に1点ずつを決めて浦和を勝利に導いた。安藤は「そ

準々決勝で2得点を挙げた浦和の安藤梢。準決勝でも先制ゴールを決めるなど輝きを見せた



戸はWEリーグで3位につけるアルビレックス新潟レディースを狙う東京

一神戸が接戦を制して皇后杯を奪還

決勝でも拮抗した戦いが続いた。2大会ぶりの優勝を目指す浦和は、準決勝で負傷した

成功させ、2大会ぶりの決勝進出に貢献した。

池田咲紀子が活躍。2本のPKをセーブするだけでなく、自ら4人目のキッカーとなつて成功させ、2大会ぶりの決勝進出に貢献した。

日本での初タイトルを得た一神戸のフエロ監督は「PK戦はくじ引きのようなものだが、最後まで勝ちたい気持ちを見せてくれた」と、チームの成長を実感した様子。前回大会

一神戸が7大会ぶり7度目の皇后杯制覇を決め、予選に参加したチームを含む全387試合で悔し涙を流した三宅史織も「最後に追いついて勝てたのはチーム力がすごく上がっているからだと思つ」と笑顔を見せた。敗れた浦和のDFラインを統率した高橋はなは「この経験を次にどう生かすかが鍵になる」と、約1カ月後に再開するWEリーグでの巻き返しを誓つた。

NBとちふれASエルフエン埼玉(埼玉)の対戦は延長戦にもつれ込む接戦になり、ELI埼玉が延長前半に金平莉紗が挙げた得点を守り切つて1-0で勝利した。10本のシュートを放った東京NBの藤野は「チャンスがなかつたわけではないが、そこの精度に尽きる」と敗因を語った。

準決勝の2試合は、いずれも多くの得点が生まれる劇的な展開となつた。前回大会の準決勝と同じ顔合わせとなつた一神戸とELI埼玉の一戦は、一神戸の得点源である田中美南、ELI埼玉の吉田莉胡が共に得点。2-2で延長戦に入ると、延長後半終了間際に北川ひかるが放ったロングファイードがゴール右に吸い込まれ、一神戸が勝ち越しに成功。3-2で一神戸の田中。決勝に向けてチームの士気を上げる一戦となつた。S広島Rと対戦した浦和は、安藤と猪木光の得点で2点をリードしたが、後半に猛攻を見せたS広島Rが追いついて延長戦へ。そこから1点ずつを加点して迎えたPK戦、昨季はけがに苦しんだ浦和GKが追いついて延長戦へ。そこから1点ずつを加点して迎えたPK戦、昨季はけがに苦しんだ浦和GK



一神戸のGK山下杏也がPK戦など勝負どころで好セーブを見せ、チームの優勝に貢献した

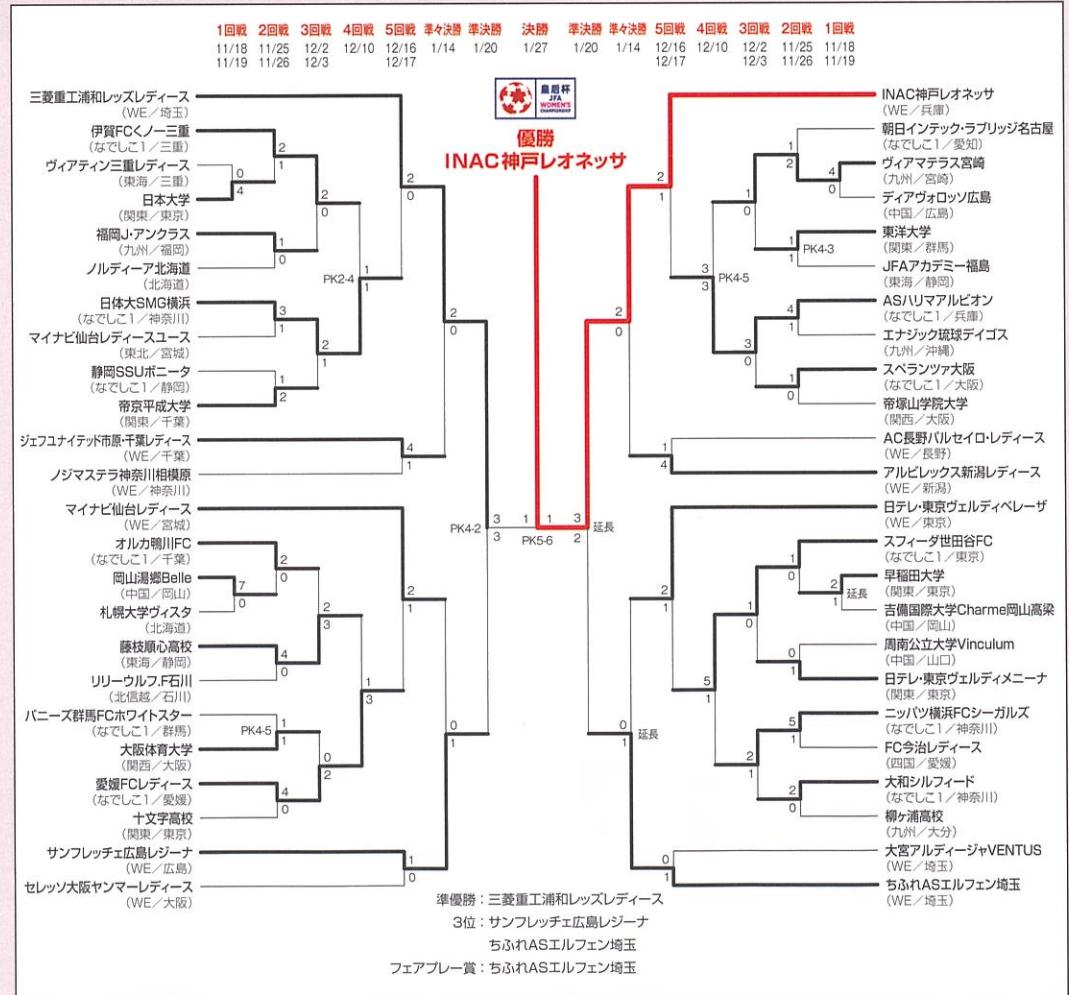
季は無冠だった

延長戦でもせめぎ合いは続き、共に追加点は生まれず。勝敗が委ねられたPK戦、両者が迎えた7人目、後攻の浦和は、伊藤美紀のシュートが左のゴールポストに当たつて失敗。この瞬間に一神戸の勝利が決定した。昨

季は無冠だった

延長戦でもせめぎ合いは続き、共に追加点は生まれず。勝敗が委ねられたPK戦、両者が迎えた7人目、後攻の浦和は、伊藤美紀のシュートが左のゴールポ

ストに当たつて失敗。この瞬間に一神戸の勝利が決定した。昨



令和5年度 第102回全国高等学校サッカー選手権大会



[大会概要]

2023年12月28日から2024年1月8日までの期間、首都圏の各会場で開催。予選を勝ち抜いた6道府県代表各1チーム、東京都代表2チームの計48チームがノックアウト方式で戦う。1回戦から準々決勝の試合時間は80分、準決勝と決勝は90分で、勝敗が決しない場合はPK戦を行う(決勝のみ20分の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦で勝者を決める)。



青森山田高校が2大会ぶり4度目の日本一に

高校サッカーの日本一を決める第102回全国高等学校サッカー選手権大会が2023年12月28日から2024年1月8日にかけて首都圏の各会場で開催された。

大会には27年連続出場となった青森山田(青森)のほか、日本一の経験を持つ四日市中央工業(三重)が4年ぶり35回目の出場を達成。広島国際学院(広島)など初出場の5校を加えた48チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争った。今大会は14試合がPK戦までもつれるなど拮抗した試合が多く、2回戦で尚志(福島)や前橋育英(群馬)が敗退。全国高等学校総合体育大会(インターハイ)王者の明秀日立(茨城)は3回戦で姿を消し、前回王者の岡山学芸館(岡山)も初出場の名古屋(愛知)にPK戦で敗退。市立船橋(千葉)と青森山田、近江(滋賀)、堀越(東京A)が4強入りを果たした。

優勝経験のあるチーム同士の対戦となった準決勝第1試合は、青森山田がCKから先制したが、試合終了間際に市立船橋が追い付く。迎えたPK戦では青森山田のGK鈴木将永が2本のキックを防ぎ、2年ぶりの決勝進出を決めた。第2試合は序盤から攻勢を仕掛けた近江が前半に3ゴールを挙げる。終盤に堀越に1点を返されたが、危なげない戦いぶりで初のファイ

ナル進出をつかんだ。

決勝は素早くゴールを目指す青森山田が主導権を握って試合を進めると、33分には杉本英吾のパスから福島健太が先制点をマークした。後半、攻勢を強めた近江に押し込まれ、47分に途中出場の山本諒に同点弾を決められたが、青森山田は、川原良介が「自分たちは土壇場に強いチーム」と話した通り、動搖しなかった。前がかりになった近江に対して60分にはGKのキックから米谷壮史が2点目を奪取。70分にも3点目を加えた青森山田が3-1で勝利し、2大会ぶり4度目の日本一を成し遂げた。

就任1年目にしてチームを2冠に導いた正木昌宣監督は「選手たちは大舞台でも緊張することなく、今まで積み上げてきたハードワークと、良い守備から良い攻撃を90分間徹底してくれた。頑張ってくれた選手に感謝したい」と喜びを口にした。



決勝で青森山田に先制点をもたらした福島健太(写真中央)。思い切りよく右足を振り抜き、強烈なシュートを決めた



近江の金山耀太(写真右)は決勝でも神出鬼没な動きで攻撃のアクセントに。チームの得点をアシストした



決勝では2得点に絡む活躍を見せた青森山田の杉本英吾(写真左)。サイド攻撃の急先鋒として存在感を示した

第32回全日本大学女子サッカー選手権大会

【大会概要】

2023年12月24日～2024年1月6日に開催。全国9地域から選出された23チームと、前回大会優勝の所属地域(関東)から選ばれた1チームの計24チームが参加し、ノックアウト方式で対戦する。90分で勝敗が決しない場合、準々決勝まではPK戦で、準決勝と決勝は20分の延長戦を行い、それでもなお決しない場合はPK戦で勝者を決定する。



山梨学院大学が逆転勝利で初優勝！

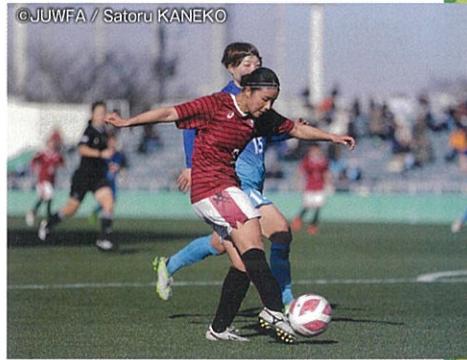
第32回全日本大学女子サッカー選手権大会が2023年12月24日から2024年1月6日にかけて開催され、24チームがノックアウト方式で対戦した。今大会は高円宮記念JFA夢フィールド(千葉県)と大阪府の3会場(J-GREEN堺、ヤンマースタジアム長居、ヨドコウ桜スタジアム)で準々決勝までを行い、準決勝以降は味の素フィールド西が丘(東京都)で開催された。

1回戦では、創部1年目ながら北信越予選で準優勝して初出場した新潟経営大学(北信越2／新潟)が、福岡大学(九州2／福岡)を相手に善戦。スコアレスのままPK戦にもつれ込んだが、惜しくも3-5で敗れた。同じく初出場の十文字学園女子大学(関東7／東京)は追手門学院大学(関西4／大阪)と対戦し、大槻美生の2得点などで3-0と勝利。2回戦でも周南公立大学(中国1／山口)を4-0で下すなど快進撃を見せた。

過去18回の優勝を誇る日本体育大学(関東5／神奈川)は、帝京平成大学(関東3／千葉)との準々決勝を1-2で落とし、ベスト8で姿を消した。1年前の決勝と同カードとなった山梨学院大学(関東1／山梨)と東洋大学(関東4／群馬)の準決勝は、伊藤琴音の2得点などで山梨学院大が勝利。連覇を狙った東

洋大は無念の敗退となった。

2年ぶりの優勝を目指す早稲田大学(関東2／東京)と初優勝を狙う山梨学院大の決勝は、2-2で延長戦に突入。山梨学院大の大住六花が95分に決めたミドルシュートが決勝点となり、山梨学院大が3-2で逆転勝利を収めた。予選に参加したチームも含め全77チームの頂点に立った山梨学院大の村上裕子監督は「早稲田との試合は先制されたことが多いので、それも想定していた」と話し、後半にFKを決めた大会MVPの嶋田華も「決勝が楽しくて先制されても動搖はなかった」と笑顔を見せた。三菱重工浦和レッズレディースへの加入が決まっている早稲田大の後藤若葉は「勝ち切れずに悔しいが、浦和でも多くを吸収して学べば、なでしこジャパンにもつながるはず」と話し、次の舞台での飛躍を誓った。



決勝戦、早稲田大は2度のリードを奪ったが勝利はならず(写真は2点目を決めた三谷和華奈)



大会連覇を目指した東洋大は十文字学園女子大との準々決勝を制してベスト4進出。準決勝では山梨学院大に3点先取される展開に(写真は準々決勝)



山梨学院大(ユニフォーム青)と明治国際医療大(ユニフォームエンジ)の準々決勝は、明治国際医療大が6分に先制したが山梨学院大が巻き返して4-2と逆転勝利



2-2で迎えた決勝の延長戦。山梨学院大の大住六花が決勝ゴールを挙げる

第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会



【大会概要】

2023年12月30日から2024年1月7日までの期間、三木総合防災公園や五色台運動公園、ノエビアスタジアム神戸など兵庫県内9会場で開催。全国9地域から選出された32チームがノックアウト方式で戦う。試合時間は準々決勝まで80分(40分ハーフ)、準決勝以降は90分(45分ハーフ)で行い、勝敗が決しない場合はPK戦を実施。3位決定戦は行わない。



藤枝順心高校が2大会連続 7度目の日本一に輝く!

全日本高等学校女子サッカー選手権大会は、次の第33回大会から出場チーム数が拡大される。地域代表制として最後となる今大会は、女子ユース年代の成長を感じさせる大会となつた。

1回戦、初出場にして全国初勝利を挙げたのは高知学園高知高校(四国2／高知)だった。11大会連続出場の開志学園JSC高等部(北信越3／新潟)に先制を許したが、55分からの連続得点で逆転に成功し、2回戦に駒を進めた。その他、出場2度目の高川学園(中国1／山口)が、令和5年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)で4強入りした福井工大附属福井高校(北信越2／福井)に食らいついで1-2とするなど、16試合中8試合が1点差以内の接戦となつた。

2回戦では、暁星国際高校(関東3／千葉)と柳ヶ浦高校(九州4／大分)が躍動し、過去最高となる8強進出を決めた。柳ヶ浦は、準々決勝でも修徳高校(関東1／東京)をPK戦の末に破り、快進撃を続けた。インターハイ優勝の藤枝順心高校(東海1／静岡)を苦しめたのは、2度目の準決勝進出となった大阪学芸高校(関西1／大阪)。大阪学芸も攻守にわたって個々の強さを打ち出し、スコアレスで後半アディショナルタイムを

迎える。しかし、縦パスに抜け出した藤枝順心の藤原凜音のゴールで勝利。藤枝順心が連覇にあと一歩まで迫った。もう一方の準決勝では、十文字高校(関東2／東京)が柳ヶ浦に2-0で勝利した。

前回大会と同じ顔合わせとなった決勝は、藤枝順心が4分に試合を動かす。速い攻撃で相手ゴールを襲い、GKがはじいたボールを久保田真生が蹴り込んだ。前半終了間際にも、自陣からの速攻で追加点。中村翔監督は「いずれも相手の特徴を分析した上で狙っていた形で取れた」と胸を張った。

十文字も工夫を凝らしたセットプレーを披露し、後半も攻勢を強めて臨んだ。しかし、藤枝順心が、交代出場の葛西唯衣の追加点で3-0とし、2大会連続7度目の優勝を決めた。キャプテンの大川和流は「夢見ていた日本一を取れて最高」と、大会連覇と春夏制覇を喜んだ。



決勝ではエースの久保田真生が開始4分でゴールネットを揺らし、チームに勢いを与えた



前回大会は初戦で涙をのんだ暁星国際高校は佐久長聖高校を退けて2回戦へ進んだ



快進撃を続けた柳ヶ浦は初のベスト4進出を果たした



2016年度以来、7大会ぶりの優勝を狙った十文字は攻撃陣が躍動し、決勝まで駆け上がった



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adi

2024 FIFA主要大会 公式試合球

CONEXT24

コネクト 24



JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会



【大会概要】

1月3日から8日、大阪府のJ-GREENで開催。全国9地域の予選を勝ち抜いた16チームがノックアウト方式で戦う。試合時間は90分で勝敗が決しない場合はPK戦を行う(決勝のみ20分の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦で勝者を決める)。2005年4月2日から2011年4月1日生まれの選手が対象で中学生も出場できる。



セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18が 2大会ぶりに女王の座を奪還!

27回目を迎えた今大会は、序盤戦から波乱含みの展開となった。1回戦では、INAC神戸レオントーナ(関西2/兵庫)が、4大会連続でベスト4入りしていた三菱重工浦和レッズレディースユース(関東4/埼玉)を4-2で下し、愛媛FCレディースMIKAN(四国/愛媛)は優勝経験のあるジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18(関東2/千葉)に2-1で勝利した。

準々決勝は、セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18(関西1/大阪)と愛媛がPK戦までもつれる接戦を演じたが、C大阪のGK名和咲香が1本を止めて勝利に貢献。そのほかの3試合では、日テレ・東京ヴェルディメニーナ(関東1/東京)、I神戸、ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ(関東3/神奈川)といった関東・関西勢が無失点勝利を挙げて準決勝に駒を進めた。これにより、ベスト4はWEリーグのアカデミーチームが占めることとなった。

準決勝の第1試合、メニーナが須長穂乃果の29分の先制ゴールを皮切りに3得点を奪い、I神戸に勝利した。第2試合では、ここまで2試合で合計24得点をたたき出していたN相模原と、僅差のゲームを勝ち上がってきたC大阪が対戦。激し

いシーソーゲームを繰り広げたが、C大阪の牧口優花が決勝点を挙げて4-3で決勝進出を決めた。

決勝戦は2大会ぶりにメニーナとC大阪が顔を合わせた。メニーナにとっては連覇を懸けた戦い、一方のC大阪にとってはタイトル奪回を狙った一戦となった。試合は序盤からメニーナが主導権を握る。しかし19分、セットプレーからC大阪に先制点が生まれる。木下日菜子の左CKにファーサイドにいた吉田琉衣が頭で合わせてゴールネットを揺らした。メニーナも、松永未夢や眞城美春が何度もゴールに迫るが、得点を奪うことはできず。連係の取れた守備で1点を守り切ったC大阪が王座を奪還した。キャプテンの中田昌那は、「ハードな練習を重ねてきたおかげで最後まで守備で走ることができた。それが勝因となった」と話し、応援に駆けつけたサポーターと喜びを分かち合った。C大阪は優勝と同時にフェアプレー賞の栄誉に輝いた。



C大阪はGK名和咲香の好セーブも光り、決勝戦は無失点で勝利をたぐり寄せた



序盤戦はまちクラブも上位進出を狙って奮闘。初出場のFC琉球casa ale(ユニフォーム赤)は0-2で初勝利とはならなかった



初戦で優勝経験のある浦和を破ったI神戸だったが、準決勝でメニーナに敗れ、初の決勝進出はならず



中学生主体で大会に臨み、準優勝に輝いたメニーナ。中学1年の伊藤風葵(背番号20)は4試合2得点と活躍

JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会



[大会概要]

1月6日から8日にかけて日環アリーナ栃木で開催。全国から選出された16チームを4チームずつ4グループに分けてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で勝敗を決める。3位決定戦は行わない。

初出場の翼SCレインボー垂井U-15が初優勝を達成!

1次ラウンドは4グループに分かれて行われ、それぞれ3連勝したチームが決勝ラウンド進出を決めた。このうちグループAの翼SCレインボー垂井U-15(東海2／岐阜)とグループBの伊丹FCジュニアユース(関西／兵庫)は、大会初出場ながら1次ラウンドを突破。グループDでは、過去3度の優勝を誇るFCプリンカール安城(東海1／愛知)が、長岡JYFC(北信越1／新潟)や高知中学校(四国2／高知)を抑えて決勝ラウンドに進んだ。

準決勝は、翼SCレインボー垂井と伊丹FCの、初出場同士の対決となり、川上尚馬のゴールで1-0の勝利を収めた翼SCレインボー垂井が決勝進出を果たした。もう一方の準決勝では、プリンカール安城と、Fリーグクラブのアカデミー、マルバ茨城FC U-15(関東1／茨城)が対戦した。こちらも接戦となつたが、試合終了間際の第2ピリオド15分にショートカウンターから伊藤奏風が決勝ゴールを決め、プリンカール安城が1-0で勝利した。

東海代表対決となった決勝、翼SCレインボー垂井がプリンカール安城への対策を講じ、守備のスタートラインをハーフウェーラインに設定して背後のスペースを消す。この戦術で

プリンカール安城の動きを封じ、第1ピリオド3分、中央突破から伊藤真白が先制点を奪う。しかし、プリンカール安城もすぐに1点を返し、第1ピリオドを1-1で折り返す。

両チームは第2ピリオドの立ち上がりにも1点ずつを奪い合う。その後はプリンカール安城がシュートに持ち込む回数を増やしたが、翼SCレインボー垂井のGK高田時歩輝の好守に阻まれて得点を挙げることはできず。残り1分を切ったところで、翼SCレインボー垂井の三輪凱輝がカウンターから決勝ゴールを奪取。プリンカール安城の攻撃を抑え、初出場にして優勝という快挙を成し遂げた。

伊藤隆文監督は、「プリンカールさんを目標にやってきた部分もあったので、全国大会の決勝という舞台で(東海大会決勝の)リベンジができるうれしい」と笑顔で語った。



翼SCレインボー垂井の伊藤真白は大会最多7得点を記録。決勝でもチームを優勝に導く2得点を決めた



前回大会王者のフウガドールすみだウイングスは厳しい戦いが続き、1分け2敗で1次ラウンド敗退となった



3連勝で1次ラウンドを突破した伊丹FCジュニアユース。初出場ながらベスト4に入った



FCプリンカール安城のキャプテンを務めた伊藤奏風は5得点とゴールでもチームをけん引

JFA第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会



[大会概要]

1月7日と8日に日環アリーナ栃木で開催。9地域から選出された9チームを3チームずつ3グループに分けてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームと、2位チームの中で成績上位の1チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で勝敗を決める。3位決定戦は行わない。

十文字中学校が グループ2位から逆転優勝!

1次ラウンドではグループBの京都精華学園中学校(関西／京都)とグループCの八女学院女子フットボールクラブ(九州／福岡)が2連勝で決勝ラウンド進出を決めた。混戦になったのはグループA。前回大会優勝の朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス(東海／愛知)、準優勝の十文字中学校(関東／東京)がそれぞれ1勝して第3節で直接対決を迎える。この一戦はどちらも譲らずスコアレスドローに終わり、得失点差で上回ったラブリッジ名古屋が首位で通過。2位になった十文字中も2位チームの中で最上位になり、準決勝に進んだ。

準決勝では、ラブリッジ名古屋が2分に永谷このはの先制ゴールで1点をリードすると、第2ピリオドでは大量5得点を奪って京都精華学園を突き放し、6-2で勝利した。もう一方の準決勝では十文字中と八女学院女子が対戦。十文字中が根鈴花李のハットトリックを含めた4得点を挙げて決勝へと駒を進めた。頂上決戦は前回大会と同様、ラブリッジ名古屋と十文字中の顔合わせとなった。

決勝では第1ピリオドの終了間際に十文字中がCKの攻撃から上田璃奈の左足シュートで先手を取る。「昨年の決勝で3点

も取られていたので今年は抑えたかった」と十文字中の大滝靖監督が語ったように、その後もGK丹羽なるみを中心に堅守を見せ、ラブリッジ名古屋の攻撃を抑え込む。第2ピリオド5分には、永井美咲がGKと1対1のチャンスを逃さず、追加点を奪取。十文字中が2-0で勝利し、2大会ぶり5度目の日本一に輝いた。

グループ2位から頂点に駆け上がり、前回大会のリベンジを果たした十文字中は、準決勝で1失点を喫したが、それ以外の3試合を無失点に抑えた。GK丹羽は「中学生最後の大会で日本一になれたことは本当にうれしい。でも、準決勝の1失点がなかったら無失点優勝だったので少しだけ悔しい」と、胸に光る金メダルに笑顔を見せた。



好守でチームを支えた十文字中のGK丹羽なるみ。キャプテンとしてもチームをリードした



京都精華学園(ユニフォームピンク)は1次ラウンドを7得点無失点で2大会前に統合してベスト4に進出した



大会初出場の八女学院女子(ユニフォームグレー)は1次ラウンドの2試合ともに1点差のゲームを制して決勝ラウンドへ



前回大会に統合して決勝にたどり着いたラブリッジ名古屋。松田夏芽(写真)はチーム最多の3得点と活躍

バルドラー浦安ラス・ボニータスが 4年連続4度目の栄冠



混戦の上位リーグ争い

2023-2024シーズンの日本女子フットサルリーグは昨年6月17、18日に開幕し、1月28日に幕を閉じた。

チームが参加。セントラル方式での1回戦総当たりリーグ戦（レギュラーシーズン）を行った後、上位6チームと下位5チームによるファイナルシーズンが開催された。

レギュラーシーズンでは、リーグ3連覇中のバルドラーール浦安ラス・ボニー・タスが無敗の快進撃で早々に上位リーグ進出を決める。SWHレディース西宮がそれに続き、アルコ神戸、立川アスレティックFCレディースも最終節を待たずして上位リーグ入りを確定させた。残りの2枠は、フウガドールすみだレディース、アーネジヤ湘南、福井丸岡ラック、エスピローダ北海道イルネーヴェの4チームが最終節まで争う展開となり、得失点差で丸岡、湘南の2チームが上位リーグへ。丸岡にとつては初の上位リーグ進出、湘南は開幕節で昨年王者の浦安に0-9と大敗したが、そこからチームを立て直し、参入1年目ながら上位リーグに食い込んだ。上位リーグ入りを最後まで争ったのみだと北海道のほか、さいたまサイコ、流経大メーナ龍ヶ崎、ミネルバ宇部は下位リーグを戦うことになつた。

**浦安の強さが際立つた
ファイナルシーズン**

レギュラーシーズンで2位と勝ち点5

浦安はレギュラーシーズン10戦全勝(65得点10失点)で首位に立ち、上位リーグでも無敗と強さを発揮。篠井りさ(写真)は最優秀選手賞を受賞



差をつけて首位に立った浦安に対し、上位リーグの5チームは、浦和の早々の優勝決定を阻止すべく臨んだ。それでも、第1節と第2節は、湘南と丸岡が健闘して浦安と接戦を演じるも、浦和が王者の風格を見せて2連勝し、早くも優勝に王手。3戦目は立川と引き分けたものの、残り2戦を残して優勝を決定させた。これまでには浦安と神戸がそれぞれ3度の優勝を飾つてきたが、浦安は4年連続で最多4度目の優勝を達成。すでに優勝が確定して迎えた第4節では、ホームゲームで神戸に快勝して優勝セレモニーに花を添えた。最終節は、ファインアルシーブンを無敗で2位を確定させていた西宮と対戦。両者共に点を取り合いう展開となる。西宮が優位に試合を進めるが、浦安は江口未珂が古巣相手にハットトリックを達成し、浦安が5-4と勝ち越す。一方、西宮は1-1からフィードプレイヤーの網城安奈をGKに置

日本女子フットサルリーグ2023-2024					
ファイナルシーズン上位リーグ					
順位	チーム名	勝ち点	得点	失点	得失点差
1	バルドラー浦安ラス・ボニータス	41	88	25	63
2	SWHレディース西宮	34	82	31	51
3	アルコ神戸	25	62	31	31
4	福井丸岡ラック	22	51	34	17
5	立川アスレティックFCレディース	20	48	23	25
6	アニージャ湘南	19	49	38	11

ファイナルシーズン下位リーグ					
順位	チーム名	勝ち点	得点	失点	得失点差
1	フウガードールすみだレディース	24	58	32	26
2	エスピーラ北海道イルネーヴェ	19	51	46	5
3	さいたまサイコロ	12	31	41	-10
4	流経大メニーナ龍ヶ崎	9	50	84	-34
5	ミネルバ宇部	0	8	193	-185

2025年には、初のFIFA女子フットサルワールドカップが開催されることが決定している。フットサル日本女子代表の座を懸けて、さらに熱を帯びるであろう次のシーズンで選手たちがどのような活躍を見せるのか、注目したい。

してハ「」レーを前進すると
秒で網城がゴールを決め、同点でタイハ
アップ。リーグの頂上決戦にふさわしい
展開で観客を沸かせた。

レギュラーシーズンと上位リーグを通して、浦安以外には負けなしで準優勝に輝いた西宮。江川涼(写真左)が得点王に



スポーツ 夢 実現!! アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

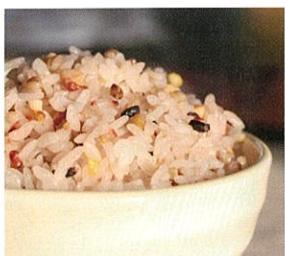
「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に



穀物の力 スポーツ雑穀米

16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



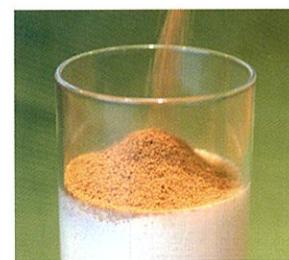
栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	バントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・
運動後のリカバリーに



穀物の力パウダー

16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)	
エネルギー	384kcal
たんぱく質	20.1g
脂 質	6.7g
糖 質	57.2g
食物繊維	7.0g
食塩相当量	0.4g
カリウム	1,600mg
カルシウム	220mg
マグネシウム	190mg
鉄	4.9mg

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3
TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
コチラから →





野々村 芳和 Jリーグチェアマン インタビュー

今年で就任3年目を迎える野々村芳和Jリーグチェアマンに、Jリーグの現状と、今後に向けた展望を聞いた。

○取材日：2024年1月24日

全ての戦略がフットボールの発展につながっている

**本質的なところを理解し
共有することが大事**

— チェアマンとして3年目の
シーズンを迎えます。

野々村 将来、日本のサッカーが伸びていくために必要なことは何か。それを大きなテーマに継続してやってきました。2年目も、そしてこれからも、その文脈に変わりはありません。Jリーグだけがとう話をではなく、日本のサッカーが今後どうなっていくことが必要なのか。その視点を大切にしています。ただ、自分がだけがそうした考えを持つっていても意味がありません。

— さまざまな立場の方とコミュニケーションを取られてきたといふ印象です。

野々村 確かにいろいろな方とたくさんの方と話させていただいた2

年間だったかもしれませんね。日本サッカーとJリーグの将来、例えばシーズン移行についても、これだけ多くの人たちに参加してもらい、長い時間をかけて議論をしたことはなかつたように思います。こ

れは本当に良い時間の使い方でした。チェアマンに就任したときも、「シーズン制について議論することは、みんなで日本サッカーの未来について考えることにつながるので、とても良い時間になると思う」という話をさせていただきました。実際にやつてみて、あらためて大事な時間を持てできたと感じています。

— Jリーグは60クラブまで拡大しましたから、それぞれのクラブの置かれている状況も大きく異なっているように思います。そうした難しさもありますか。

野々村 それぞれのクラブの事情ではなく、もっと本質的なところを理解したり、みんなで共有したりすることが大事だとあらためて感じています。フットボールの発展だけでなく、ビジネスの要素も確実に必要です。世界中のどこでもその傾向があると思いますが、どうしても「フットボール対ビジネス」というコンフリクト(摩擦)が起きてしまう。その二つが理解し合う必要があります。フットボ

— チェアマンにどつても発見がありましたか。

野々村 例えば、(サッカーについて)そこまで深く考えたことがなかつたと話す方が抱かれている素朴な疑問が、僕らが見落としが



ルサイドの人はビジネスサイドのことをもっと理解するべきですし、ビジネスサイドの人はフットボールのことをもっと知るべきでしょ。それぞれの理想を高いレベルで実現しようと思ったときに、目指すところを共有できたりします。その点はこれからも大事にしたいですね。

選手は世界を見据えている Jクラブの経営陣はどうが

——チエアマンは元々フットボーラーですし、北海道コンサドーレ札幌では社長としてビジネスサイドにも立ちましたね。

いたと思います。でも、今は違いますよね。選手はもう世界を見据えているし、世界からも見られるようになっている。その中で、これは自分自身の反省でもあります、」クラブのフロントサイド（経営陣）がどこまで「世界」を意識できていたのか。これは自分も含め、足りなかつたのではないかと感じています。

経営陣のレベルアップも課題

野々村 サッカーのレベルを上げていきたいと思ったときに、そこが

考えています。GMのような役職を担う方がとても大切で、本当にそのポジションに立つ人次第でクラブは変わると思います。これまでもそこが軽視されていたかもしかれません。結果を出したGMは大勢

——サッカーを取り巻く国際的な環境も大きく変化してきて、日本サッカーもそこに巻き込まれている部分があります。

野々村 そこは逆に、もとと巻き込まれなければならないという感覚です。Jリーグが始まってから各クラブもJリーグ自体も、国内でどう安定した運営をしていくかという部分に注力してきました。選手も国内のコンペティションでどう勝つかということに集中して

グローバルな環境で結果を

放映権と移籍金の収入を いかに増やすか

—チエアマンは「リーグとしての成長戦略」を強く打ち出してきました。

野々村 ここからどれだけ成長し

いくのかという部分を含めてですね。10年後のサッカー界はそこで劇的な変化はないかもしませんが、30年後は分からない。イングランドのプレミアリーグをはじめとする欧洲のサッカービジネスが今のような隆盛を維持できていかかどうかも不明です。アメリカの

ントを持つ人をどう増やせるか。10年後、世界の経営規模トップ50の中にJリーグのクラブが入っているようになりたいと思っています。今よりも多くの魅力的な外国籍選手がプレーしたがるリーグにしたいですね。

放映権の収入として考えていいことはどういったことですか。

野々村 ヴィッセル神戸のJ1リーグ初優勝をどうご覧になりましたか。

存在が大きくなつてい
るかもしれないし、も
ちろんアジアの環境も
変わつてゐるでしよう。
予想するのは難しいで
すが、浮き沈みが必ず
ある中で、いかにして自
分たちがアジアでも大
きな存在感を持つリーグ
になつていられるか。
今のJリーグと欧州を
比べたときに、放映権と
移籍金による収入をい
かに増やしていくか
が大きなポイントだと

移籍金による
かに増やして
が大きなポイ
考えています

——そこがまだ足りてない、つまり伸びしろがある部分ということですね。

す。 ブットホールビシ
ネスとして考えたとき、
今はそこが圧倒的に足
りていません。そのた
めにグローバルなマイ
インテンシティーが加
えられる見込める



ります。日本だけではなく、アジアの他の国と一緒にとか、アメリカと一緒にやるといった方向性もあるかもしれません。中東の環境もこれからさらに変わつていきそうですが、いずれにしても、チャンスに乗り遅れるようなことだけは避けたいですね。

— 移籍金収入となると、欧洲に選手を送り出すイメージが強いですが、アジアのリーグ、それこそ中東のリーグも考えられます。

野々村 あると思いますよ。いくらでもチャンスはあります。年間での世界の移籍金総額は、日本円で約1兆2千億円ですが、そのうちJリーグが得ているのは15～25億円程度です。日本人選手は欧洲トップクラスのリーグでも通用するようになっていますから、金額面でもっと評価されています。現状は、うまくやられて（安い移籍金で獲得されて）いるところがあります。逆に言えば、そこに成長の余地があるということです。

リーグの価値を少しでも高める

— 今はJリーグの選手が海外から注目されるようになっていますね。

野々村 優秀な選手の数が増え

ているのは間違いないですからね。

そうやって育つてきた選手を、どうやって適正な場所に適正な価格で出してあげられるかだと思います。

それに、何でもすぐに海外へ行けばいいというものでもないですし、国内でも成長できると選手が感じられるような環境づくりも大切

で、そこはシーズン移行の問題ともリンクします。シーズン半ばに厳しい夏を迎える現行のJリーグでは、どうしてもパフォーマンスは谷型のグラフを描くことになつてしまい、シーズンを通してのインテンシティの基準も低くなりま

す。

— ヨーロッパは山型になると聞きますよね。シーズン半ばにあたる冬にインテンシティが最も高くなると。

野々村 そちらの方がスポーツとして自然ではあります。シーズンが始まつたところからコンディションを徐々に上げていき、シーズンが始まつたところからは疲労もしくなると。

野々村 そちらの方がスポーツとして自然ではあります。シーズン半ばから終盤にかけては疲労もうるさいことがあります。逆に言えば、そこに成長の余地があるということです。

— 移籍金収入を得るという意味でも欧洲のシーズンと合わせる意

味はありますか。

野々村 それも大きいですね。夏の移籍の方が動く金額も大きくあります。移籍金収入の割合が大きくなると、今度は移籍金を得ら

れるような選手を育てようという投資にもつながりますよね。若手の起用もより積極的になると思いますし、それはJリーグだけでなく日本サッカーの発展にも結びつきます。

— 単なるビジネスの話ではない、ということですね。

野々村 全てフットボールの発展につながっています。「また金の話か」と嫌がる方もいらっしゃいます。そこは避けるべきではない。むしろオープンにして、みんなで課題を共有した上で、未来に向けてどうするかを考えいくべきです。

— JリーグYBCルヴァンカップの大会方式も大きく変わりますね。

野々村 上のカテゴリーのチームが下のカテゴリーのチームのホームに赴いて試合をするノックアウト方式の大会に生まれ変わります。これはJ1のクラブがJ2、J3のクラブをどのようにサポートしていくかという時期に入ったと思っています。特にJ3のクラブにとっては、ピッチの上だけでなく運営面でも大きな経験を積み、ノウハウを得る機会になるはずです。

— エンターテインメントとして一発勝負の大会は面白いのですが、

野々村 下位のカテゴリーのクラブにしたいですね。Jリーグだけでなく、子どもたちがサッカーができるような環境を広げていく機会にしたいですね。

し、変えていければと思っています。

— 新しいシーズンのJリーグの注目点も聞かせてください。

野々村 J1、J2、J3が各20クラブになりました。J1を20クラブにした理由は、この国を引っ張っ

て、待しています。

野々村 ありがとうございます。

皆さんはフットボールを通じた仲間です。ファン・サポーターも含めて情報を共有して巻き込んでいなければなりません。皆さんにより楽しんでいただけて、これからも継続していくように努力します。

— 新シーズンのJリーグにも期待しています。



Jリーグには有望な若手がいる。彼らをいかに適正な価格とタイミングで移籍させるかが、今后のクラブとリーグの運営を左右しそうだ



読者プレゼント

応募締切：2024年3月15日(金)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「TIRO L ジムサック」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろうJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。

今号では「サッカー日本代表×絶対に負けられない戦いが、そこにはある×AFCアジアカップ カタール2023」シリーズより、Tシャツ、タオルマフラー、アクリルキーホルダーを各1名様にプレゼント。



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/6e2jy7ERNJkuKEZf8>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスして応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2024年4月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう！

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、イベント情報、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼントをゲット



【今月の配信コンテンツ】

✓ 毎月第2・4水曜日にサッカークイズを更新中！

2月トピックス予定：ビーチサッカー、Jリーグ

✓ アプリ限定動画を配信しています

・SAMURAI BLUE 遠藤航と富安健洋がプレミアリーグを語る
・U-22日本代表 vs U-22アメリカ代表(10月18日)フルマッチなど

✓ 日本代表グッズが当たるプレゼントキャンペーン

●JFA Passportの詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶

<https://www.jfa.jp/jfapassport>



公益財団法人日本サッカー協会機関誌

JFA news

発行人：宮本恒靖

発行所：公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004
東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
TEL.050-2018-1990(代)
URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹
JFAnews編集部／(株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円／本体545円

次号2024年3月情報号は、2024年3月19日発売予定

[特集]

審判員を知る

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購読のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagooods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。



上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>



おいしい 免疫ケア

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

◆
プラズマ
乳酸菌



機能性表示食品 ※免疫の機能性表示食品として届出された日本初の機能性関与成分

おいしい免疫ケア、おいしい免疫ケアカロリー^{オフ} [届出表示] 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。おいしい免疫ケア 睡眠 [届出表示] 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) とGABAが含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。GABAは睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)の向上に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病的診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。

oishii-meneki.kirin.co.jp

キリンビバレッジ株式会社

げんきな免疫
プロジェクト



発行人 宮本恒靖
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒122-0004
東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
電話050(2018)1990(代)



定価600円(本体545円)